

平塚市男女共同参画に関する 市民意識調査報告書

令和2年(2020年)1月

平塚市

目 次

I. 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の方法	1
3 報告書の見方	1
II. 調査結果の概要	2
1 男女平等意識と実態について	2
2 仕事や家庭、地域生活などについて	3
3 ドメスティック・バイオレンス（DV）について	4
4 セクシュアルマイノリティ（LGBT等）について	5
III. 調査結果の詳細	7
1 回答者の属性	7
2 男女平等意識と実態について	13
3 仕事や家庭、地域生活などについて	33
4 ドメスティック・バイオレンス（DV）について	69
5 セクシュアルマイノリティについて（LGBT等）について	81
6 自由回答	91
IV. 調査票	94

I. 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、市民の男女共同参画についての意識や実態を把握することで「ひらつか男女共同参画プラン2017（平成29年度からの7か年計画）」の後期に向けた見直しのための基礎資料を得ることを目的として実施しました。

2 調査の方法

- 調査地域：平塚市全域
- 調査対象者：満18歳から満69歳の男女
- 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- 調査期間：令和元年9月1日（日）～9月30日（月）
- 調査方法：郵送配付、郵送回収及び電子申請システムによる回答、礼状兼督促を1回送付

配付数	回収数	有効回収率
3,000件 (うち戻り8件)	1,134件 (うち有効回収数1,131件、無効3件)	37.8%

3 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、又は回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- 本文中にある前回調査とは、平成27年9月に実施した「平塚市男女共同参画に関する市民意識調査の結果」を指します。
- 経年比較に記載されている数値は、その年度に実施した市民意識調査の結果報告書から引用したものです。

Ⅱ. 調査結果の概要

1 男女平等意識と実態について(問1～問3)

(1) 7分野における男女の地位・立場について(平等感)

- ・ 全体で見ると、「平等である」は、「学校教育の場」が67.7%と最も高く、次に「地域活動」が44.7%、「家庭生活」が35.4%と続き、「社会通念・慣習・しきたり」が13.4%で最も低くなっている。
- ・ 「男性優遇」「どちらかという男性優遇」を合わせた『男性優遇』感は、「政治の場」で80.2%、「社会通念・慣習・しきたり」で79.2%と高くなっており、「学校教育の場」と「地域活動」を除くすべての項目で5割を超えている。
- ・ 性別で見ると、「平等である」は、すべての分野で男性が女性を上回り、特に「政治の場」では男性(24.5%)が女性(8.0%)の約3倍となっている。また、『男性優遇』感は、すべての分野で女性が男性を上回っている。特に女性では40歳代が他の年代に比べて高い。
- ・ 性・年代別で見ると、30歳代男性は、「女性優遇」「どちらかという女性優遇」と感じている割合が、比較的高くなっている。

(2) 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について(固定的な男女の役割分担意識)

- ・ 全体で見ると、「思う」「どちらかという思う」の肯定的な意見は31.7%、「思わない」「どちらかといえば思わない」の否定的な意見は67.0%で、否定的な意見が肯定的な意見の約2倍となっており、前回調査よりも12ポイント上がった。
- ・ 性別で見ても、男女ともに否定的な意見(女性69.7%、男性63.1%)の方が肯定的な意見(女性29.1%、男性35.3%)を上回っているが、肯定的な意見の割合は、女性よりも男性の方が高くなっている。
- ・ 女性の20歳代以下及び男性の30歳代以下の年代で、否定的な意見が7割以上と、若い年代では否定的な意見の割合が高くなっている。

(3) 男女共同参画に関する言葉の認知状況について

- ・ 「男女共同参画社会」という言葉の認知度は全体で5割弱であり、前回調査と比較してもほぼ同程度である。
- ・ 認知度の高い上位5つ「ドメスティック・バイオレンス」、「イクメン」、「マタニティ・ハラスメント」、「ジェンダー」、「育児・介護休業法」を前回調査と比較すると、「ドメスティック・バイオレンス」、「マタニティ・ハラスメント」、「育児・介護休業法」では大きな変化は見られないが、「イクメン」(前回調査では「イクメン・イクボス」)では約15ポイント、「ジェンダー」では約29ポイント高くなっている。

- ・ 比較的新しい言葉である「イクボス」は約 23%で、「ポジティブ・アクション」や「男女共同参画週間」よりも認知度が高くなっている。

2 仕事や家庭、地域生活などについて(問4～問8)

(1) 生活の中での各活動(「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」)の優先度について

- ・ 現状は、全体では「仕事と家庭生活をともに優先」が 27.0%と最も高く、女性では女性全体の 2 番目 (23.5%)、男性では男性全体の 1 番目 (31.9%) となっており、前回調査と比較すると女性では 50 歳代を除くすべての年代において割合が上がっている。
- ・ 女性は 30 歳代以上の年代で「家庭生活を優先」が最も高く、女性全体でも 35.8%と最も高くなっているが、男性では 1 番目が「家庭生活を優先」となった年代はなかった。また、1 番目が「仕事を優先」となったのは、女性では 20 歳代の約 2 割のみで、男性では 30 歳代から 50 歳代で約 3 割から 4 割と男性の割合の方が高くなっている。
- ・ 全体の最も高い優先度を前回調査と比較すると、「家庭を優先」から「仕事と家庭を優先」に入れ替わった。また、3 番目となる「仕事を優先」は、前回調査から約 3 ポイント上がっている。
- ・ 一方、希望では、性別・年代を問わず「仕事を優先」と答えている割合は 1 番目ないし 2 番目に低く、男性でも 10 歳代の 8.3%を除いて 1～3%台となっており、現状と希望の乖離がみられた。
- ・ 男性の 10 歳代、30 歳代及び 50 歳代で「仕事と家庭生活をともに優先」が、20 歳代、40 歳代及び 60 歳代で「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」がそれぞれ最も高くなっており、女性のみならず男性においてもすべての年代で家庭生活も優先していきたいと考える傾向がみられた。

(2) 家庭における役割分担の状況について

- ・ 「家事」、「育児・子育て」、「介護・看護」、「自治会活動等の地域活動」のすべてで、主に担っている割合は女性が男性を上回っており、特に「家事」、「育児・子育て」は男女で 50 ポイント以上の差がある。
- ・ 前回調査と比較して、すべての項目で「主に自分」、「主に配偶者」の割合が減っており、増えているのは、「家事」及び「育児・子育て」では「夫婦同じくらい」、「介護・看護」では「有償サービスの利用」、「自治会活動等の地域活動」では「家族で交代・分担」となっている。

(3) 家庭における役割分担の考え方について

- ・ 「家事」、「育児・子育て」、「介護・看護」、「自治会活動等の地域活動」のすべての項目で、「夫婦同じくらい」の割合が最も高い。特に「育児・子育て」では、約 6 割を超えている。一方「家事」は 4 割強となっている。

(4) 生活の中で各活動に費やしている時間について

- ・ 仕事や学校のある日、休みの日・仕事や学校のない日のいずれも、「家事」及び「育児・子育て」に費やす時間は、男性よりも女性の方が長くなっている。
- ・ 仕事や学校のある日でみると、「家事」及び「育児・子育て」に費やす時間は、いずれも女性が男性の約5倍長くなっている。一方、休みの日・仕事や学校のない日でみると、「家事」の時間は女性が男性の約2倍、「育児・子育て」の時間では、1.5倍長くなっており、休みの日・仕事や学校のない日では、特に「育児・子育て」の時間の差は小さくなっている。
- ・ 共働き世帯でも、学校や仕事のある日の「家事」及び「育児・子育て」に費やす時間は、男性は約1時間だが、女性は約5時間と女性が大きく上回っている。
- ・ 6歳未満の子どもを持つ共働き世帯でみると、学校や仕事のある日の「家事」及び「育児・子育て」に費やす時間は、男性は3時間弱だが、女性は7時間弱と、夫婦の働き方に関わらず、これらの役割が女性に偏っていることが分かる。

(5) 仕事と子育て・家庭生活を両立するために、行政や企業においてあればよいと思う支援について

<長時間労働の抑制について>

- ・ 「定時退社の推奨」、「時間外労働削減のための対策」がいずれも約6割と高くなっている。

<年次有給休暇の取得促進について>

- ・ 「有給休暇取得の奨励」が約8割で、「半日単位での有給休暇取得が可能」の約2倍となっている。

<制度の整備について>

- ・ 「介護休業制度の充実」、「育児休業制度の充実」が約6割で、次いで「再雇用制度」が約5割となっている。

<子育て支援等について>

- ・ 「認可保育所・認定こども園の増加」、「育児休業・介護休業中の賃金その他経済的補償の充実」がいずれも5割を超えている。

3 ドメスティック・バイオレンス(DV)について(問9～問12)

(1) 配偶者やパートナー等の間での暴力と思われる行為の認知度について

- ・ 「思う」の中では、「殴るふりをして脅す、刃物などを突き付けて脅す」の96.2%が最も高く、「携帯電話・メール・手紙などを勝手に見る」の69.9%が最も低くなっている。
- ・ 経年比較をしている5項目「平手で打つ」、「大声でどなる」、「相手の交友関係や電話を必要以上に監視する」、「家に生活費を入れない」、「相手が嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」の平均値でみると、今回調査が86.0%で前回調査の84.0%から2ポイント上がった。
- ・ また、「暴力だと思わない」割合を性別でみると、「大切にしているものをわざと壊す・

捨てる」を除くすべての項目で、男性が女性を上回っている。

(2) 配偶者やパートナー等から暴力にあたる行為を「した」または「された」経験について

- ・ 「大声でどなる」は「した」が 13.8%、「された」が 20.2%でいずれも最も高くなっており、また、すべての項目において、女性の方が「された」経験の割合が高くなっている。
- ・ 暴力を「された」経験について、経年比較をしている5項目「平手で打つ」、「大声でどなる」、「相手の交友関係や電話を必要以上に監視する」、「家に生活費を入れない」、「相手が嫌がっているのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」の平均値でみると、今回調査が 6.4%で前回調査の 5.1%から約 1 ポイント上昇した。
- ・ また、暴力を「した」経験の割合を性別にみると、「大切にしているものをわざと壊す・捨てる」、「相手の交友関係や電話を必要以上に監視する」、「携帯電話・メール・手紙などを勝手に見る」、「避妊に協力しない・妊娠中絶を強要する」の項目で、わずかに女性が男性を上回る結果となった。

(3) 配偶者やパートナー等からの暴力についての相談窓口の認知度について

- ・ 「警察」が 64.3%と最も高く、次いで、平塚市役所で開設している「女性のための相談窓口」は 32.1%で、女性だけでみると 40.7%となっている。
- ・ 性別でみると、どこか一つでも相談できる場所を知っている割合は、女性が上回っており、相談できる場所を知らない割合は、男性が上回っている。

(4) 「DV相談窓口のご案内」カードの認知度について

- ・ 女性の認知度は 4 割を超えており、平塚市役所で開設している「女性のための相談窓口」の認知度とほぼ変わらない結果であった。特に 40 歳代女性では 6 割を超えている。

4 セクシュアルマイノリティ(LGBT等)について(問 13～問 18)

(1) セクシュアルマイノリティ(LGBT等)という言葉の認知状況

- ・ 「言葉も意味も知っていた」割合は 7 割弱で、性・年代別にみても、60 歳代男性を除いて約 6～8 割となっている。

(2) 身体の性・心の性、性的指向に悩んだ経験

- ・ 身体の性・心の性、性的指向に悩んだ経験がある人の割合は、全体で 3.9%となっており、年代別にみると 10 歳代が最も高く、以降徐々に低くなっている。

(3) セクシュアルマイノリティ(LGBT等)の人にとって、生活しづらい社会だと思うか。「思う」場合の理由

- ・ 「思う」が 4 割弱で、「どちらかといえば思う」の 5 割弱と合わせると 8 割を超えている。
- ・ 選ばれた理由の上位 5 つ「家族や友人等に相談しづらい状況にあるから」、「いじめや差

別を受けているから」、「性別で区分された設備を使いづらいから」、「法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受けているから」「自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されるから」は、すべて5割を超えている。

(4) セクシュアルマイノリティ(LGBT等)の人に対する偏見や差別をなくし、生活しやすくなるために必要な対策

- ・ 「児童・生徒に対する教育の充実」が最も高く、次いで「誰もが働きやすい職場環境づくりの取り組み」、「偏見や差別解消等を目的とする法律や条例等の整備」となっており、いずれも6割を超えている。また、「行政職員や小中高校などの教職員に対する研修の実施」が5割強となっている。

(5) 「同性パートナーシップ制度」の必要性について

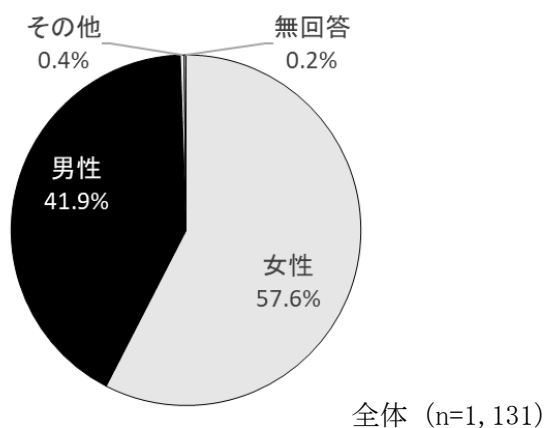
- ・ 「思う」、「どちらかといえば思う」の肯定的な意見の割合は8割弱で、「思わない」「どちらかといえば思わない」の否定的な意見の割合は2割弱となっている。
- ・ 否定的な意見の割合は、年代が上がるにつれて高くなっている。

Ⅲ. 調査結果の詳細

1 回答者の属性

① 性別

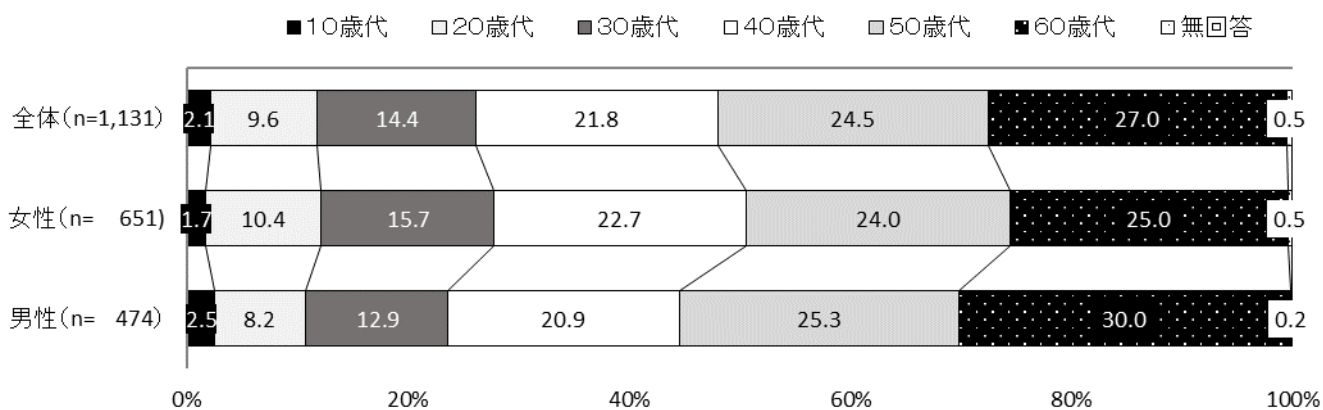
性別については、「女性」が57.6%、「男性」が41.9%となっています。



② 年齢

年齢については、「60歳代」が27.0%と最も高く、次いで「50歳代」が24.5%、「40歳代」が21.8%となっており、50歳代以上が半数以上を占めています。

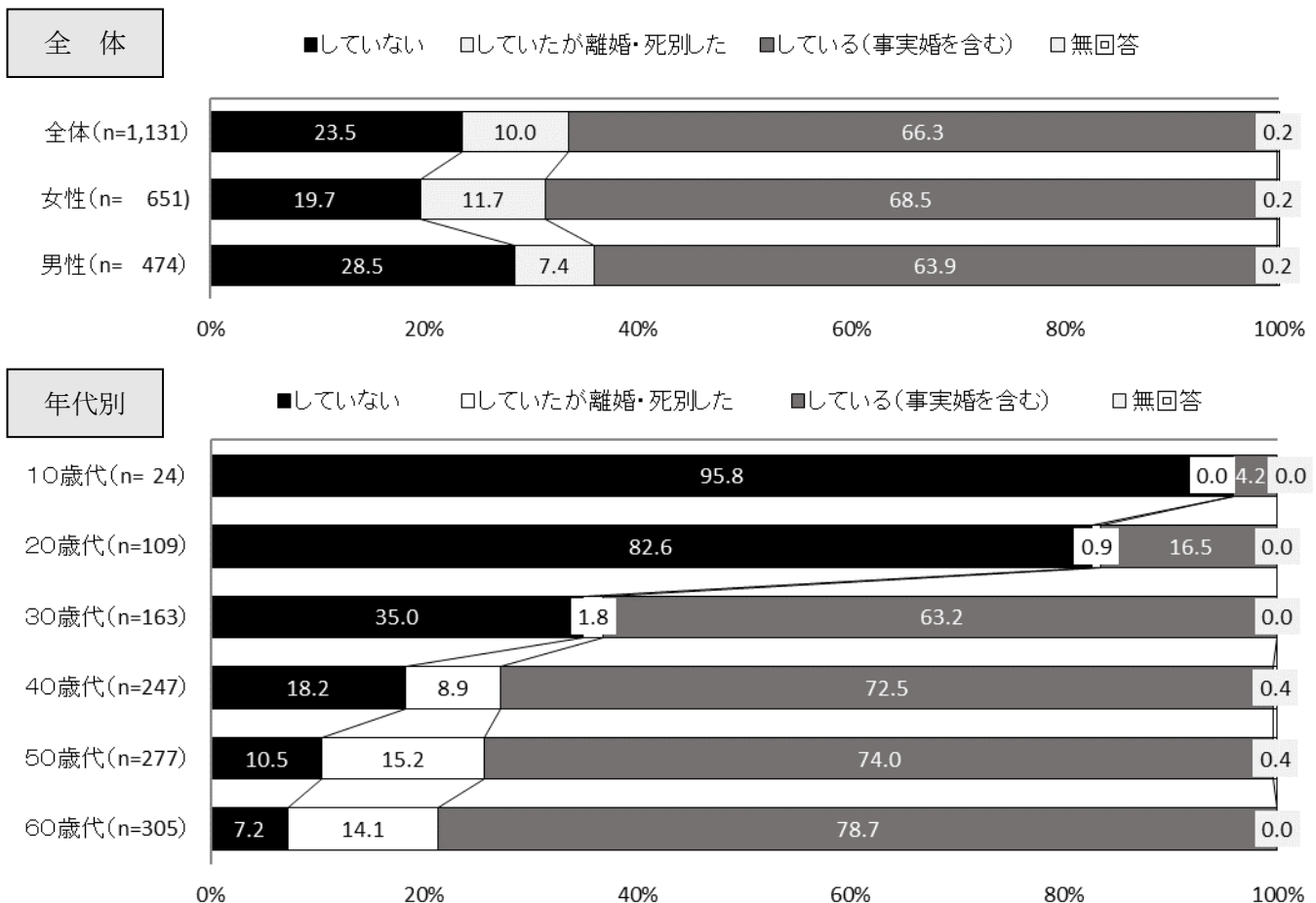
性別にみても、全体の傾向とほぼ同様となっています。



③ 結婚

婚姻の状況については、「している（事実婚を含む）」が66.3%、「していない」が23.5%となっています。

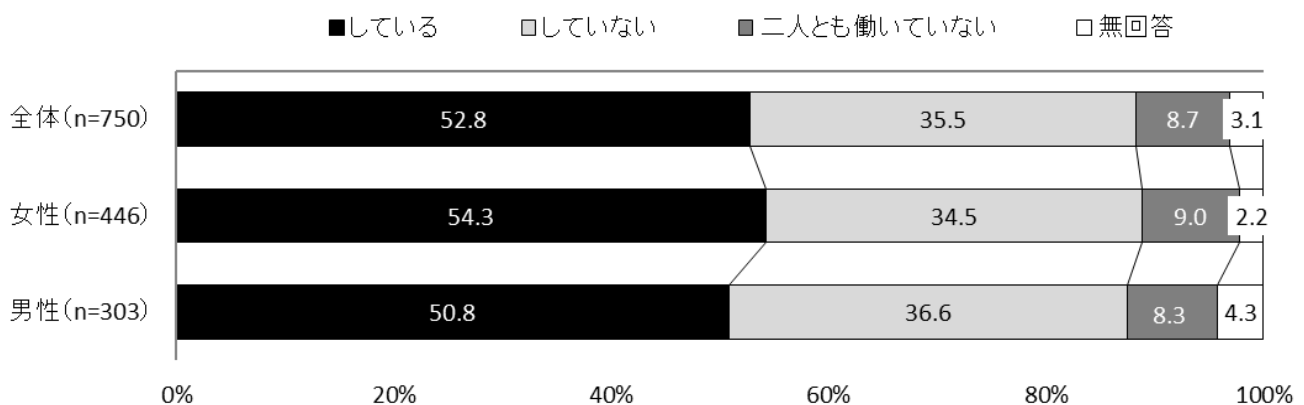
年代別にみると、「している（事実婚を含む）」は20歳代が16.5%ですが、30歳代は63.2%、40歳代以降は7割を超えています。



【共働きの状況】

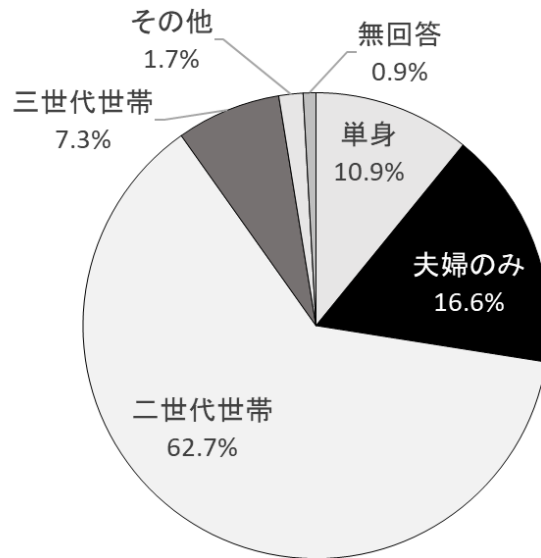
共働きの状況については、「している」が52.8%、「していない」が35.5%で、「している」が「していない」を上回っています。

性別にみても、全体の傾向とほぼ同様となっています。



④ 世帯構成

世帯構成については、「二世帯世帯（親と子）」が62.7%と最も高く、次いで「夫婦のみ（事実婚を含む）」が16.6%となっています。



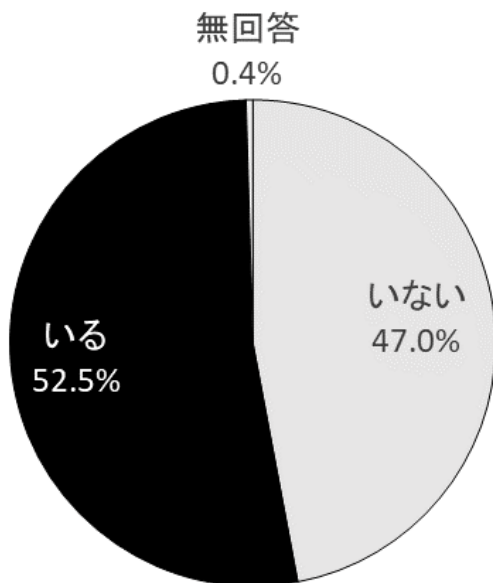
全体 (n=1,131)

⑤ 子ども

同居している子どもの有無については、「いる」が52.5%、「いない」が47.0%で、「いる」が「いない」を上回っています。

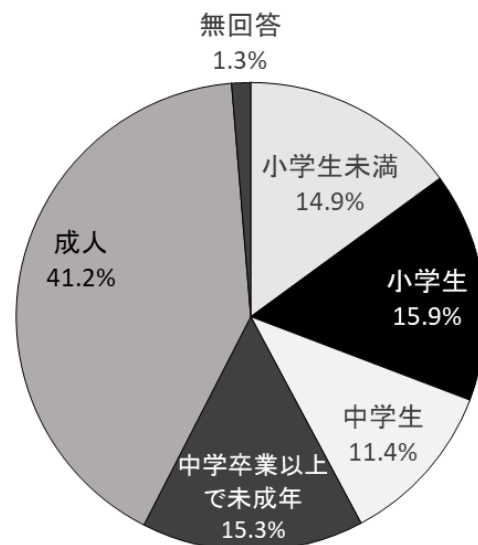
また、同居している子どもの年齢については、成人未満（「小学生未満」から「中学卒業以上で未成年」の合計）が57.5%となっています。

（同居している子どもの有無）



全体 (n=1,131)

（同居している子どもの年齢）（複数回答）

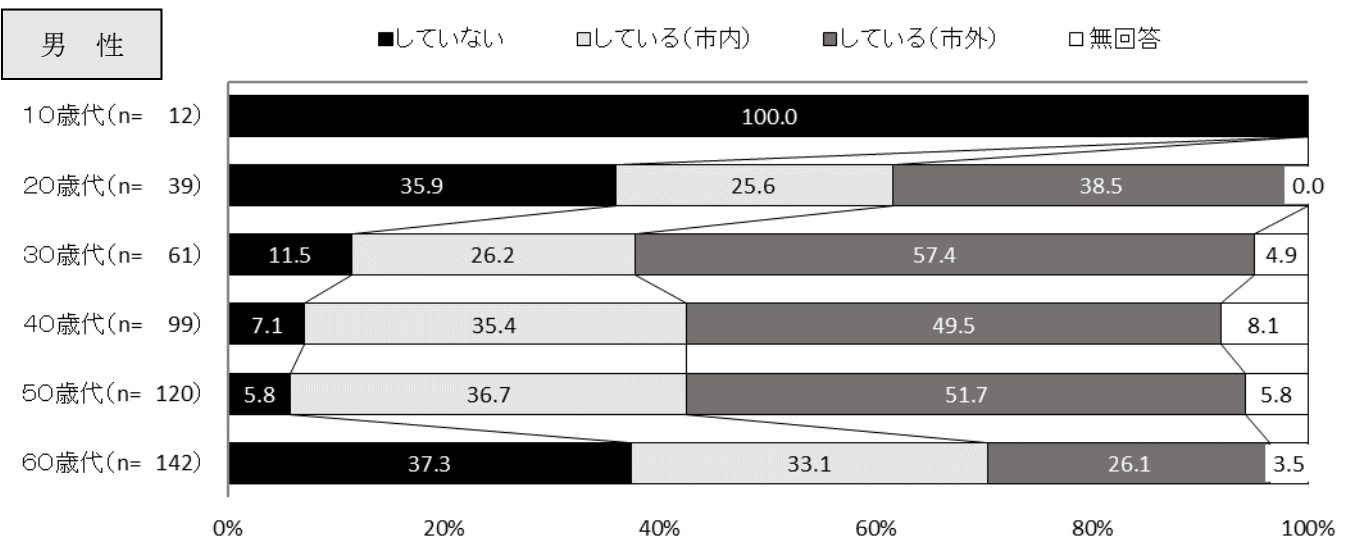
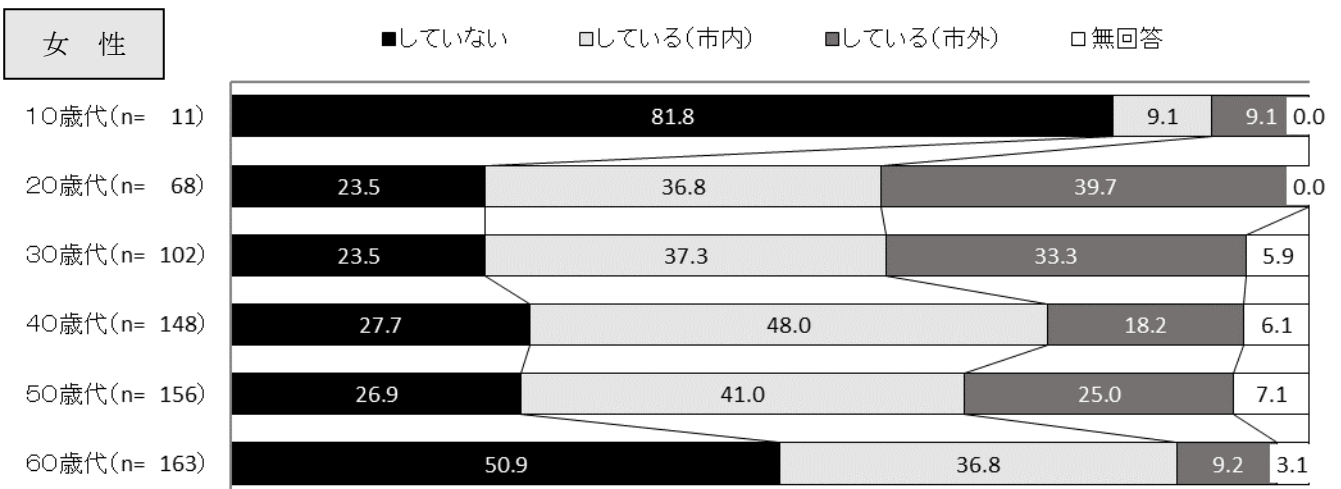
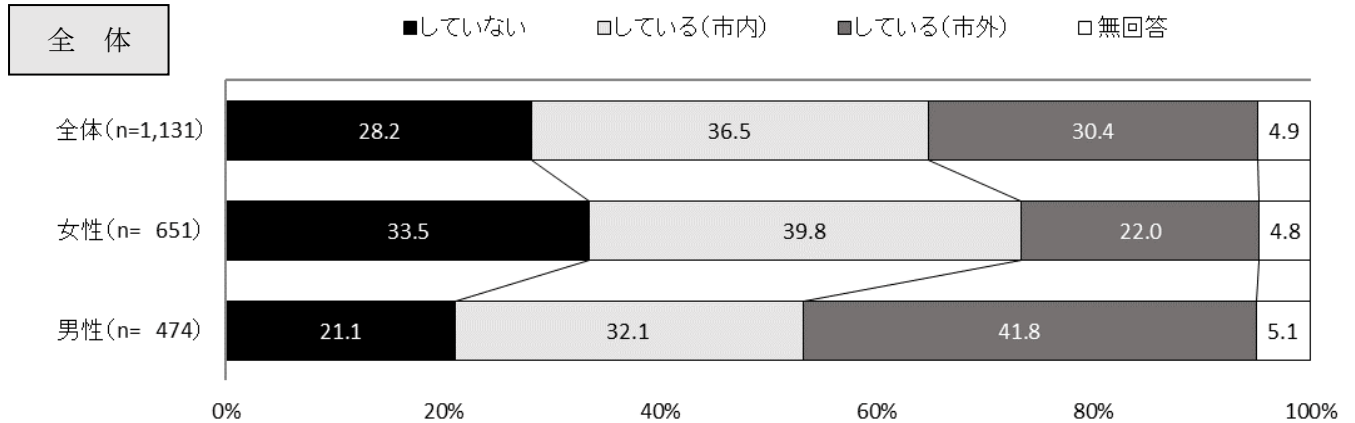


全体 (n=734)

⑥ 就業

就業の状況については、「していない」が28.2%、「している」が66.9%、そのうち市内就業が36.5%、市外就業が30.4%となっています。

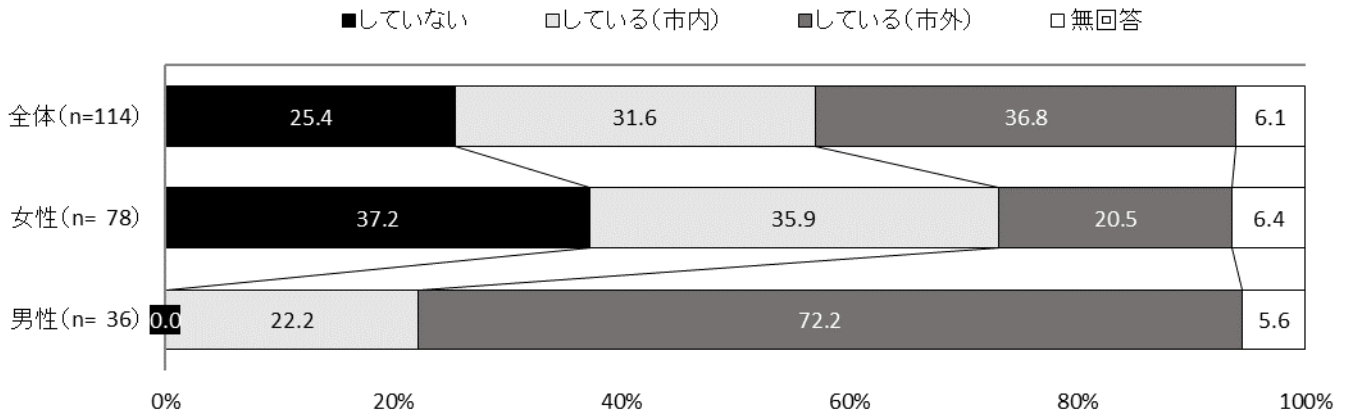
性・年代別にみると、女性では40歳代から50歳代で「している(市内)」が4割を超えており、60歳代で「していない」が約5割と高くなっています。また、男性では「している(市外)」は30歳代の57.4%が最も高く、40歳代及び50歳代でも5割前後となっています。



【小学校入学前の子どもがいる人の就業状況】

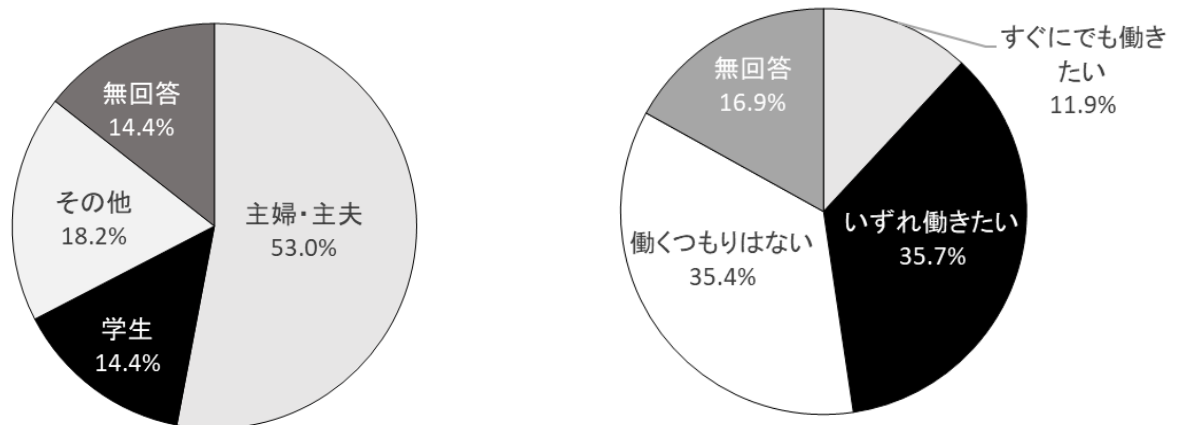
小学校入学前の子どもがいる人の就業状況については、「している」が 68.4%で、そのうち市内就労が 31.6%、市外就労が 36.8%となっています。

性別にみると、女性は「している」が 56.4%で、そのうち市内就労が 35.9%、市外就労が 20.5%、男性は「している」が 94.4%で、そのうち市内就労が 22.2%、市外就労が 72.2%となっています。



【就業していない人の状況】

就業していない人の状況については、「主婦・主夫」が 53.0%と最も高くなっています。また、今後の就業希望については、「いずれ働きたい」が 35.7%と最も高く、「すぐにでも働きたい」の 11.9%と合わせた、5割弱（47.6%）の人が就業することを希望しています。



全体 (n=319)

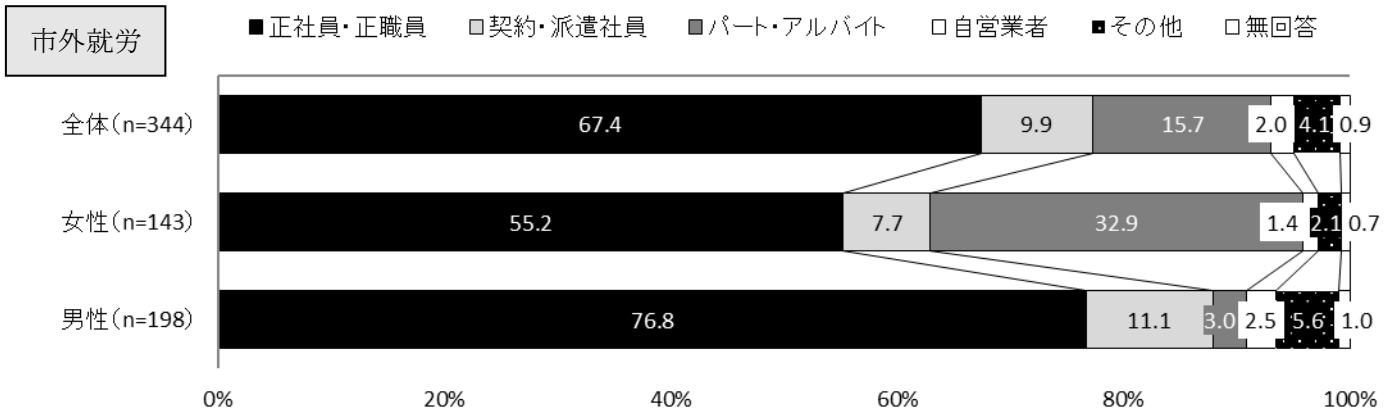
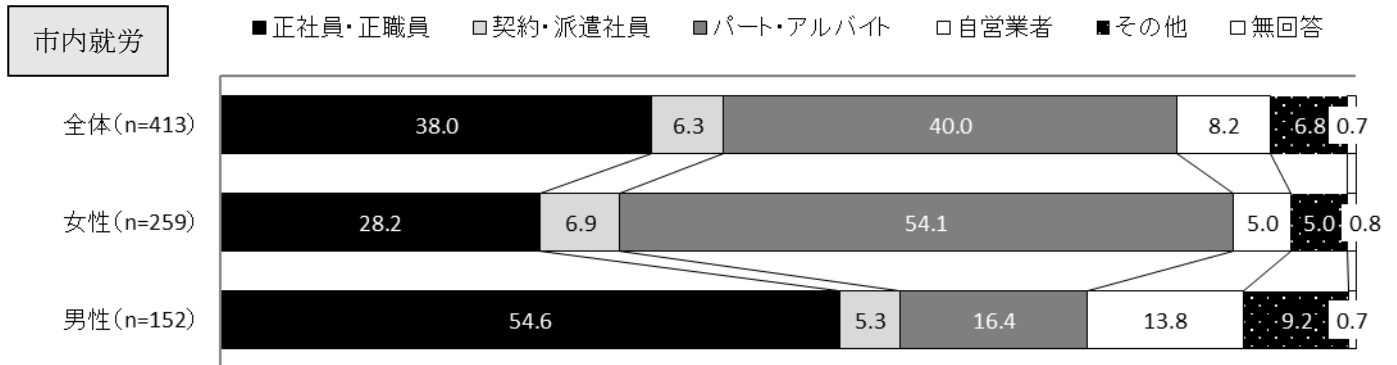
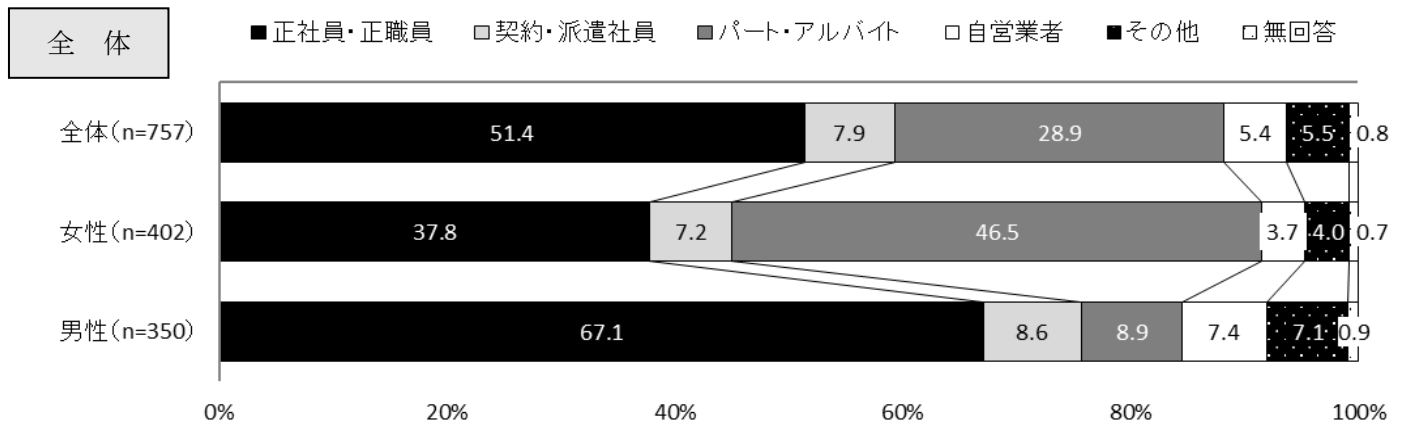
全体 (n=319)

【就業形態】

就業形態については、「正社員・正職員」が51.4%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」が28.9%となっています。

性別にみると、女性では「パート・アルバイト」が46.5%、男性では「正社員・正職員」が67.1%と最も高くなっています。

就労状況別にみると、市内就労では、女性は、「パート・アルバイト」が54.1%、男性は、「正社員・正職員」が54.6%と最も高くなっています。市外就労では、女性・男性ともに、「正社員・正職員」がそれぞれ55.2%、76.8%と最も高くなっています。



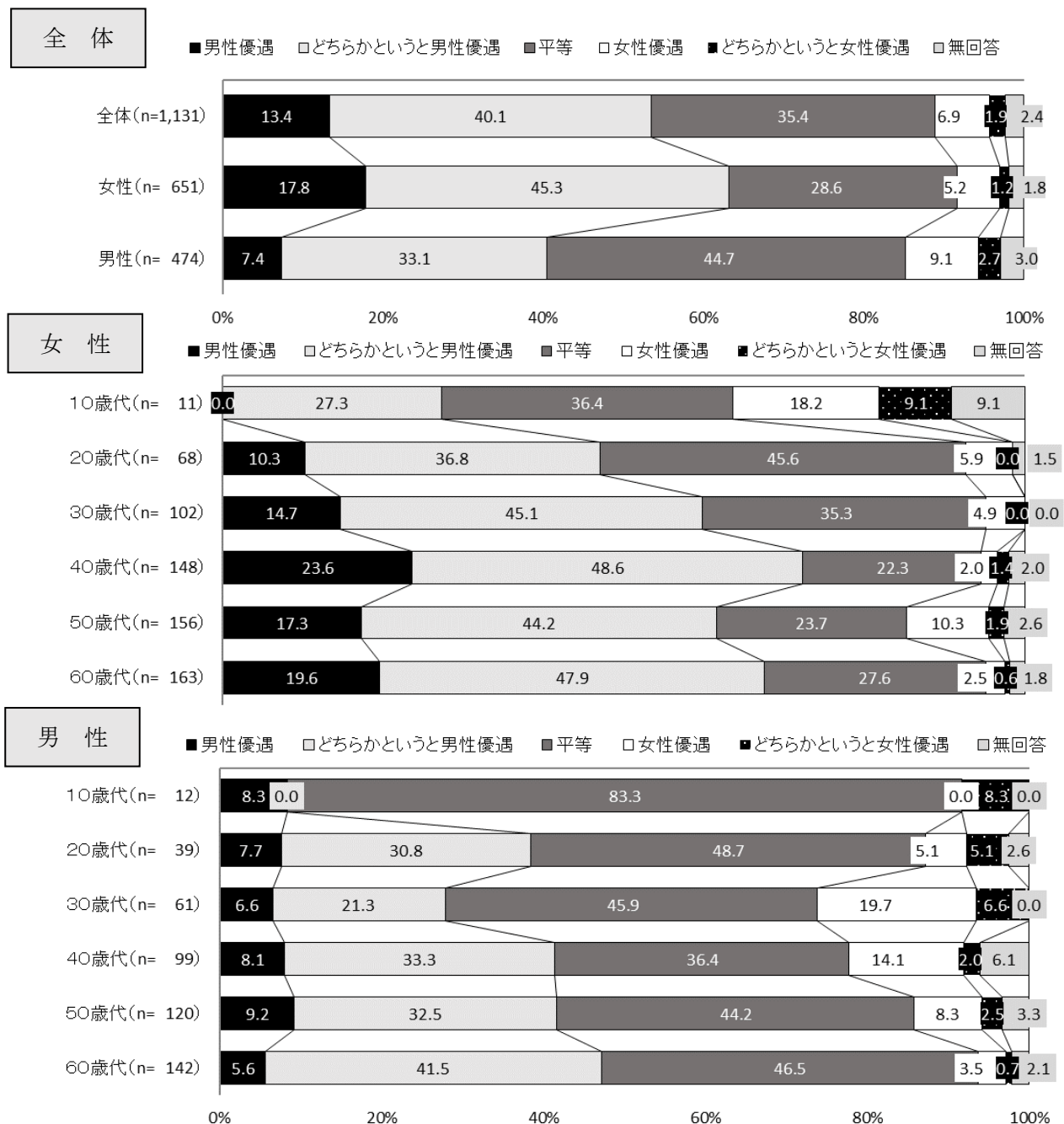
2 男女平等意識と実態について

問1 あなたは次の分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。①～⑦の項目ごとに1つずつ選んでください。

① 家庭生活

家庭生活における男女の平等感については、「どちらかというと男性が優遇されている」が40.1%と最も高くなっており、「平等である」の35.4%を上回りました。

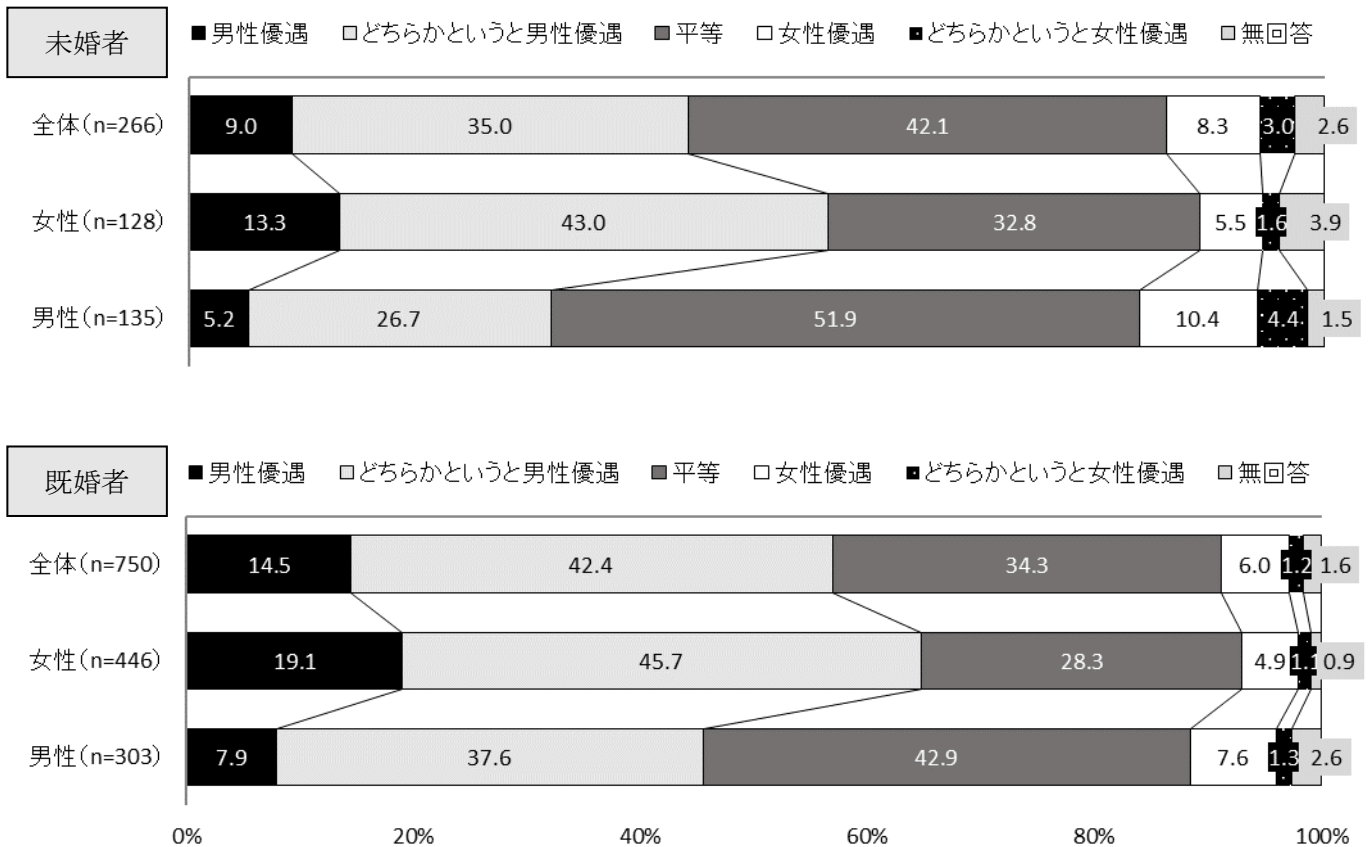
性・年代別にみると、男性よりも女性で『男性優遇』感（「男性優遇」と「どちらかというと男性が優遇されている」を合わせたもの）が高い傾向が見られ、女性63.1%、男性40.5%と、女性の方が約23ポイント高くなっています。特に女性の40歳代から60歳代では6割を超えています。また、すべての年代で男性の方が「平等である」の割合が高くなっています。



【未婚者・既婚者別の状況】

未婚者・既婚者別にみると『男性優遇』感について、女性は、未婚者 56.3%、既婚者 64.8%と既婚者が約9ポイント高くなっています。一方、男性においても、未婚者 31.9%、既婚者 45.5%と既婚者が約14ポイント高くなっています。

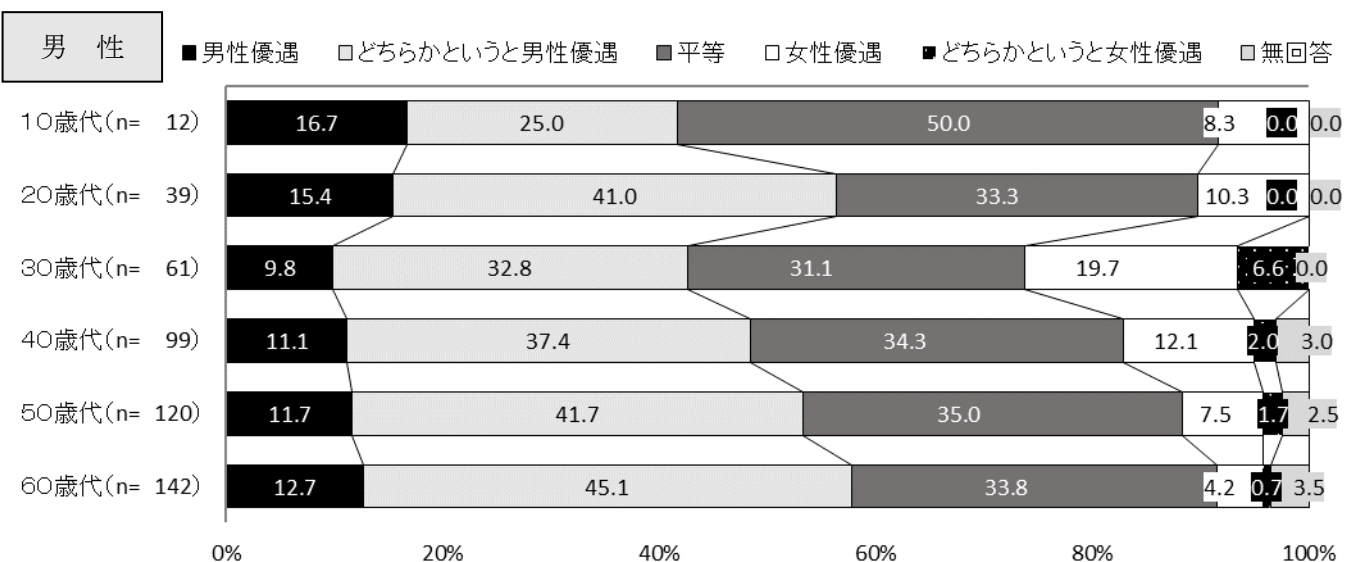
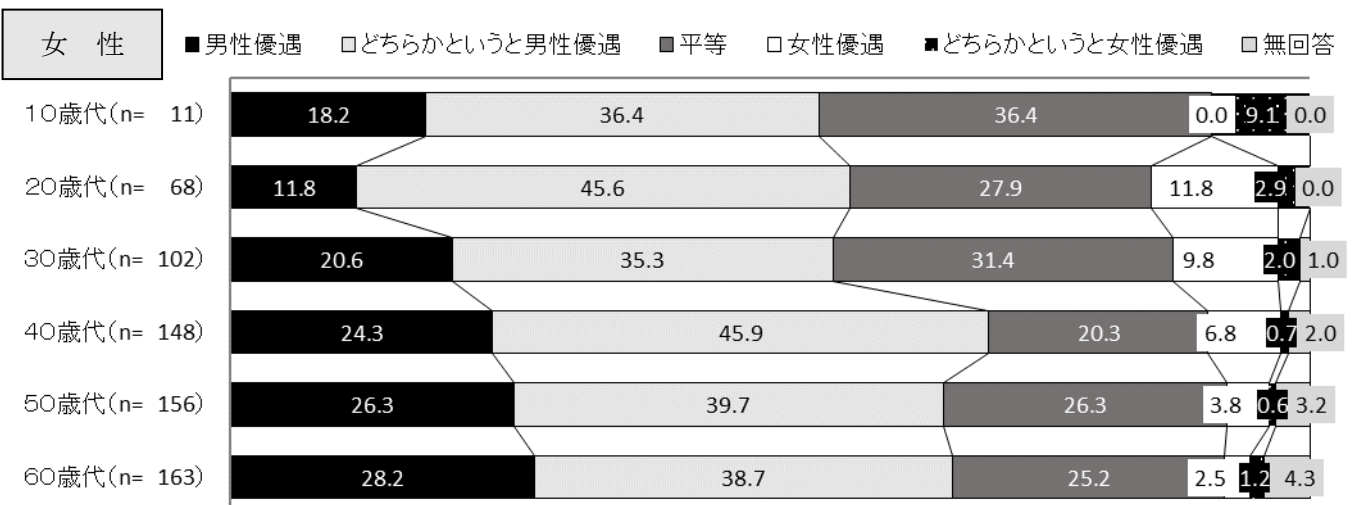
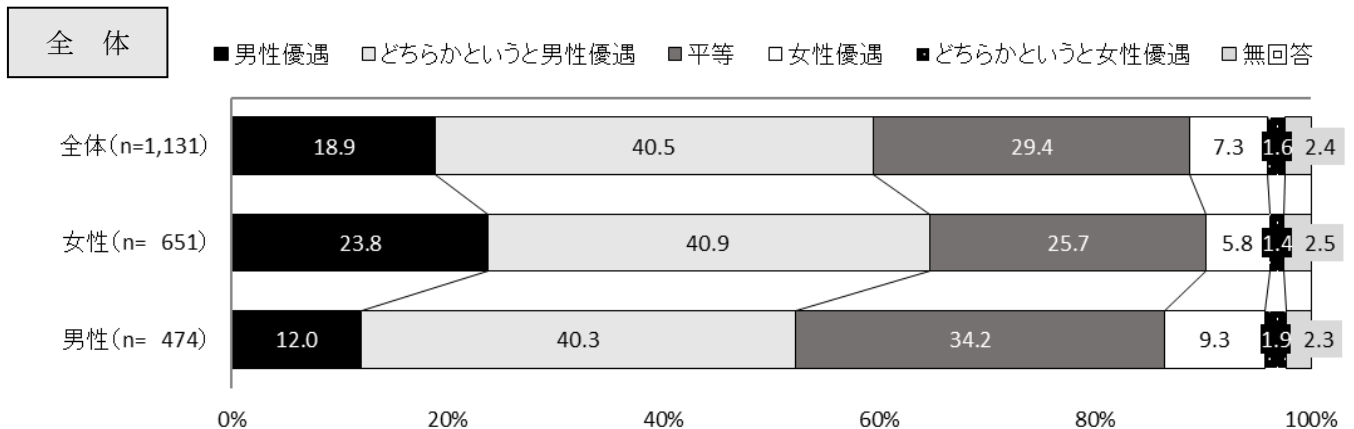
『男性優遇』感、『女性優遇』感（「女性優遇」と「どちらかという女性が優遇されている」を合わせたもの）、「平等である」を比較すると、未婚者の男性は「平等である」の割合が高く、5割を超えており、それ以外は『男性優遇』感が高くなっています。



② 職場

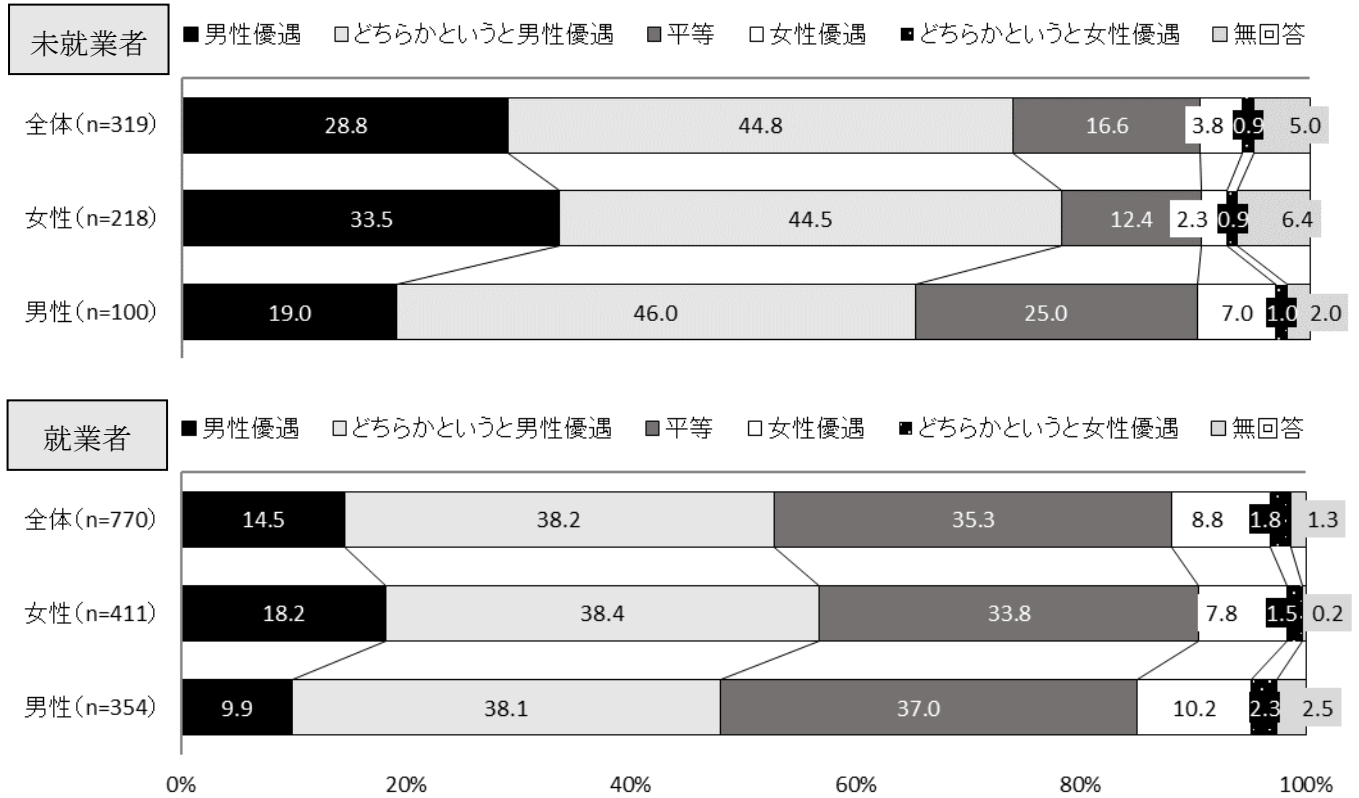
職場における男女の平等感については、「どちらかというとも男性の方が優遇されている」が40.5%と最も高く、『男性優遇』感は59.4%となっています。

性・年代別にみると、男性よりも女性で『男性優遇』感が高い傾向が見られ、女性64.7%、男性52.3%と女性の方が約12ポイント高くなっています。特に女性の40歳代から60歳代では7割前後となっています。また、『女性優遇』感は、男性の30歳代が26.3%と、他の年代よりも高くなっています。



【未就業者・就業者別の状況】

未就業者・就業者別にみると『男性優遇』感について、就業の有無に関わらず高い傾向は同じですが、就業者の方が未就業者より男女とも低くなっています。女性は未就業者 78.0%、就業者 56.6%と就業者が約 21 ポイント低く、男性においても、未就業者 65.0%、就業者 48.0%と就業者が 17 ポイント低くなっています。



③ 学校教育の場

学校教育の場における男女の平等感については、「平等である」が67.7%と最も高くなっています。

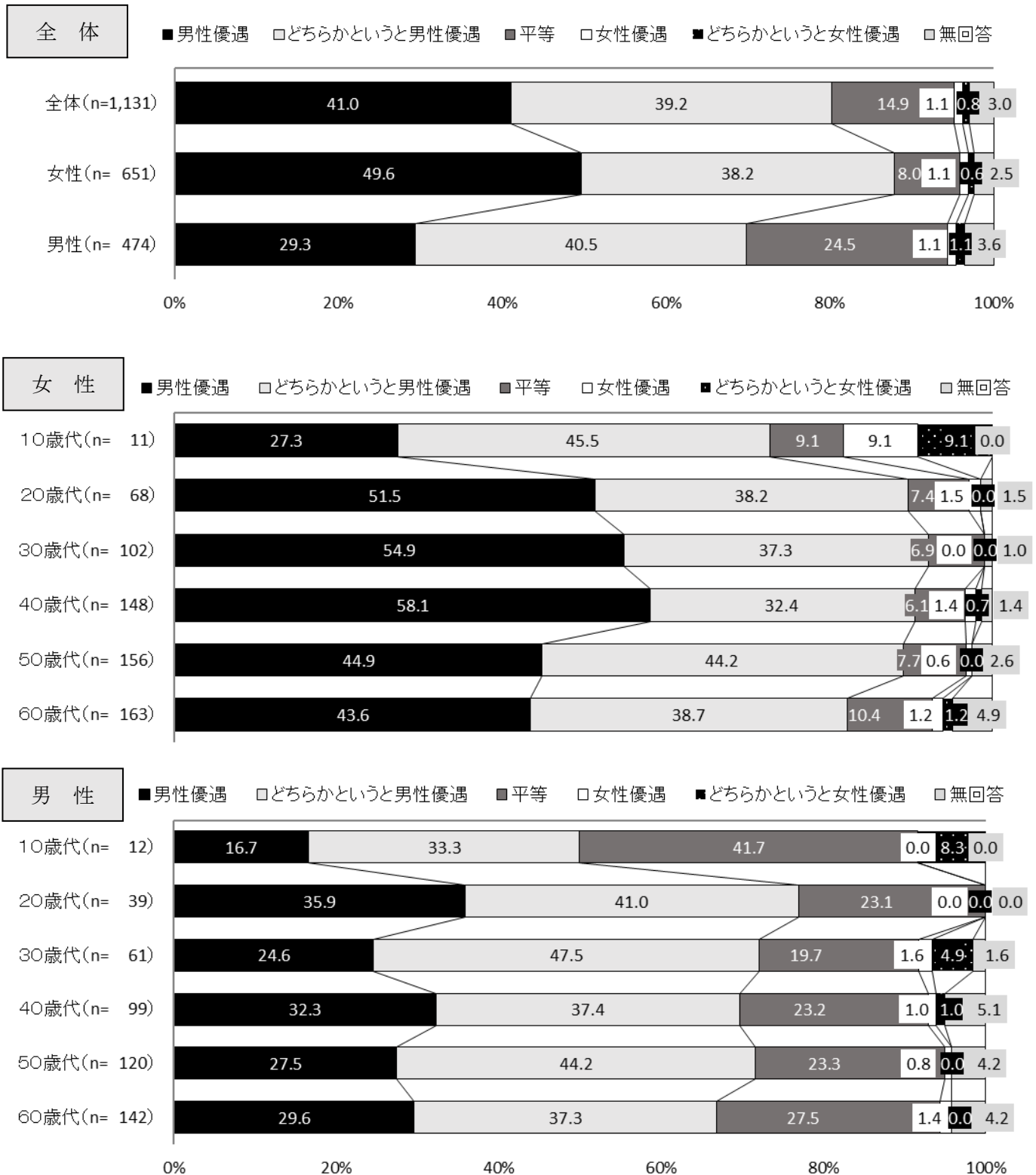
性・年代別にみても、全体的な傾向とおおむね同様となっています。



④ 政治の場

政治の場における男女の平等感については、「男性優遇」が41.0%と最も高く、『男性優遇』感
は80.2%となっています。

性・年代別にみると、男性よりも女性で『男性優遇』感が高い傾向がみられ、特に女性の20歳
代から50歳代では9割前後となっています。また、「平等である」と感じている女性の割合は8.0%
と設問7項目のうち最も低くなっています。

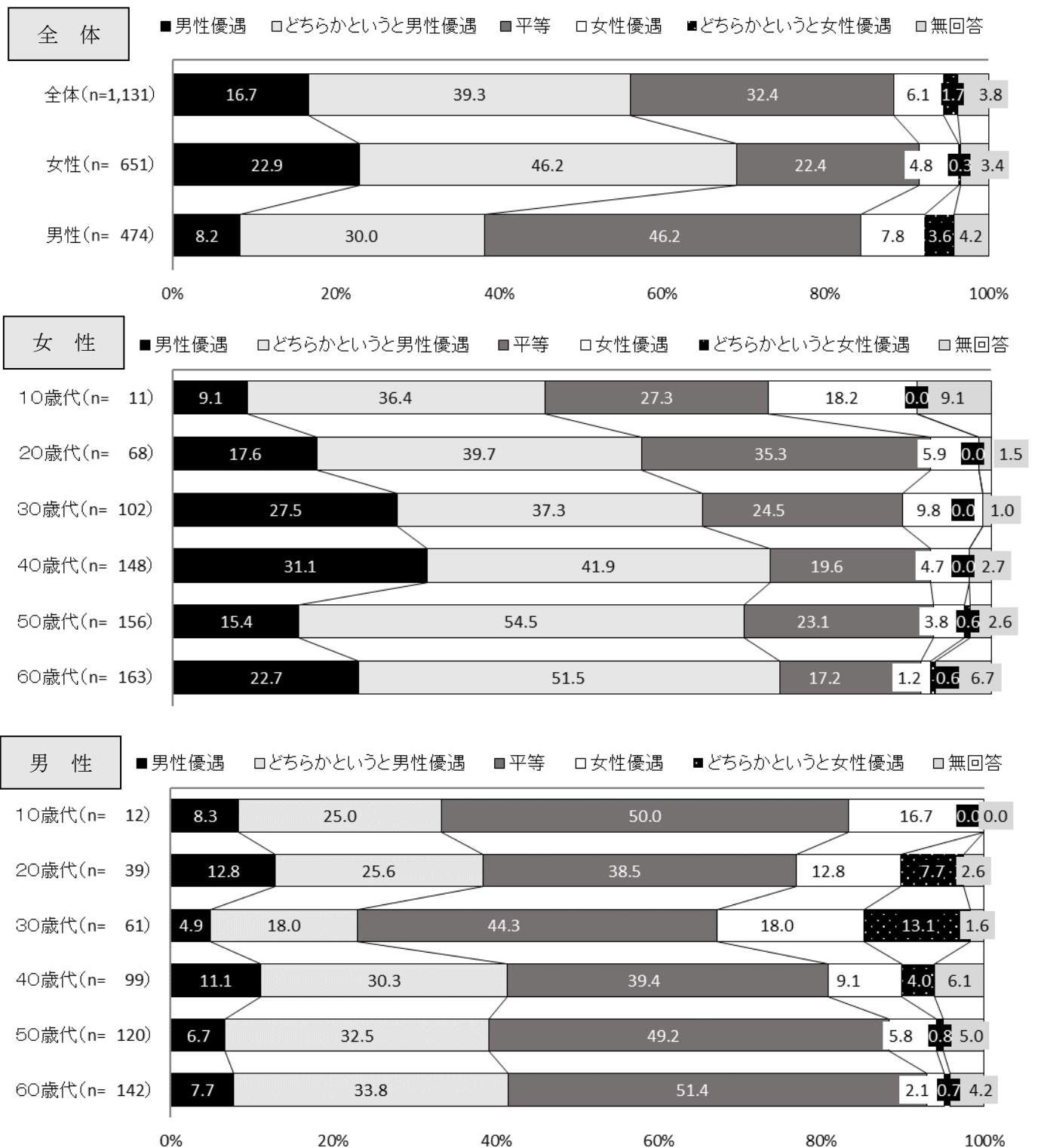


⑤ 法律や制度上

法律や制度上の男女の平等感については、「どちらかというとも男性の方が優遇されている」が39.3%と最も高く、次いで「平等である」が32.4%となっています。

性・年代別にみると、男性よりも女性で『男性優遇』感が高い傾向が見られ、女性69.1%、男性38.2%と約31ポイント女性が高く、設問7項目のうち最も男女差が大きく、特に30歳代以上でその差が顕著になっています。

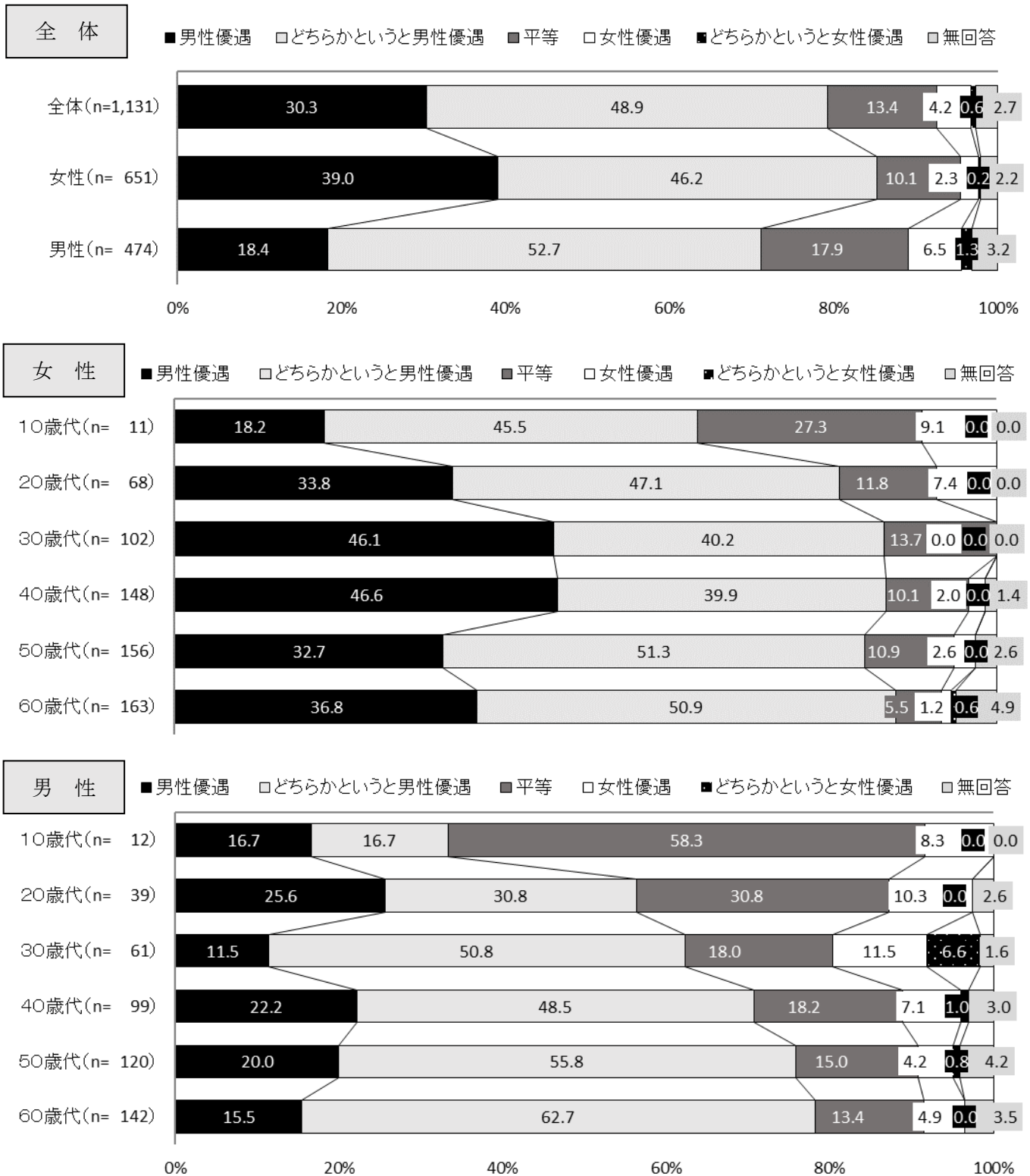
男性は「平等である」が最も高く46.2%となっています。また、『女性優遇』感は男性の30歳代が3割を超えており、他の年代よりも高くなっています。



⑥ 社会通念・慣習・しきたり

社会通念・慣習・しきたりの男女の平等感については、「どちらかというと男性の方が優遇されている」が48.9%と最も高く、『男性優遇』感は79.2%となっています。

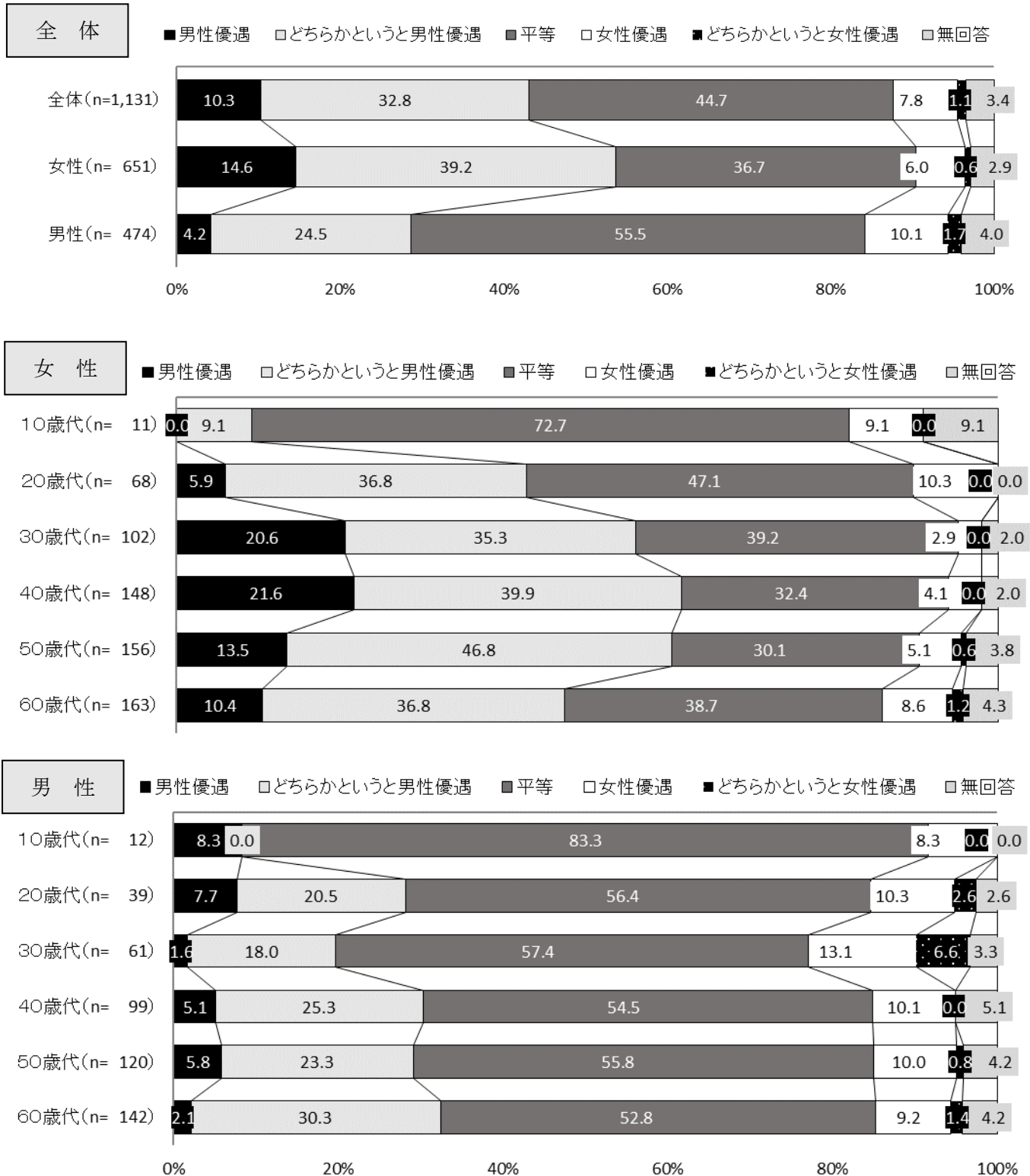
性・年代別にみると、『男性優遇』感は、男性よりも女性で高い傾向がみられ、若い年代ほどその差が大きく、また男性は年代が上がるにつれて割合が高くなっています。女性は20歳代から60歳代で8割を超えており、男性は40歳代以降で7割を超えています。



⑦ 地域活動（自治会・PTA・ボランティア活動など）

地域活動における男女の平等感については、「平等である」が44.7%と最も高く、次いで「どちらかというと男性優遇」が32.8%となっています。

性・年代別にみると、女性は「どちらかといえば男性優遇」が39.2%、男性は「平等である」が55.5%で最も高くなっています。また、若い年代では男女ともに「平等である」が高い傾向がみられ、特に男性は10歳代が83.3%と最も高く、全ての年代で5割を超えています。



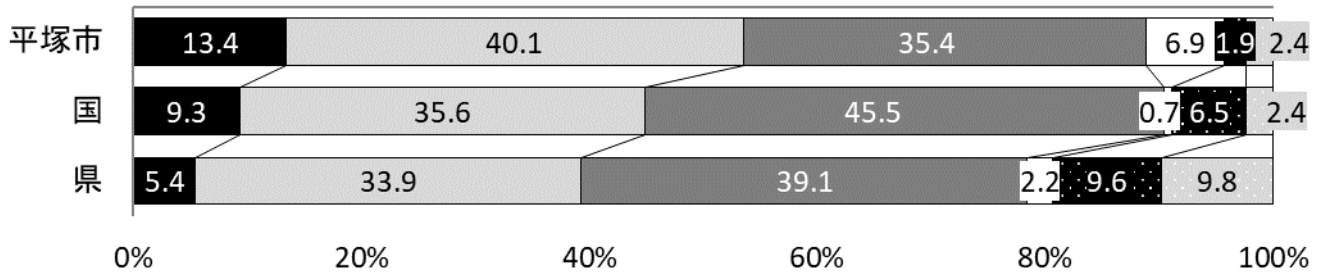
他調査との比較

令和元年度に国が実施した調査と比較すると、『男性優遇』感は、すべての項目において、平塚市が国を上回りました。一方、『女性優遇』感においては、「⑦地域活動」を除いて、平塚市が国を上回りました。また、「③学校教育の場」における「平等である」の割合は、国の 61.2%に対して、平塚市は 67.7%と約 7ポイント高くなっています。「①家庭生活」について、「男性優遇」は市が約 4ポイント高く、「平等」は国が 10ポイント高くなっています。

平成 28 年度に神奈川県が実施した調査（7項目中、「④政治の場」、「⑤法律や制度上」を除く 5項目が該当）と比較すると、『男性優遇』感は、すべて平塚市が神奈川県を上回りました。

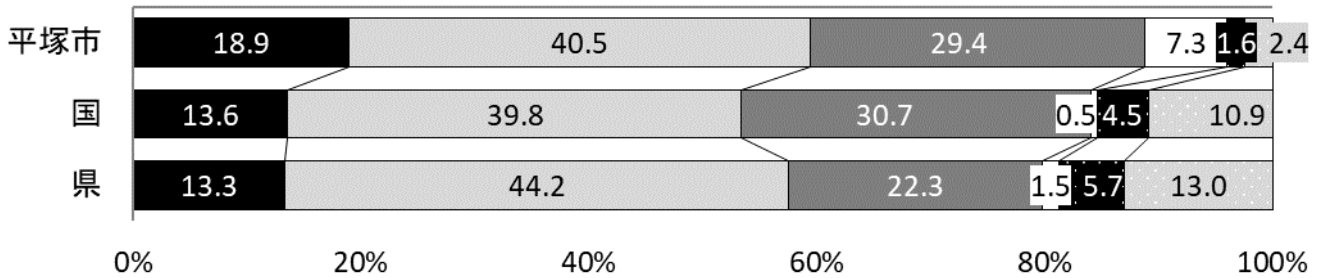
① 家庭生活

■ 男性優遇 □ どちらかという男性優遇 ■ 平等 □ 女性優遇 ■ どちらかという女性優遇 □ 無回答等



② 職場

■ 男性優遇 □ どちらかという男性優遇 ■ 平等 □ 女性優遇 ■ どちらかという女性優遇 □ 無回答等



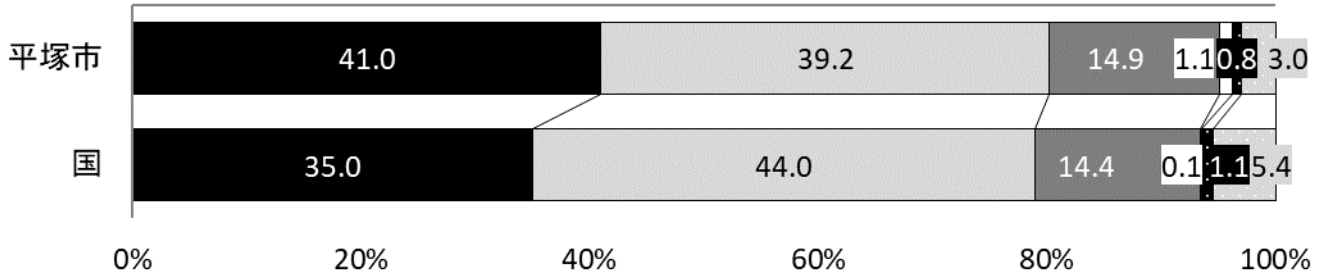
③ 学校教育の場

■ 男性優遇 □ どちらかという男性優遇 ■ 平等 □ 女性優遇 ■ どちらかという女性優遇 □ 無回答等



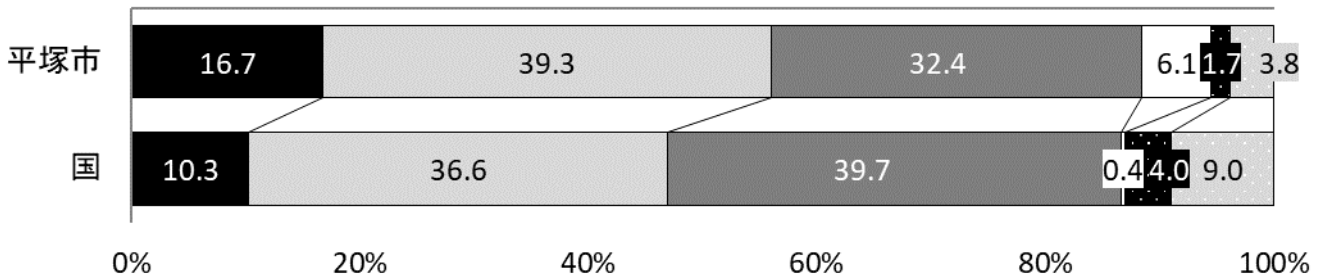
④ 政治の場

■ 男性優遇 □ どちらかという男性優遇 ■ 平等 □ 女性優遇 ■ どちらかという女性優遇 □ 無回答等



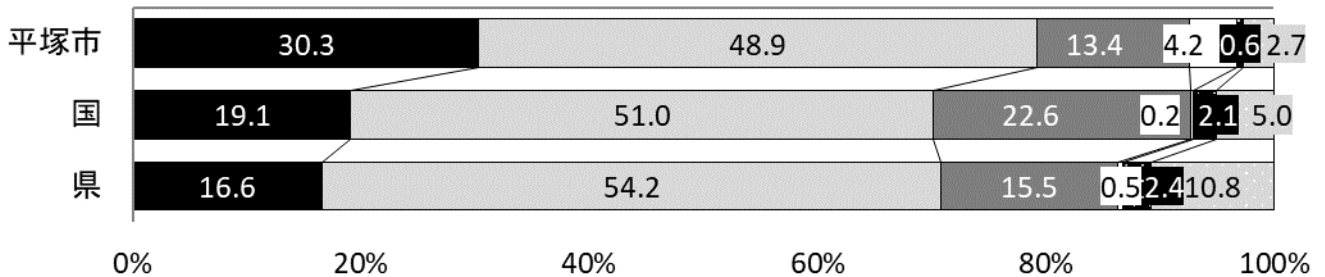
⑤ 法律や制度上

■ 男性優遇 □ どちらかという男性優遇 ■ 平等 □ 女性優遇 ■ どちらかという女性優遇 □ 無回答等



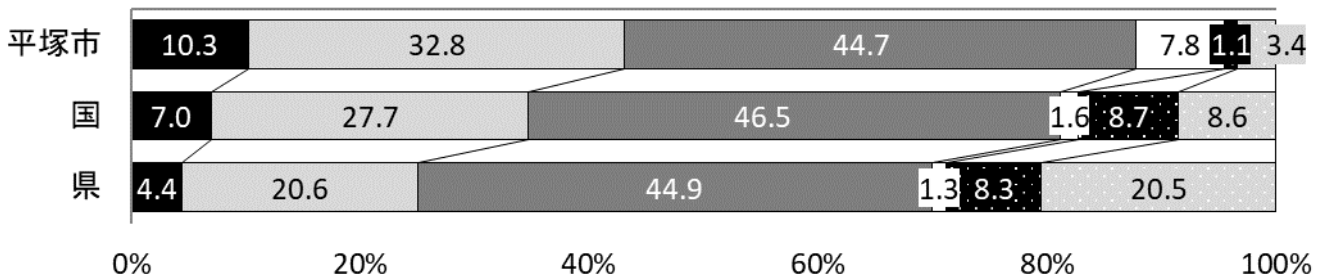
⑥ 社会通念・慣習・しきたり

■ 男性優遇 □ どちらかという男性優遇 ■ 平等 □ 女性優遇 ■ どちらかという女性優遇 □ 無回答等



⑦ 地域活動（自治会・PTA・ボランティア活動など）

■ 男性優遇 □ どちらかという男性優遇 ■ 平等 □ 女性優遇 ■ どちらかという女性優遇 □ 無回答等



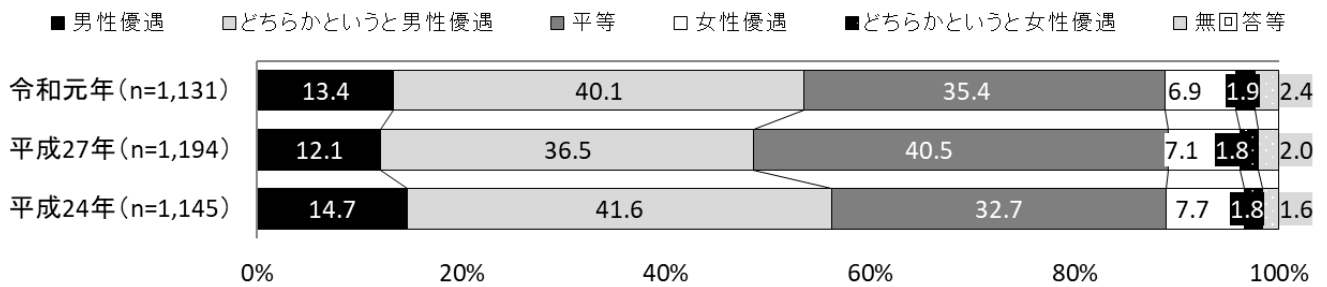
資料：内閣府「男女共同参画に関する世論調査」（令和元年度）
 神奈川県「県民ニーズ調査（課題調査）」（平成28年度）

経年比較

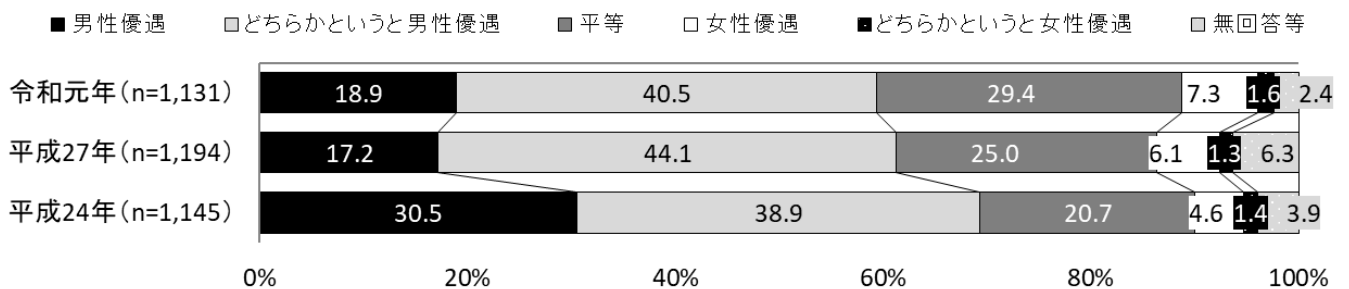
過去に実施した調査と比較すると、『男性優遇』感の割合は、平成24年度から27年度において、「⑤法律や制度上」を除いて一旦下がりましたが、今回の調査では、「②職場」を除いて再び上がっています。

「②職場」の『男性優遇』感は、平成24年度の69.4%から、61.3%、59.4%と徐々に下がる一方、「平等である」は徐々に上がっています。「⑤法律や制度上」の『男性優遇』感は、平成24年度の47.0%から、52.0%、56.0%と徐々に上がっています。

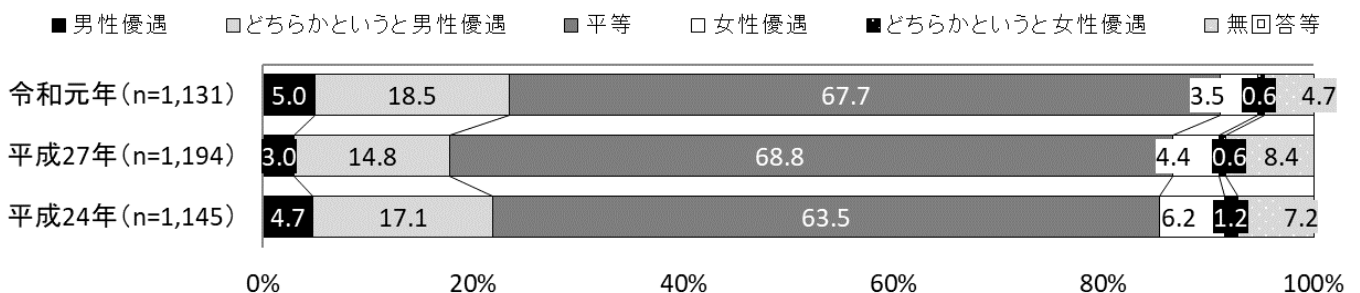
① 家庭生活



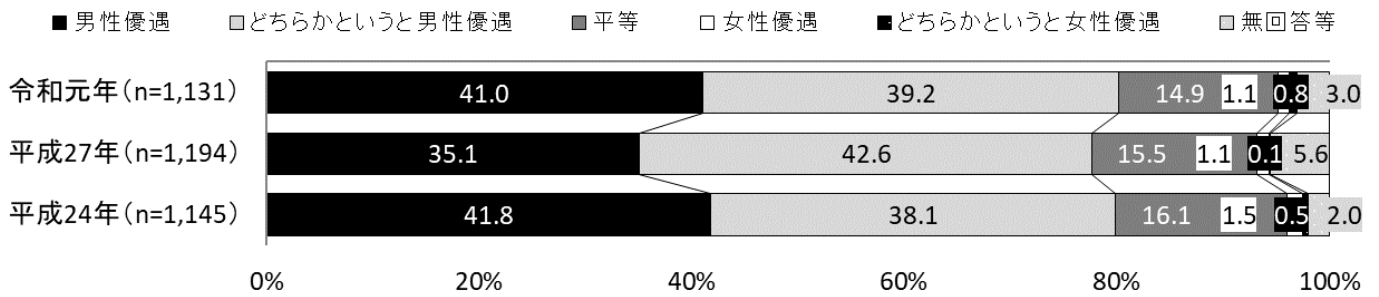
② 職場



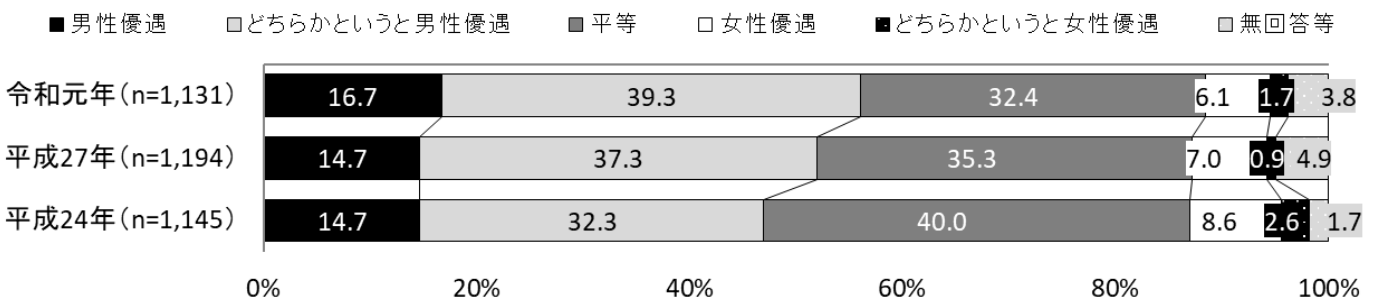
③ 学校教育の場



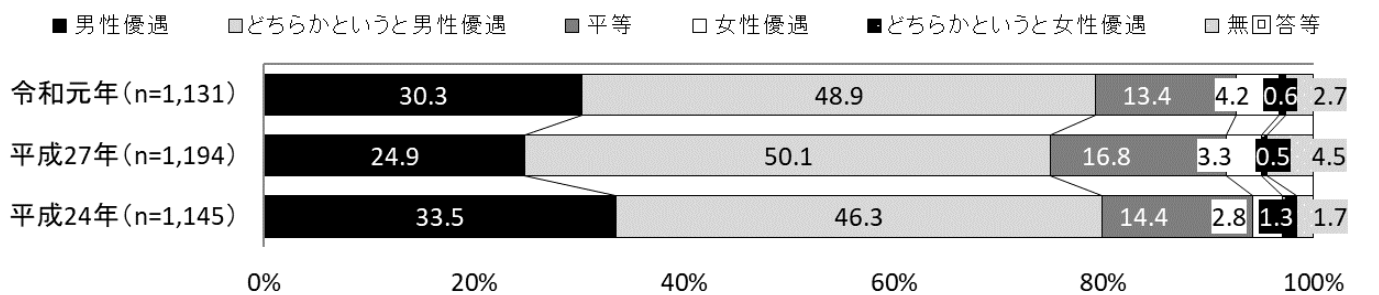
④ 政治の場



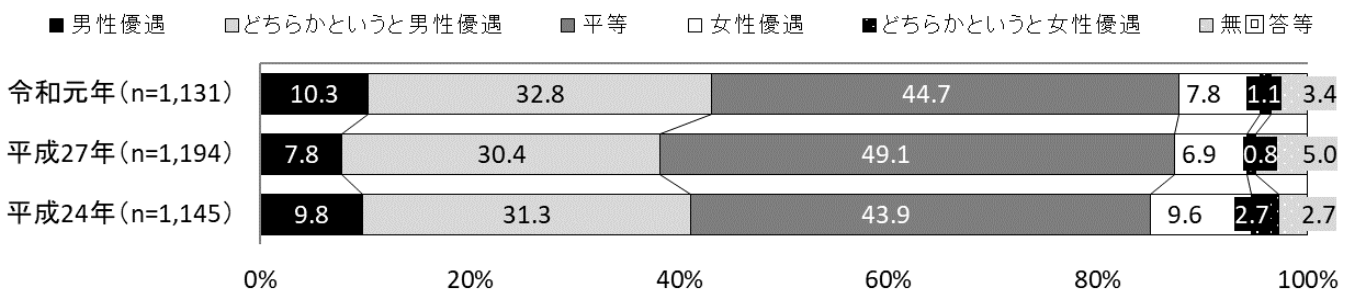
⑤ 法律や制度上



⑥ 社会通念・慣習・しきたり



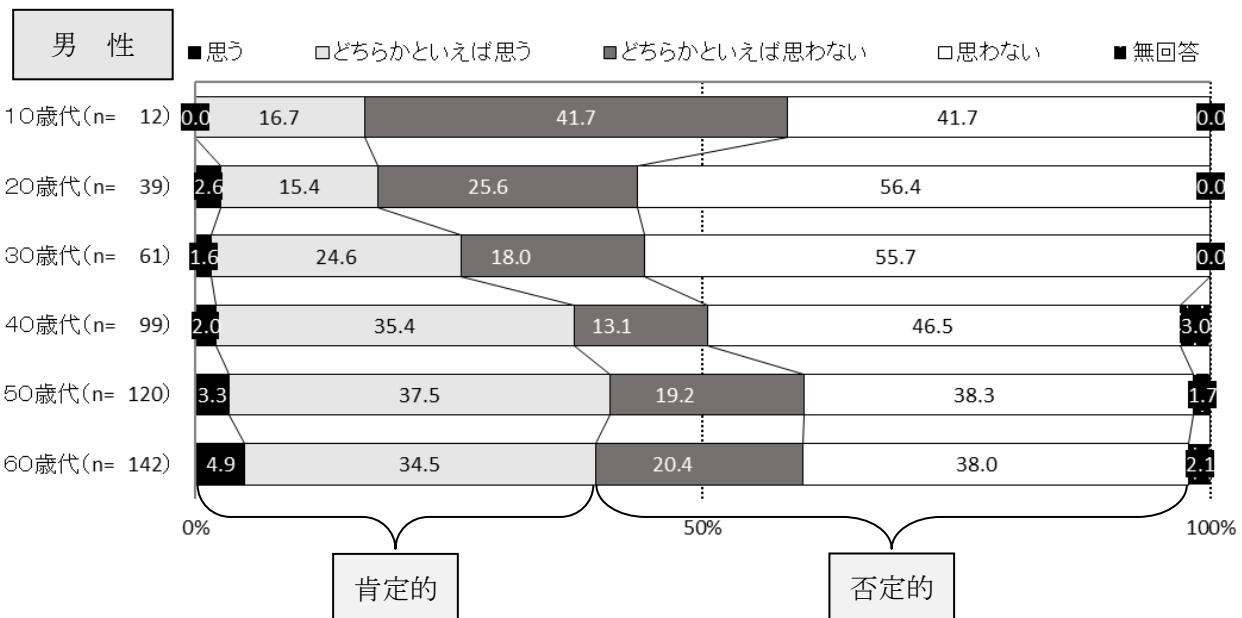
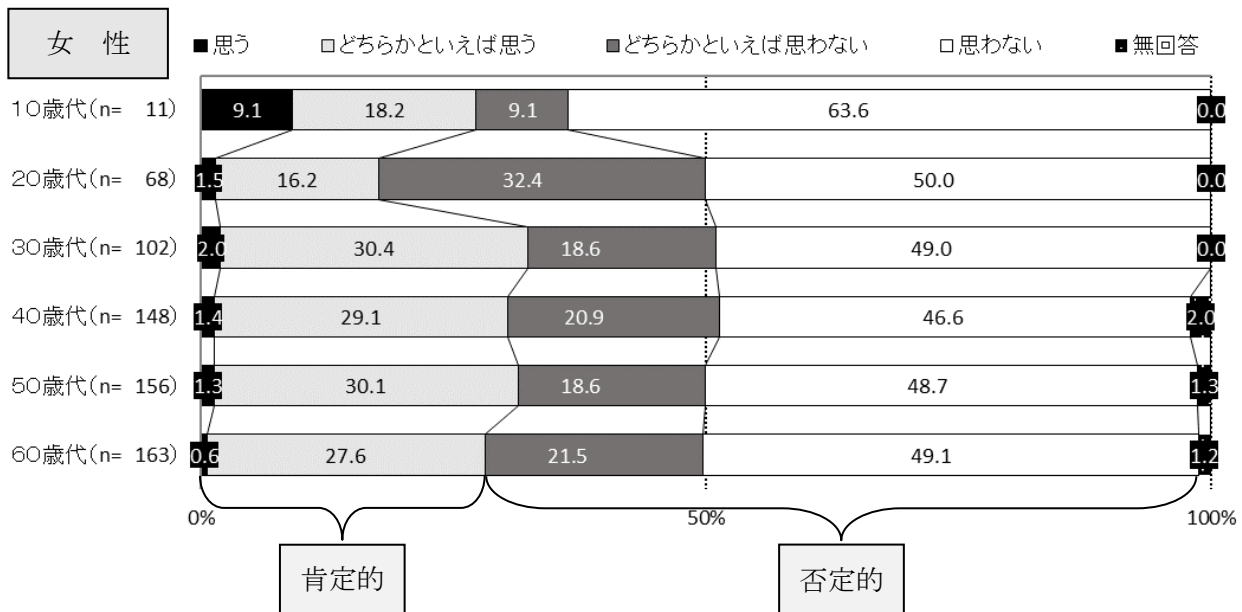
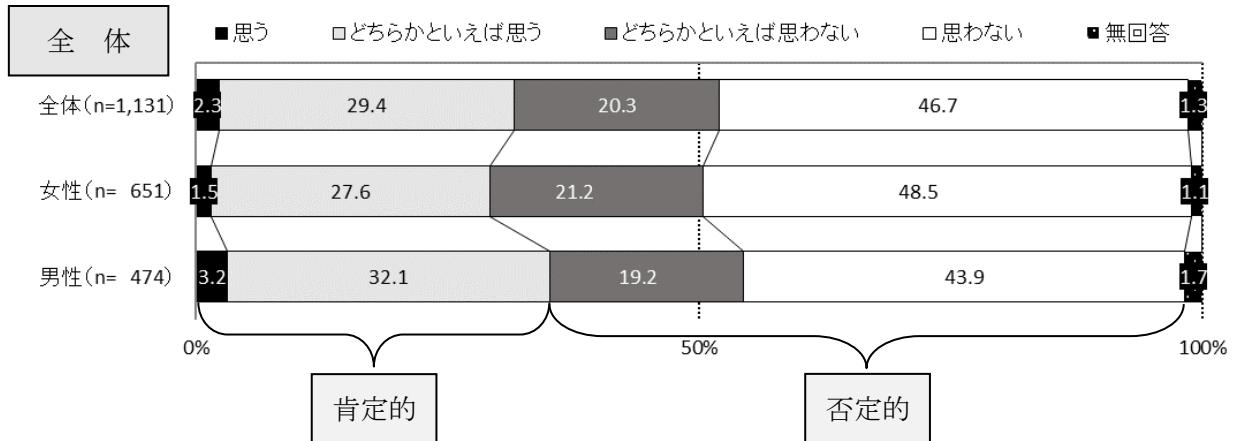
⑦ 地域活動（自治会・PTA・ボランティア活動など）



問2 あなたは「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

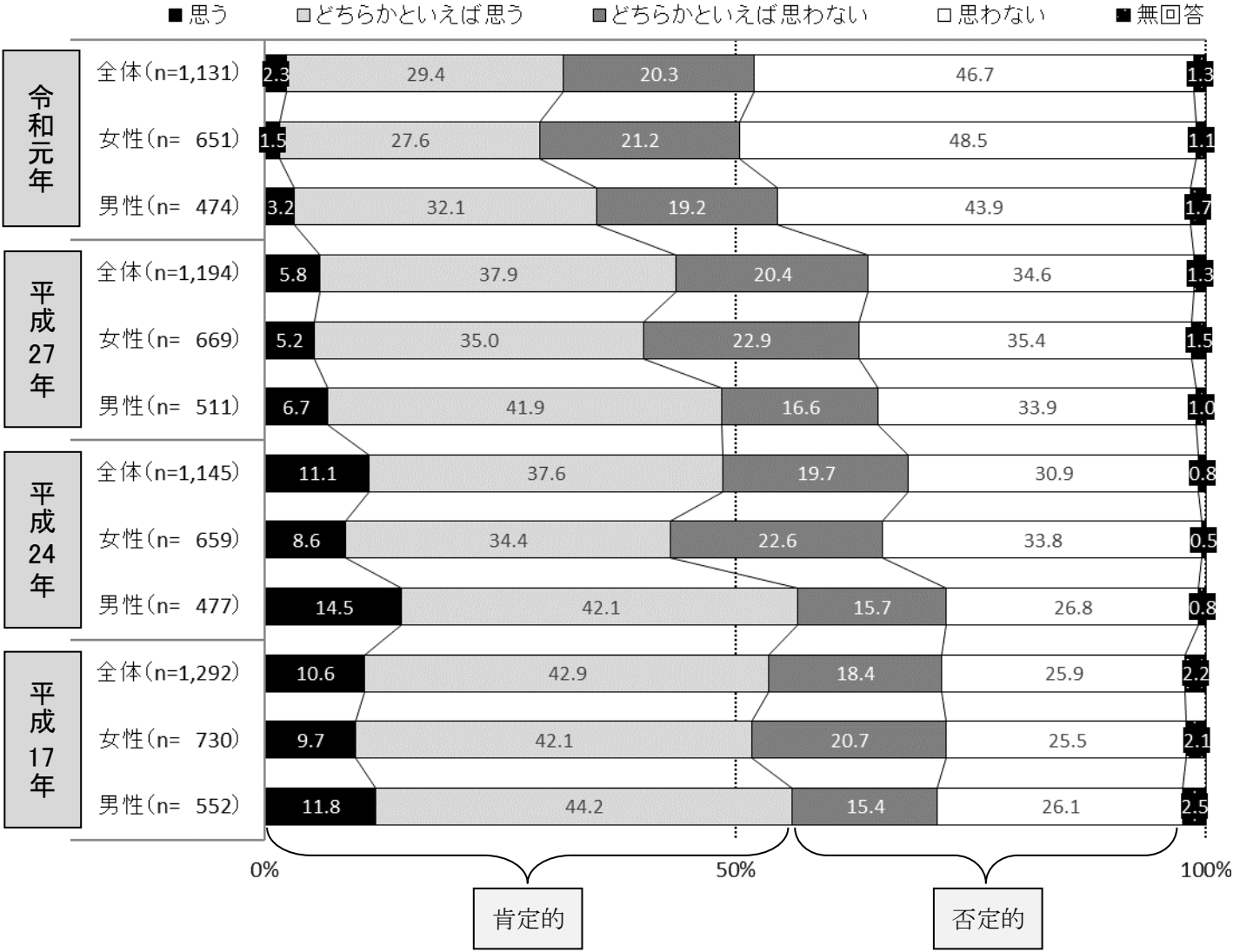
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方については、「思わない」及び「どちらかといえば思わない」の否定的な意見は 67.0%で、「思う」及び「どちらかといえば思う」の肯定的な意見の 31.7%より約 35 ポイント高くなっています。

すべての性・年代別にみても否定的な意見が肯定的な意見を上回っています。



経年比較

過去に実施した調査と比較すると、平成17年度には全体及び女性・男性とも肯定的な意見が否定的な意見を上回っていたものの、24年度には全体と女性で、27年度の調査では全体及び女性・男性とも否定的な意見が肯定的な意見を上回りました。今回の調査では、全体及び女性・男性とも更に肯定的な意見が下がり、否定的な意見が上がりました。



◎平塚市の現状◎（ひらつか男女共同参画プラン2017関連男女別統計）

「固定的な男女の役割分担意識の考え方に同感しない人の割合（全体）」

67.0%という結果となり、前回調査と比較して12ポイント上がっています。

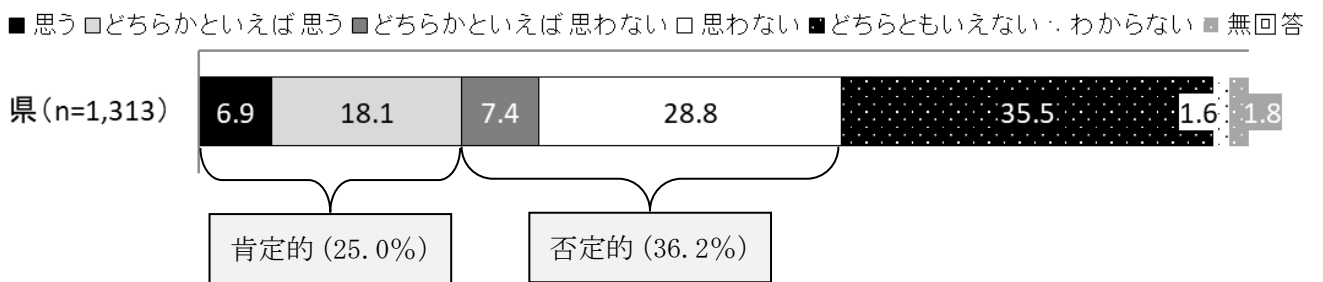
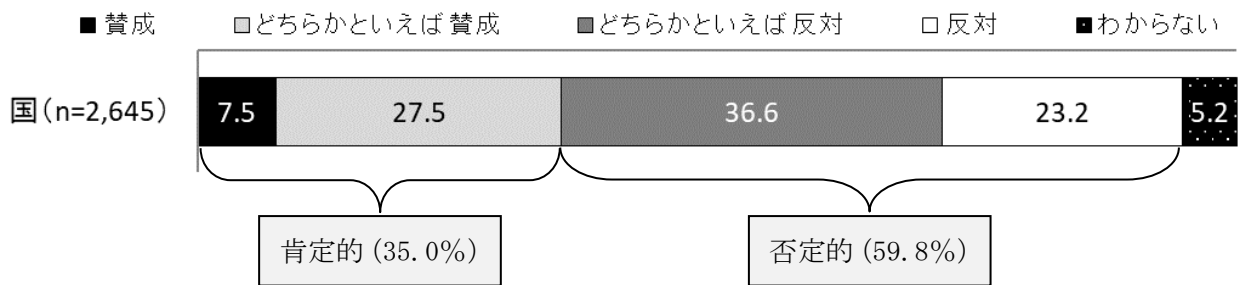
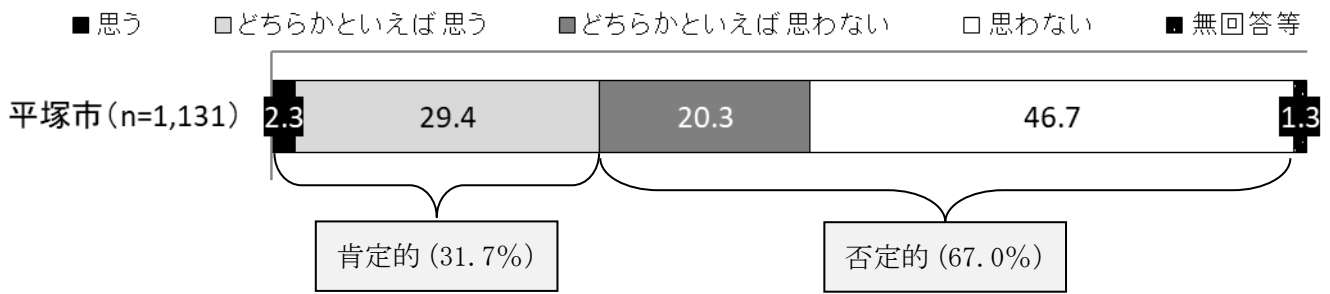
	割合（単位：％）
令和元年度	67.0
平成27年度	55.0

「固定的な男女の役割分担意識の考え方に同感しない人の割合（10代～20代）」

79.7%という結果となり、前回調査と比較して約22ポイント上がっています。

	割合（単位：％）
令和元年度	79.7
平成27年度	58.0

他調査との比較



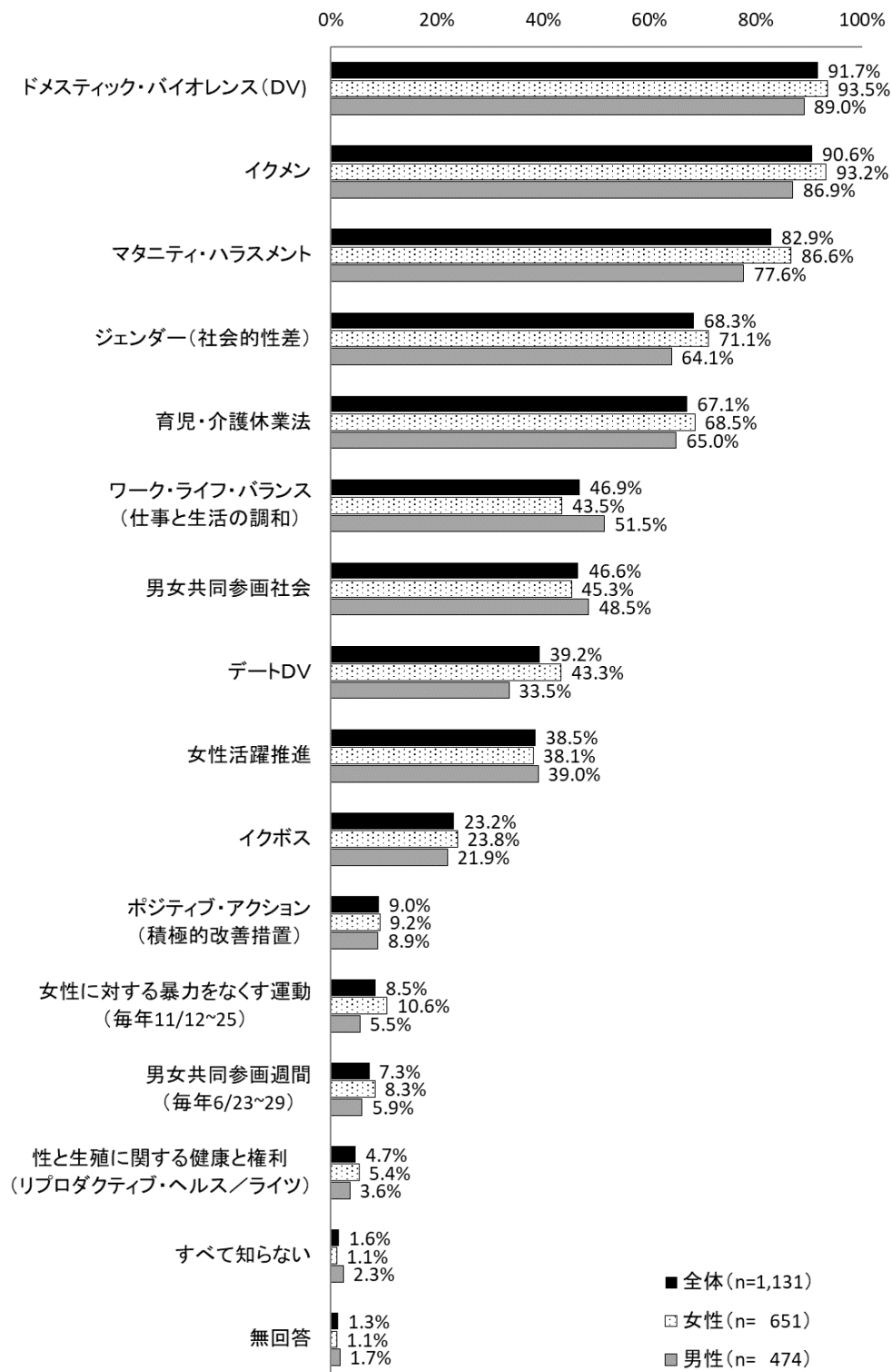
資料：内閣府「男女共同参画に関する世論調査」（令和元年度）

神奈川県「県民ニーズ調査（課題調査）」（平成28年度）

問3 男女共同参画に関する次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりして知っているものについて、すべてを選んでください。

男女共同参画に関する言葉の認知については、「ドメスティック・バイオレンス(DV)」が91.7%と最も高く、次いで「イクメン」が90.6%となっています。

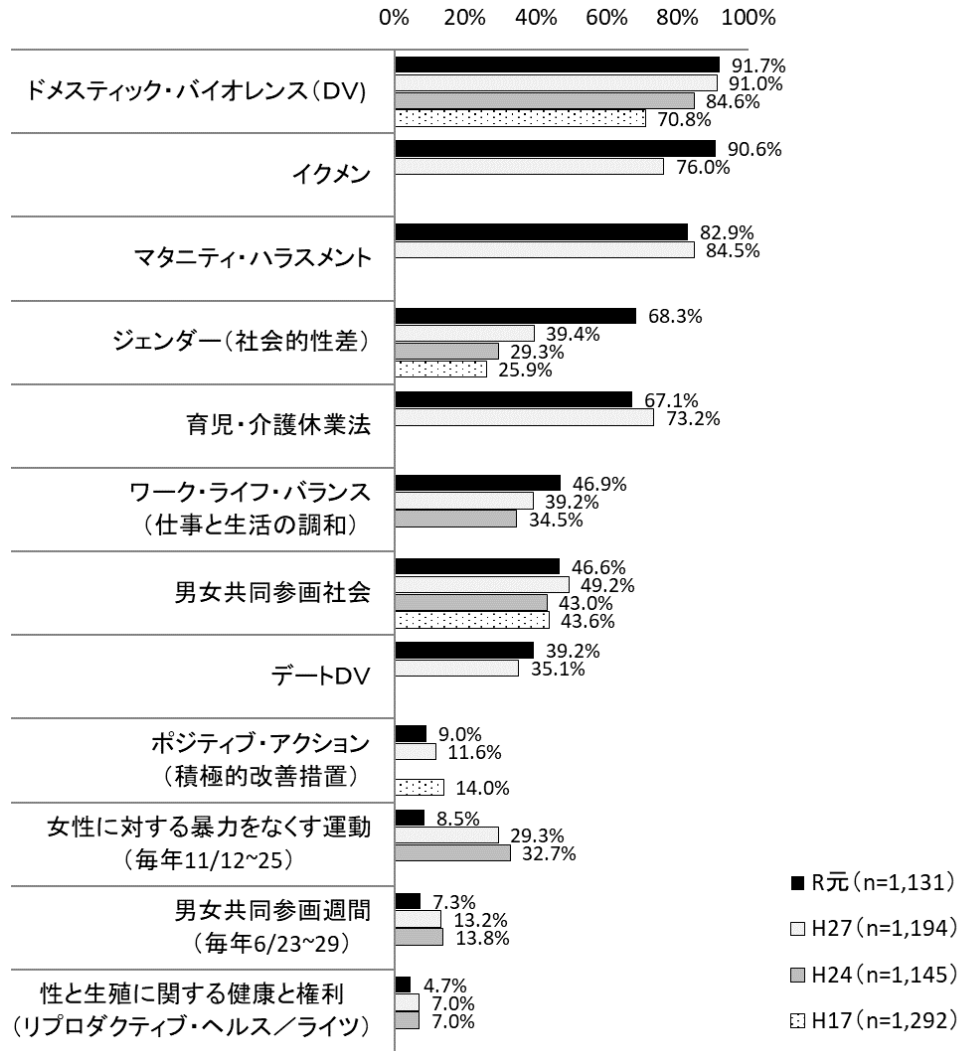
性別にみると、全体的な傾向はほぼ同様となっているものの、「マタニティ・ハラスメント」は女性86.6%、男性77.6%と女性が9ポイント高くなっており、「ワーク・ライフ・バランス」は女性43.5%、男性51.5%と男性が8ポイント高くなっていきます。



※認知度が高い順に記載しています。

経年比較

過去に実施した調査と比較すると、「ドメスティック・バイオレンス（DV）」、「イクメン」、「ジェンダー（社会的性差）」、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」、「デートDV」、は認知度が上がりました。



◎平塚市の現状◎ (ひらつか男女共同参画プラン2017関連男女別統計)

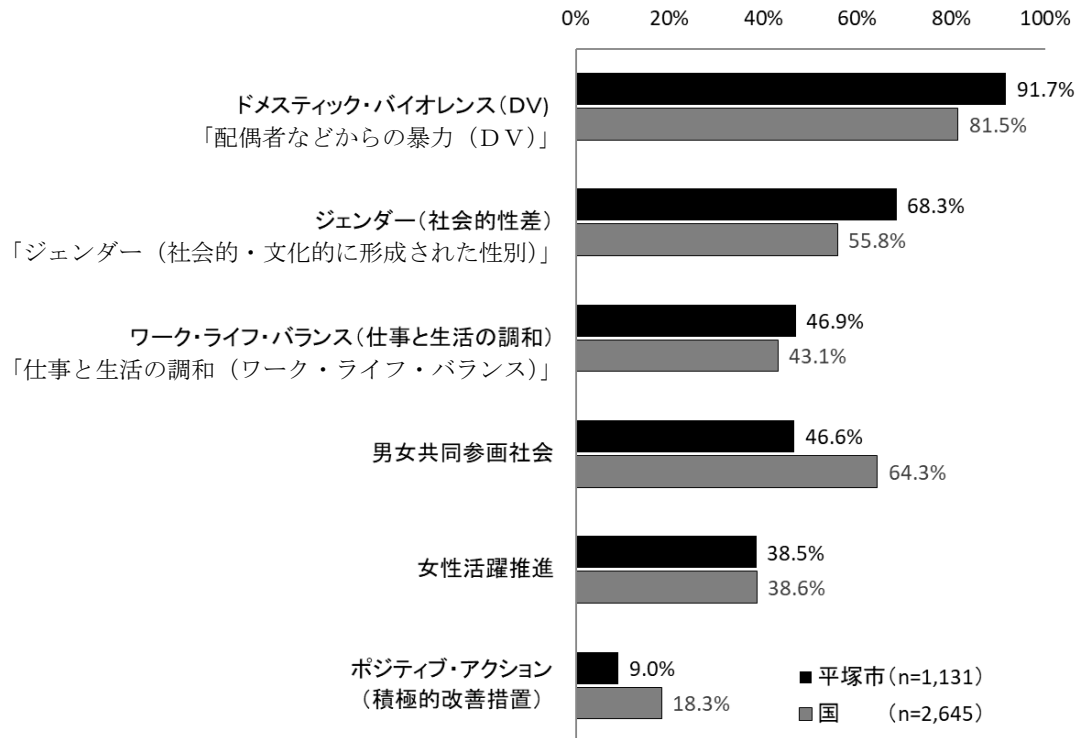
「マタニティ・ハラスメントという言葉を知っている市民の割合」

全体が 82.9%、女性が 86.6%、男性が 77.6%という結果となり、前回調査と比較して、全体は約 2 ポイント、男性は 6 ポイントそれぞれ下がっていますが、女性は約 2 ポイント上がっています。

単位：%

	全体	女性	男性
令和元年度	82.9	86.6	77.6
平成27年度	84.5	85.1	83.6

他調査との比較



資料：内閣府「男女共同参画に関する世論調査」（令和元年度）

※ 「 」は当該調査の文言

3 仕事や家庭、地域生活などについて

問4 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味等）の優先度について、項目ごとに1つ選んでください。

※色付けされているセルは、全体、性別毎、年代毎にそれぞれ最も高い割合となった項目です。
また、表中の「仕」は仕事、「家」は家庭生活、「地」は地域・個人の生活、を表しています。

① あなたご自身の現状

生活の優先度について現状は、「仕事と家庭生活をともに優先」が27.0%と最も高く、次いで「家庭生活を優先」が26.0%となっています。

性・年代別にみると、女性は30歳代以上の年代で「家庭生活を優先」が最も高く、男性は30歳代から50歳代で「仕事を優先」、20歳代と60歳代で「仕事と家庭生活をともに優先」が最も高くなっています。

単位：%

	n	仕	家	地	仕・家	仕・地	家・地	仕・家・地	わからない	無回答
全体	1,131	20.9	26.0	3.8	27.0	4.2	5.4	7.1	4.7	1.1
女性全体	651	14.0	35.8	3.2	23.5	3.5	6.6	8.1	4.0	1.2
10歳代	11	0.0	0.0	36.4	18.2	27.3	0.0	9.1	9.1	0.0
20歳代	68	20.6	17.6	13.2	19.1	10.3	2.9	7.4	8.8	0.0
30歳代	102	22.5	26.5	2.9	25.5	4.9	7.8	5.9	3.9	0.0
40歳代	148	12.8	41.9	0.7	25.0	2.0	4.7	8.1	2.7	2.0
50歳代	156	15.4	37.8	1.9	25.0	2.6	5.8	7.1	4.5	0.0
60歳代	163	6.7	43.6	0.6	22.1	0.6	10.4	10.4	2.5	3.1
男性全体	474	30.0	12.9	4.6	31.9	5.1	3.8	5.7	5.3	0.8
10歳代	12	16.7	0.0	25.0	8.3	0.0	8.3	16.7	25.0	0.0
20歳代	39	17.9	7.7	25.6	33.3	10.3	0.0	0.0	5.1	0.0
30歳代	61	32.8	8.2	4.9	29.5	6.6	1.6	4.9	9.8	1.6
40歳代	99	40.4	9.1	1.0	34.3	5.1	0.0	7.1	3.0	0.0
50歳代	120	40.8	11.7	0.8	31.7	6.7	1.7	3.3	2.5	0.8
60歳代	142	16.2	21.1	2.8	33.1	2.1	9.9	7.7	5.6	1.4

経年比較

前回調査と比較すると、全体では、優先順位のトップが「家庭を優先」から「仕事と家庭生活をともに優先」に変わり、3番目である「仕事を優先」でも前回調査から約3ポイント上がっており、仕事を優先する割合が増えています。

性別にみた優先順位のトップは、女性はすべての年代で「家庭を優先」となっており、前回調査と変わりはありませんでしたが、男性は20歳代及び60歳代で「仕事を優先」から「仕事と家庭生活をともに優先」に、30歳代及び50歳代で「仕事と家庭生活をともに優先」から「仕事を優先」に変わりました。

30歳代の女性は、前回調査では「家庭生活を優先」が40.8%、「仕事を優先」が17.5%で、その差が約23ポイントでしたが、今回の調査では「家庭生活を優先」が26.5%、「仕事を優先」が22.5%となり、その差は4ポイントと僅差となりました。

(参考: 前回調査)

単位: %

	n	仕	家	地	仕・家	仕・地	家・地	仕・家・地	わからない	無回答
全体	1,194	17.8	28.5	4.4	22.8	4.0	8.3	5.7	4.9	3.7
女性全体	669	10.8	39.6	3.4	19.4	3.6	10.2	5.5	3.9	3.6
10歳代	18	5.6	11.1	16.7	11.1	5.6	16.7	0.0	27.8	5.6
20歳代	59	22.0	10.2	6.8	18.6	16.9	6.8	8.5	10.2	0.0
30歳代	103	17.5	40.8	1.0	23.3	3.9	5.8	5.8	1.9	0.0
40歳代	120	15.0	41.7	2.5	22.5	1.7	8.3	5.0	1.7	1.7
50歳代	113	11.5	32.7	0.0	25.7	1.8	10.6	11.5	2.7	3.5
60歳代	178	5.1	50.6	3.9	15.7	2.2	14.6	2.2	2.8	2.8
70歳代以上	78	0.0	48.7	6.4	11.5	1.3	9.0	3.8	3.8	15.4
男性全体	511	27.0	13.9	5.7	27.0	4.7	5.9	6.1	6.1	3.7
10歳代	25	12.0	12.0	16.0	16.0	4.0	4.0	8.0	24.0	4.0
20歳代	42	38.1	7.1	9.5	4.8	11.9	4.8	2.4	19.0	2.4
30歳代	68	30.9	2.9	1.5	41.2	5.9	7.4	4.4	4.4	1.5
40歳代	97	33.0	8.2	2.1	37.1	2.1	0.0	7.2	9.3	1.0
50歳代	80	31.3	10.0	0.0	38.8	5.0	1.3	8.8	2.5	2.5
60歳代	125	24.8	20.0	8.0	22.4	4.0	10.4	6.4	1.6	2.4
70歳代以上	72	13.9	30.6	11.1	9.7	4.2	11.1	4.2	1.4	13.9

【未就業者・就業者別の状況】

未就業者は、「家庭生活を優先」が50.8%と最も高く、次いで、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が15.4%となっています。

性・年代別にみると、女性は10歳代を除く全ての年代で、男性は40歳代以上の年代で「家庭生活を優先」が最も高くなっています。

就業者は、「仕事と家庭生活をともに優先」が35.6%と最も高く、次いで、「仕事を優先」が27.0%となっています。

性・年代別にみると、女性は、10歳代と30歳代を除くすべての年代で「仕事と家庭生活をともに優先」が最も高くなっています。男性は、20歳代と60歳代で「仕事と家庭生活をともに優先」が最も高く、30歳代から50歳代は、「仕事を優先」が最も高くなっています。

単位：%

未就業者	n	仕	家	地	仕・家	仕・地	家・地	仕・家・地	わからない	無回答
全体	319	4.1	50.8	8.8	6.0	1.9	15.4	3.1	8.5	1.6
女性全体	218	0.9	61.9	5.5	4.1	0.9	16.1	3.7	5.0	1.8
10歳代	9	0.0	0.0	33.3	22.2	22.2	0.0	11.1	11.1	0.0
20歳代	16	6.3	37.5	31.3	0.0	0.0	0.0	6.3	18.8	0.0
30歳代	24	0.0	66.7	0.0	8.3	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
40歳代	41	0.0	80.5	0.0	0.0	0.0	12.2	0.0	7.3	0.0
50歳代	42	0.0	66.7	7.1	2.4	0.0	16.7	2.4	4.8	0.0
60歳代	83	1.2	60.2	1.2	4.8	0.0	20.5	4.8	2.4	4.8
男性全体	100	10.0	27.0	16.0	10.0	4.0	14.0	2.0	16.0	1.0
10歳代	12	16.7	0.0	25.0	8.3	0.0	8.3	16.7	25.0	0.0
20歳代	14	14.3	7.1	50.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0
30歳代	7	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	57.1	0.0
40歳代	7	14.3	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0
50歳代	7	0.0	57.1	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0
60歳代	53	9.4	35.8	7.5	13.2	3.8	22.6	0.0	5.7	1.9

単位：%

就業者	n	仕	家	地	仕・家	仕・地	家・地	仕・家・地	わからない	無回答
全体	770	27.0	16.1	1.9	35.6	5.2	1.6	8.7	3.0	0.9
女性全体	411	20.7	22.4	2.2	33.1	5.1	1.9	10.2	3.4	1.0
10歳代	2	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代	52	25.0	11.5	7.7	25.0	13.5	3.8	7.7	5.8	0.0
30歳代	72	30.6	13.9	4.2	27.8	6.9	2.8	8.3	5.6	0.0
40歳代	102	16.7	26.5	1.0	35.3	2.9	2.0	11.8	1.0	2.9
50歳代	108	21.3	27.8	0.0	34.3	3.7	1.9	6.5	4.6	0.0
60歳代	75	13.3	25.3	0.0	40.0	1.3	0.0	17.3	1.3	1.3
男性全体	354	34.2	9.0	1.7	38.7	5.4	1.1	7.1	2.0	0.8
10歳代	0									
20歳代	25	20.0	8.0	12.0	52.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代	50	34.0	10.0	2.0	32.0	8.0	2.0	6.0	4.0	2.0
40歳代	86	41.9	7.0	1.2	37.2	4.7	0.0	8.1	0.0	0.0
50歳代	107	43.0	7.5	0.9	33.6	7.5	0.9	3.7	1.9	0.9
60歳代	86	19.8	12.8	0.0	46.5	1.2	2.3	12.8	3.5	1.2

②あなたの希望

生活の優先度について希望は、「仕事と家庭生活をともに優先」が 23.7%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が 23.6%となっており、「仕事を優先」の 2.3%を大きく上回っています。

性・年代別にみると、「仕事」とそれ以外の活動（「家庭生活」や「地域・個人の生活」）をともに優先したい割合は、全体 51.4%、女性 46.2%、男性 58.7%となっています。女性は、「家庭生活を優先」が 24.3%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先」が 21.8%、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が 20.3%となっています。男性は、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が 28.5%と最も高く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先」が 26.2%となっています。

女性は、30歳代では「家庭生活を優先」が 34.3%と最も高く、20歳代、40歳代及び50歳代では「仕事と家庭生活をともに優先」が最も高くなっています。男性は、10歳代、30歳代及び50歳代で「仕事と家庭生活をともに優先」、20歳代、40歳代及び60歳代で「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」が最も高くなっています。

単位：%

	n	仕	家	地	仕・家	仕・地	家・地	仕・家・地	わからない	無回答
全体	1,131	2.3	21.4	4.5	23.7	4.1	12.1	23.6	4.6	3.7
女性全体	651	1.8	24.3	4.6	21.8	4.1	14.3	20.3	3.8	4.9
10歳代	11	9.1	18.2	9.1	9.1	9.1	27.3	18.2	0.0	0.0
20歳代	68	4.4	16.2	16.2	20.6	10.3	10.3	11.8	5.9	4.4
30歳代	102	1.0	34.3	5.9	17.6	2.0	13.7	21.6	2.9	1.0
40歳代	148	2.0	25.0	1.4	31.1	4.1	10.1	18.9	4.1	3.4
50歳代	156	1.9	24.4	1.3	27.6	5.1	12.2	20.5	3.8	3.2
60歳代	163	0.6	21.5	4.3	12.3	1.8	21.5	23.3	3.7	11.0
男性全体	474	2.7	17.5	4.4	26.2	4.0	9.3	28.5	5.3	2.1
10歳代	12	8.3	0.0	8.3	25.0	8.3	8.3	16.7	25.0	0.0
20歳代	39	2.6	17.9	7.7	17.9	7.7	15.4	23.1	2.6	5.1
30歳代	61	1.6	21.3	13.1	26.2	6.6	6.6	19.7	3.3	1.6
40歳代	99	2.0	16.2	3.0	26.3	4.0	9.1	33.3	4.0	2.0
50歳代	120	2.5	17.5	1.7	33.3	3.3	6.7	29.2	3.3	2.5
60歳代	142	3.5	18.3	2.8	21.8	2.1	11.3	31.0	7.7	1.4

経年比較

前回調査と比較すると、全体では、前回調査で上位3つとなった「仕事と家庭生活と地域・個人の活動をともに優先」、「仕事と家庭生活をともに優先」、「家庭生活を優先」が、1番目と2番目の順位が逆転しましたが、今回の調査でも上位3つとなりました。

性別にみると、女性は、前回調査で上位3つとなった「仕事と家庭生活と地域・個人の活動をともに優先」、「仕事と家庭生活をともに優先」、「家庭生活を優先」が、1番目と3番目の順位が逆転しましたが、今回の調査でも上位3つとなりました。

男性は、前回調査で上位3つとなった「仕事と家庭生活をともに優先」、「仕事と家庭生活と地域・個人の活動をともに優先」、「家庭生活を優先」が、1番目と2番目の順位が逆転しましたが、今回の調査でも上位3つとなりました。

(参考: 前回調査)

単位: %

	n	仕	家	地	仕・家	仕・地	家・地	仕・家・地	わからない	無回答
全体	1,194	2.8	16.3	4.4	23.2	5.8	14.5	25.0	4.3	3.7
女性全体	669	1.6	19.6	3.4	20.3	4.3	16.9	25.4	4.5	3.9
10歳代	18	0.0	11.1	11.1	16.7	5.6	5.6	16.7	33.3	0.0
20歳代	59	1.7	15.3	3.4	16.9	10.2	11.9	35.6	5.1	0.0
30歳代	103	2.9	25.2	1.9	20.4	3.9	12.6	31.1	1.9	0.0
40歳代	120	2.5	21.7	1.7	22.5	3.3	11.7	30.0	4.2	2.5
50歳代	113	0.9	18.6	0.9	26.5	5.3	13.3	28.3	2.7	3.5
60歳代	178	1.1	18.0	5.1	19.1	2.8	27.5	18.5	4.5	3.4
70歳代以上	78	1.3	19.2	6.4	14.1	3.8	17.9	16.7	3.8	16.7
男性全体	511	4.5	12.1	5.5	26.8	7.4	11.2	25.0	3.9	3.5
10歳代	25	8.0	16.0	8.0	12.0	4.0	8.0	24.0	16.0	4.0
20歳代	42	7.1	0.0	11.9	16.7	21.4	11.9	28.6	2.4	0.0
30歳代	68	4.4	19.1	2.9	32.4	5.9	8.8	26.5	0.0	0.0
40歳代	97	3.1	9.3	2.1	42.3	1.0	3.1	28.9	7.2	3.1
50歳代	80	3.8	11.3	6.3	40.0	2.5	6.3	25.0	2.5	2.5
60歳代	125	5.6	16.0	5.6	17.6	8.8	14.4	25.6	2.4	4.0
70歳代以上	72	2.8	9.7	6.9	12.5	13.9	25.0	15.3	4.2	9.7

自身の現状別にみた希望の優先度

自身の現状別に、希望をみると、現状と希望が一致している人(色付けされているセル)は34.8% (394人、n=1,131) となっています。

「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」及び「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」の人のうち、希望と一致している人は、6割を超えています。

仕事を優先している人のうち、さらに「家庭生活」や「地域・個人の生活」もともに優先したい人は6割を超えています (34.3%、4.2%、21.6%の合計：60.1%)。

単位：%

		あなたの希望								
		n	仕	家	地	仕・家	仕・地	家・地	仕・家・地	わからない
あなたご自身の現状	仕	236	5.9 (14)	17.8	4.7	34.3	4.2	7.6	21.6	2.1
	家	294	0.7	44.9 (132)	3.1	16.3	1.4	14.3	12.6	3.4
	地	43	0.0	7.0	39.5 (17)	4.7	16.3	18.6	7.0	0.0
	仕・家	305	1.0	15.4	1.3	40.7 (124)	1.6	5.9	30.8	1.6
	仕・地	47	2.1	2.1	14.9	6.4	31.9 (15)	10.6	27.7	0.0
	家・地	61	3.3	11.5	0.0	3.3	0.0	63.9 (39)	11.5	3.3
	仕・家・地	80	2.5	7.5	2.5	3.8	1.3	3.8	66.3 (53)	0.0
	わからない	53	1.9	7.5	1.9	7.5	7.5	5.7	11.3	56.6

()内は人数

◎平塚市の現状◎ (ひらつか男女共同参画プラン2017 関連男女別統計)

「自身の希望するワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和) が実現している市民の割合」

34.8%という結果となり、前回調査と比較して約4ポイント上がっています。

	割合 (単位：%)
令和元年度	34.8
平成27年度	31.3

【性別の状況】

現状と希望が一致している割合について、女性は37.0%（241人、n=651）、男性は32.1%（152人、n=474）となっています。

女性は、「家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」及び「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」の人、男性は、「家庭生活を優先」及び「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先」の人は、現状と希望が一致している割合が6割を超えています。

仕事を優先している人のうち、さらに「家庭生活」や「地域・個人の生活」もともに優先したい人は、女性53.9%（30.8%、2.2%、20.9%の合計）、男性64.0%（35.9%、5.6%、22.5%の合計）となっています。

女性において、家庭生活を優先している人のうち、さらに「仕事」や「地域・個人の生活」もともに優先したい人は、46.4%（18.9%、15.5%、12.0%の合計）となっています。また、そのうち優先させたい項目に「仕事」を入れている人は、30.9%（18.9%、12.0%の合計）となっています。

女性 n=651		あなたの希望									単位:%
		n	仕	家	地	仕・家	仕・地	家・地	仕・家・地	わからない	
あなたご自身の現状	仕	91	6.6 (6)	22.0	6.6	30.8	2.2	7.7	20.9	1.1	
	家	233	0.4	40.3 (94)	3.0	18.9	1.7	15.5	12.0	3.9	
	地	21	0.0	4.8	42.9 (9)	4.8	9.5	19.0	4.8	0.0	
	仕・家	153	1.3	19.0	2.0	39.2 (60)	3.3	6.5	24.8	2.0	
	仕・地	23	4.3	0.0	17.4	4.3	43.5 (10)	8.7	21.7	0.0	
	家・地	43	0.0	9.3	0.0	2.3	0.0	69.8 (30)	11.6	2.3	
	仕・家・地	53	1.9	11.3	1.9	3.8	1.9	3.8	60.4 (32)	0.0	
	わからない	26	3.8	15.4	0.0	15.4	11.5	3.8	7.7	42.3	

男性 n=474		あなたの希望									単位:%
		n	仕	家	地	仕・家	仕・地	家・地	仕・家・地	わからない	
あなたご自身の現状	仕	142	4.9 (7)	15.5	3.5	35.9	5.6	7.7	22.5	2.8	
	家	61	1.6	62.3 (38)	3.3	6.6	0.0	9.8	14.8	1.6	
	地	22	0.0	9.1	36.4 (8)	4.5	22.7	18.2	9.1	0.0	
	仕・家	151	0.7	11.3	0.7	42.4 (64)	0.0	5.3	37.1	1.3	
	仕・地	24	0.0	4.2	12.5	8.3	20.8 (5)	12.5	33.3	0.0	
	家・地	18	11.1	16.7	0.0	5.6	0.0	50.0 (9)	11.1	5.6	
	仕・家・地	27	3.7	0.0	3.7	3.7	0.0	3.7	77.8 (21)	0.0	
	わからない	25	0.0	0.0	4.0	0.0	4.0	8.0	16.0	68.0	

() 内は人数

【未就業者・就業者別の状況】

現状と希望が一致している割合について、未就業者は 36.7% (117 人、n=319)、就業者は 34.7% (267 人、n=770) となっています。

未就業者は、「家庭生活を優先」が 50.8% (162 人、n=319) で、そのうち、現状と希望が一致している人は 40.7% となっています。さらに「仕事」や「地域・個人の生活」もともに優先したい人は 43.8% (14.2%、17.9%、11.7%の合計) で、そのうち優先させたい項目に「仕事」を入れている人は、25.9% (14.2%、11.7%の合計) となっています。

就業者は、家庭生活を優先している人のうち、現状と希望が一致している人は 50.8%、さらに「仕事」や「地域・個人の生活」もともに優先したい人は 42.0% (19.4%、9.7%、12.9%の合計) となっています。仕事を優先している人のうち、現状と希望が一致している人は 5.8%、さらに「家庭生活」や「地域・個人の生活」もともに優先したい人は 60.1% (33.7%、4.3%、22.1%の合計) となっています。「仕事」と「家庭生活」をともに優先している人のうち、現状と希望が一致している人は 42.0%、さらに「地域・個人の生活」をともに優先したい人は 30.7% となっています。

未就業者 n=319		あなたの希望									単位: %
		n	仕	家	地	仕・家	仕・地	家・地	仕・家・地	わからない	
あなたご自身の現状	仕	13	7.7 (1)	15.4	0.0	46.2	0.0	7.7	15.4	0.0	
	家	162	1.2	40.7 (66)	4.9	14.2	1.2	17.9	11.7	3.1	
	地	28	0.0	7.1	32.1 (9)	7.1	21.4	17.9	7.1	0.0	
	仕・家	19	0.0	15.8	5.3	26.3 (5)	5.3	10.5	31.6	0.0	
	仕・地	6	0.0	0.0	0.0	16.7 (1)	0.0	0.0	50.0	0.0	
	家・地	49	4.1	14.3	0.0	4.1	0.0	59.2 (29)	12.2	2.0	
	仕・家・地	10	10.0	10.0	0.0	0.0	10.0	10.0	60.0 (6)	0.0	
	わからない	27	3.7	3.7	0.0	7.4	3.7	7.4	11.1	63.0	

就業者 n=770		あなたの希望									単位: %
		n	仕	家	地	仕・家	仕・地	家・地	仕・家・地	わからない	
あなたご自身の現状	仕	208	5.8 (12)	16.8	5.3	33.7	4.3	8.2	22.1	2.4	
	家	124	0.0	50.8 (63)	0.8	19.4	1.6	9.7	12.9	4.0	
	地	15	0.0	6.7	53.3 (8)	0.0	6.7	20.0	6.7	0.0	
	仕・家	274	1.1	15.3	1.1	42.0 (115)	1.5	5.5	30.7	1.5	
	仕・地	40	2.5	2.5	17.5	5.0	32.5 (13)	12.5	25.0	0.0	
	家・地	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3 (10)	8.3	8.3	
	仕・家・地	67	1.5	6.0	3.0	4.5	0.0	3.0	68.7 (46)	0.0	
	わからない	23	0.0	13.0	4.3	4.3	13.0	4.3	13.0	47.8	

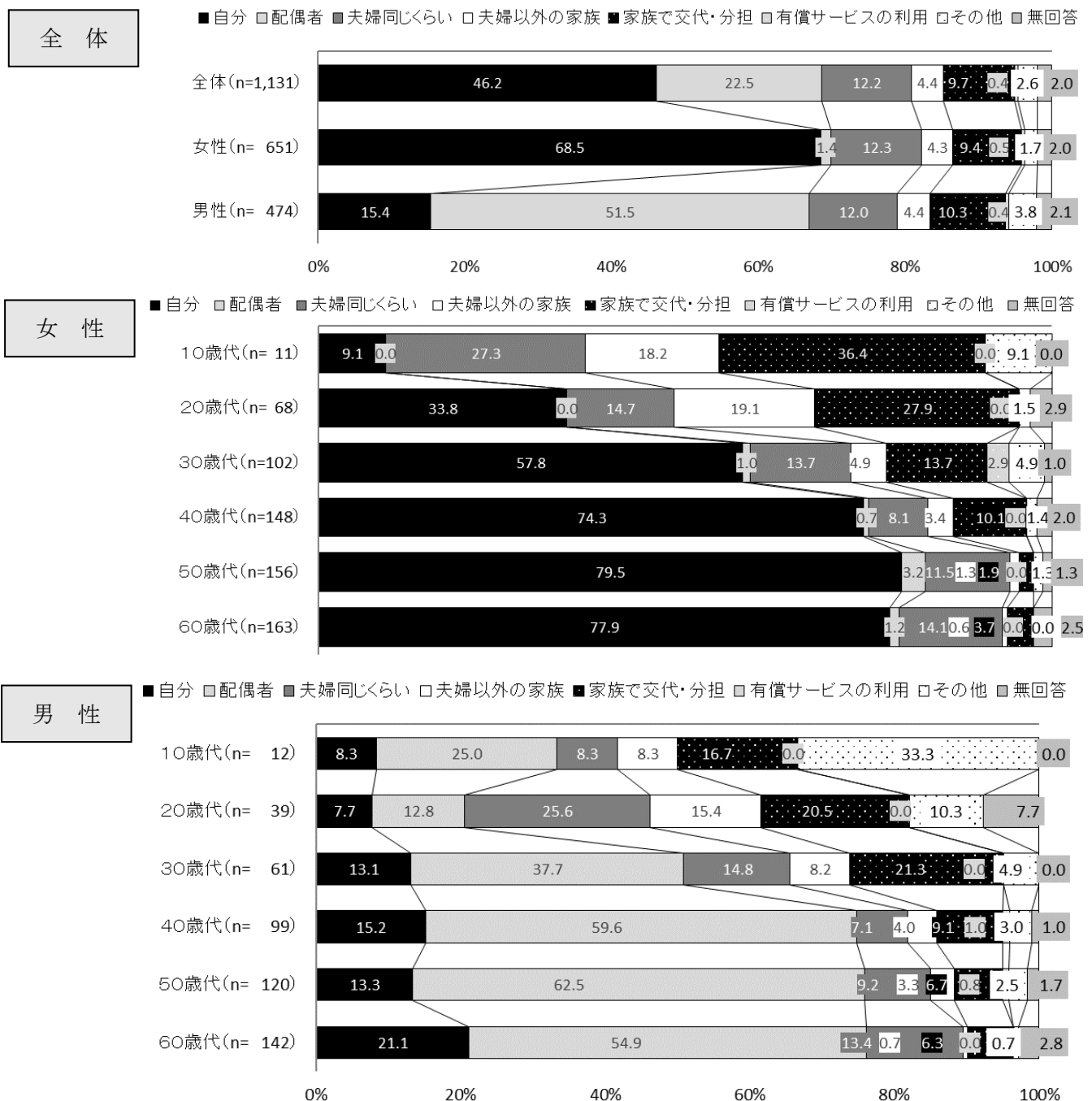
問5 あなたの家庭では、次の①～④のことを主に誰が担っていますか。項目ごとに1つずつ選んでください。ご自身に該当しない場合は、ご自身ならどうするか想定してお答えください。なお、配偶者には事実婚等のパートナーも含まれます。

① 家事

家事の担い手については、「主に自分」が46.2%と最も高く、次いで「主に配偶者」が22.5%となっています。

性・年代別にみると、女性は「主に自分」が68.5%と最も高く、40歳以上の年代は7割を超えています。男性は「主に配偶者」が51.5%と最も高く、40歳以上の年代は5割を超えています。

「夫婦同じくらい」と「家族で交代・分担」を合わせた割合について、女性は10歳代が63.7%、20歳代が42.6%、30歳代が27.4%、男性は10歳代が25.0%、20歳代が46.1%、30歳代が36.1%と若い年代は比較的高くなっていますが、40歳以上の年代は男女とも2割未満となっています。



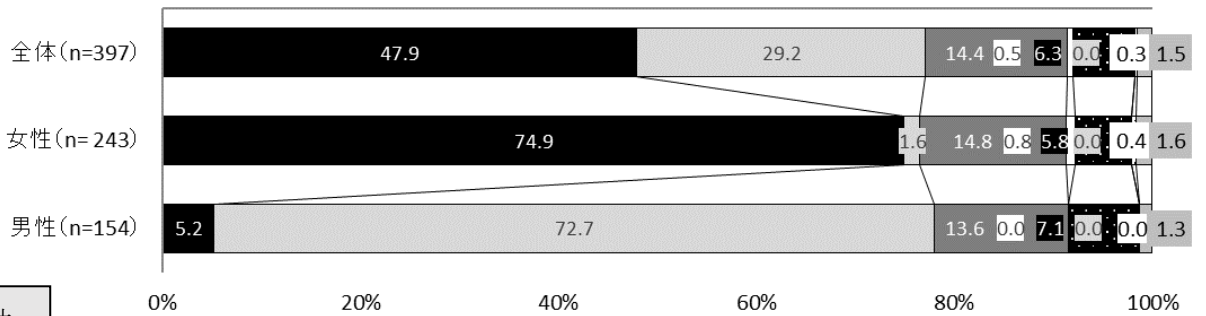
【共働き世帯の状況】

女性は、「主に自分」が74.9%で最も高く、40歳代以上の年代で7割を超えています。男性は、「主に配偶者」が72.7%で最も高く、40歳代以上の年代で7割を超えています。

すべての世帯と共働き世帯を比較すると、共働き世帯の方が、女性は50歳代及び60歳代を除き、「主に自分」の割合が、男性はすべての年代で「主に配偶者」の割合がそれぞれ高くなっています。

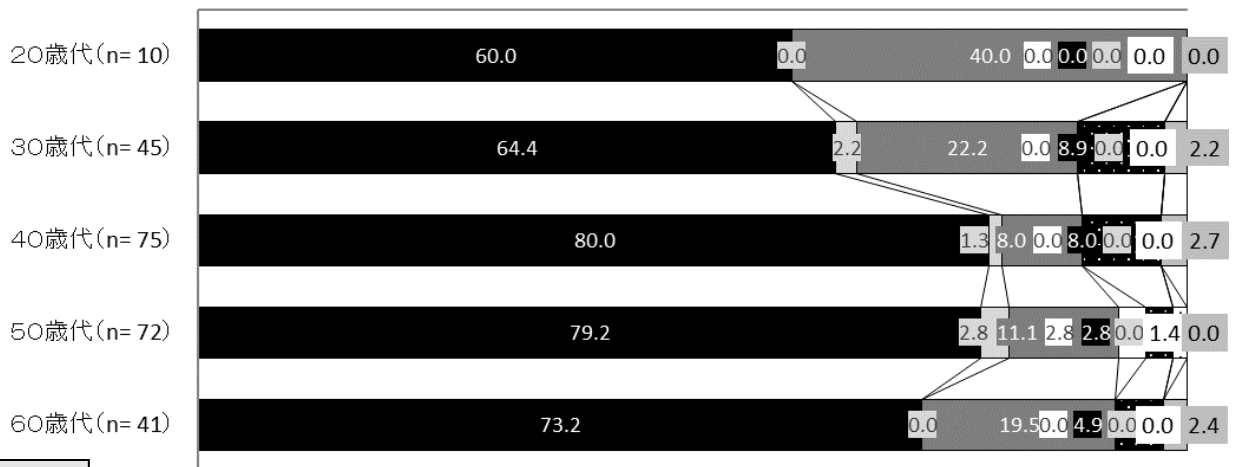
全 体

■ 自分 □ 配偶者 ■ 夫婦同じくらい □ 夫婦以外の家族 ■ 家族で交代・分担 □ 有償サービスの利用 □ その他 □ 無回答



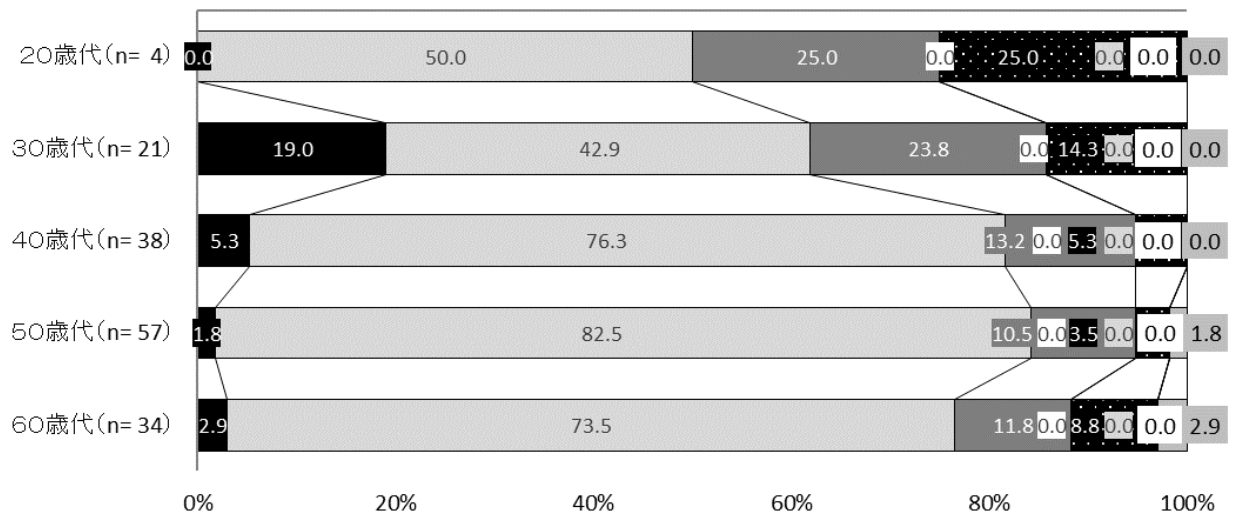
女 性

■ 自分 □ 配偶者 ■ 夫婦同じくらい □ 夫婦以外の家族 ■ 家族で交代・分担 □ 有償サービスの利用 □ その他 □ 無回答



男 性

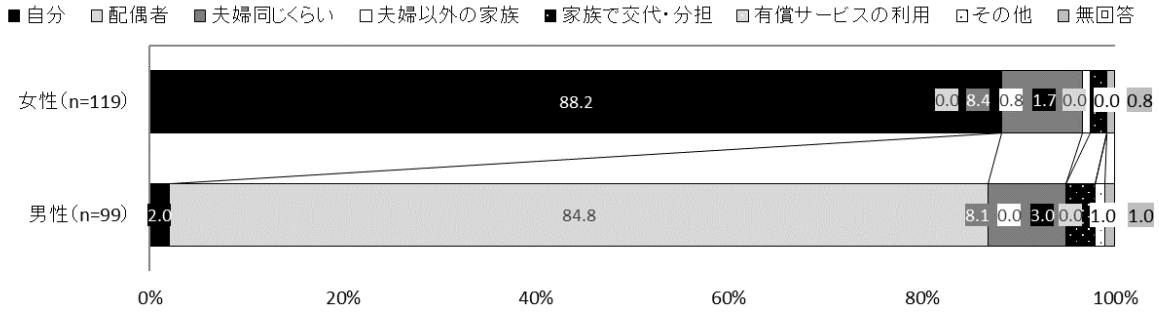
■ 自分 □ 配偶者 ■ 夫婦同じくらい □ 夫婦以外の家族 ■ 家族で交代・分担 □ 有償サービスの利用 □ その他 □ 無回答



【片働き世帯の状況（夫：就業者、妻：未就業者）】

女性は、「主に自分」が88.2%、男性は、「主に配偶者」が84.8%とそれぞれ最も高くなっています。「夫婦同じくらい」は男女とも約8%となっています。

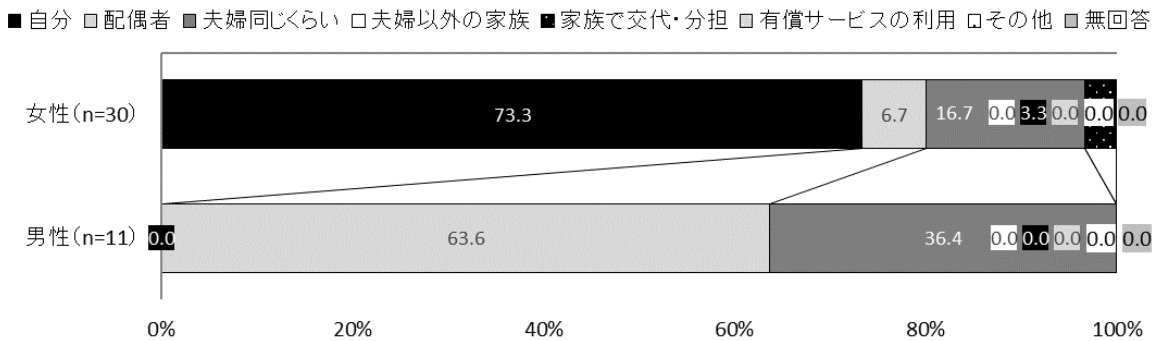
共働き世帯と比較すると、女性は「主に自分」が約13ポイント高く、男性は「主に配偶者」が約12ポイント高くなっています。



【片働き世帯の状況（夫：未就業者、妻：就業者）】

女性は、「主に自分」が73.3%、男性は、「主に配偶者」が63.6%とそれぞれ最も高くなっています。「夫婦同じくらい」は女性16.7%、男性36.4%と男性が約20ポイント高くなっています。

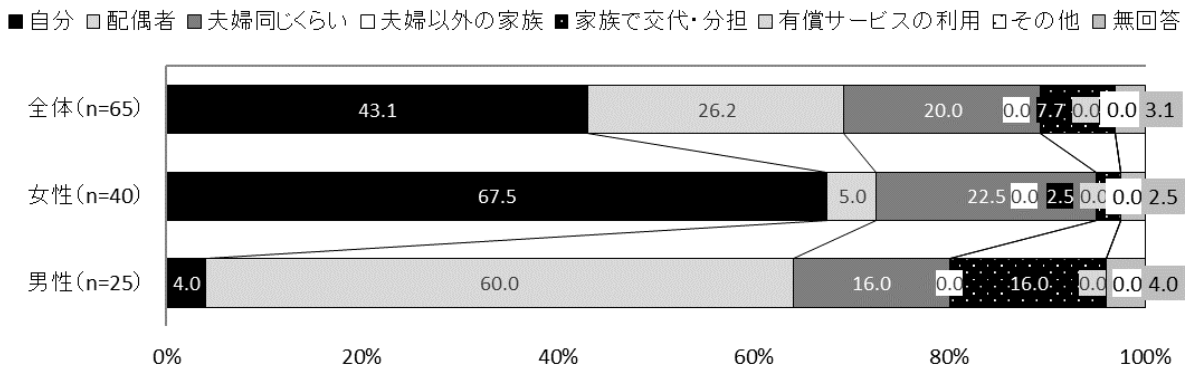
共働き世帯と比較すると、女性は「主に自分」が約2ポイント低く、男性は「主に配偶者」が約9ポイント低くなっています。



【夫婦とも働いていない世帯の状況】

女性は、「主に自分」が67.5%と最も高く、男性は、「主に配偶者」が60.0%と最も高くなっています。

共働き世帯と比較すると、女性は「主に自分」が約7ポイント低く、男性は「主に配偶者」が約13ポイント低くなっています。



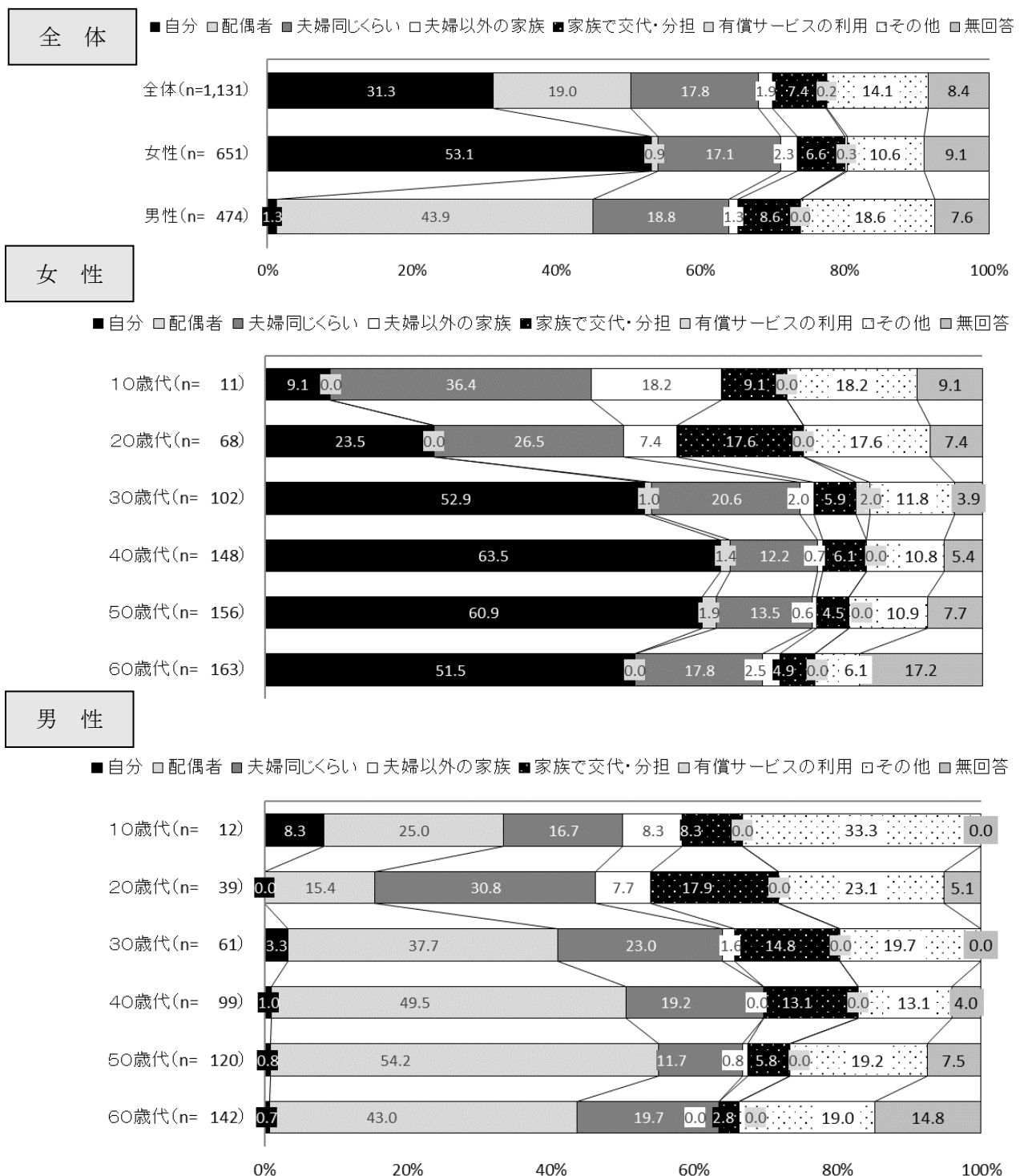
② 育児・子育て

育児・子育ての担い手については、「主に自分」が 31.3%と最も高く、次いで「主に配偶者」が 19.0%となっています。

性・年代別にみると、女性では「主に自分」が 53.1%と最も高く、30歳以上の年代は5割を超えています。男性では「主に配偶者」が 43.9%と最も高く、40歳以上の年代は5割前後となっています。

10歳代及び20歳代の女性、20歳代の男性では、「夫婦同じくらい」と「家族で交代・分担」を合わせた割合は4割を超えています。

30歳代及び40歳代の男性は、「主に配偶者」が最も高くなっているものの、「夫婦同じくらい」と「家族で交代・分担」を合わせた割合は3割を超えています。

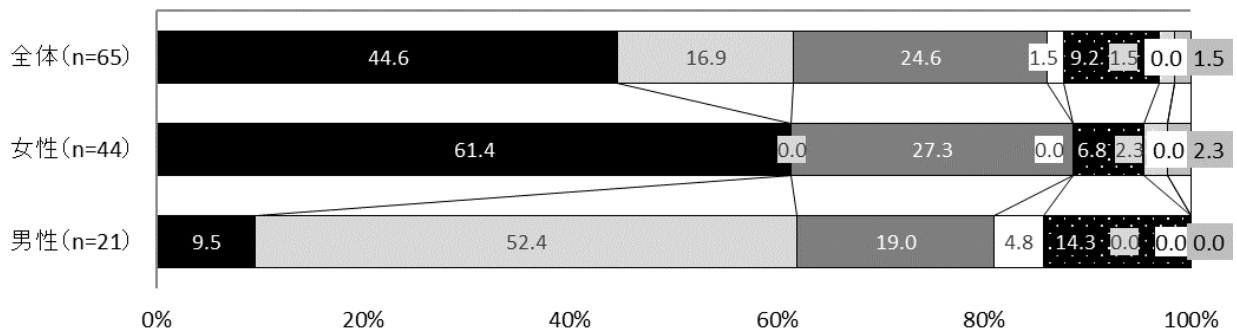


【共働きで、6歳未満（小学校入学前）の子どもがいる世帯の状況】

女性は「主に自分」が61.4%、男性は「主に配偶者」が52.4%とそれぞれ最も高くなっています。また、全体の女性（53.1%）、男性（43.9%）と比べて、それぞれ約8ポイント、約9ポイント高くなっています。

一方、「夫婦同じくらい」と「家族で交代・分担」を合わせた割合は、女性34.1%、男性33.3%と全体の女性（23.7%）、男性（27.4%）と比べて、それぞれ約10ポイント、約6ポイント高くなっています。

■ 自分 □ 配偶者 ■ 夫婦同じくらい □ 夫婦以外の家族 ■ 家族で交代・分担 □ 有償サービスの利用 □ その他 □ 無回答

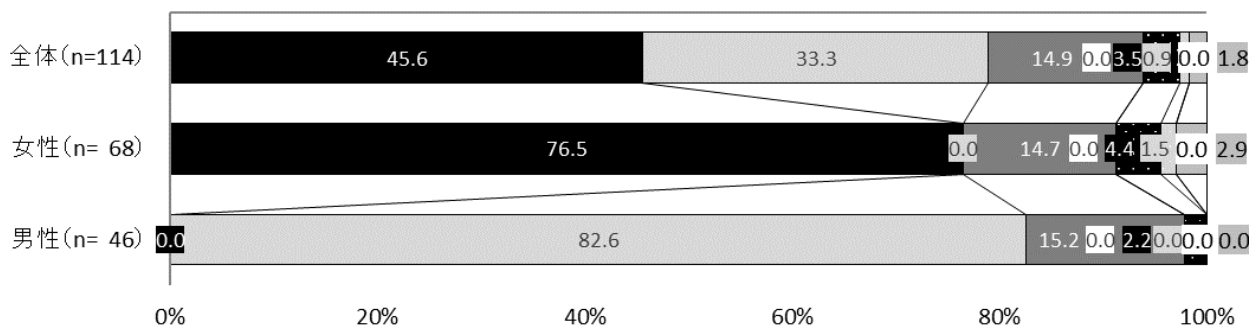


【共働きで、小学生または中学生の子どもがいる世帯の状況】

女性は「主に自分」が76.5%、男性は「主に配偶者」が82.6%とそれぞれ最も高くなっています。「共働きで、6歳未満（小学校入学前）の子どもがいる世帯」と比べて、それぞれ約15ポイント、約30ポイント高くなっています。

一方、「夫婦同じくらい」と「家族で交代・分担」を合わせた割合は、女性19.1%、男性17.4%と「共働きで、6歳未満（小学校入学前）の子どもがいる世帯」と比べて、それぞれ15ポイント、約16ポイント低くなっています。

■ 自分 □ 配偶者 ■ 夫婦同じくらい □ 夫婦以外の家族 ■ 家族で交代・分担 □ 有償サービスの利用 □ その他 □ 無回答



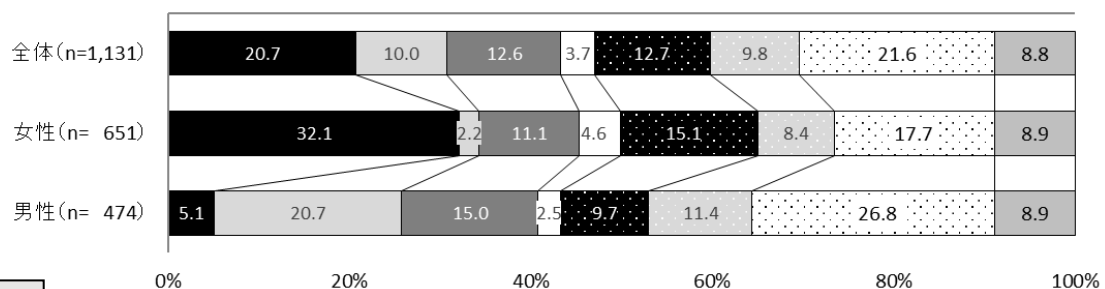
③ 介護・看護

介護・看護の担い手については、「その他」を除くと、「主に自分」が20.7%と最も高く、次いで「家族で交代・分担」が12.7%となっています。

性・年代別にみると、女性では「主に自分」が32.1%、男性では「その他」を除くと、「主に配偶者」が20.7%と最も高くなっています。また、女性は「主に自分」が最も高いのは50歳代で4割を超えており、男性でも「主に配偶者」が最も高いのは50歳代で28.3%となっています。

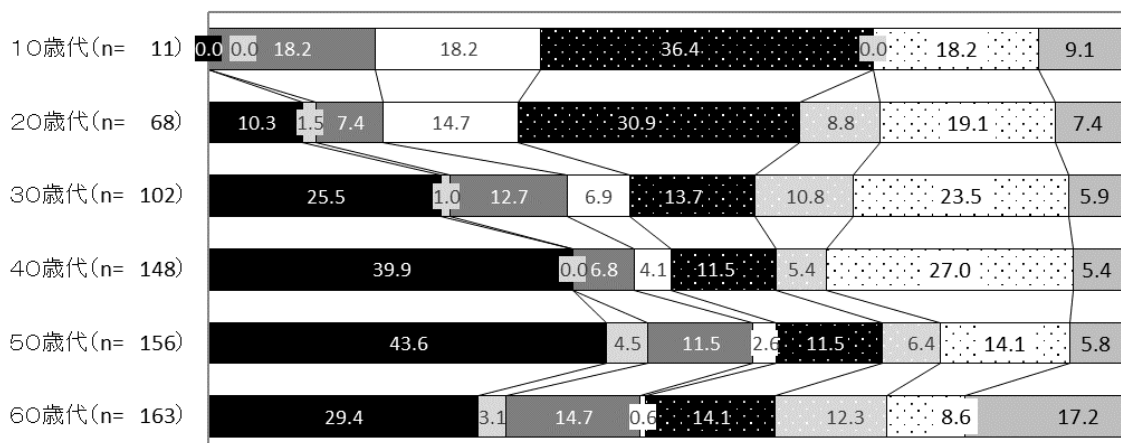
全 体

■自分 □配偶者 ■夫婦同じくらい □夫婦以外の家族 ■家族で交代・分担 □有償サービスの利用 □その他 □無回答



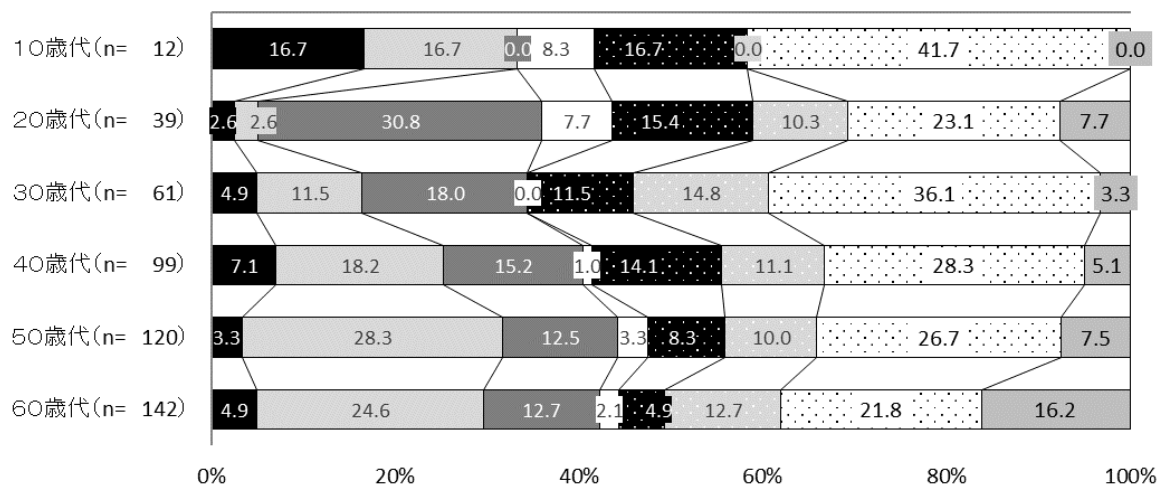
女 性

■自分 □配偶者 ■夫婦同じくらい □夫婦以外の家族 ■家族で交代・分担 □有償サービスの利用 □その他 □無回答



男 性

■自分 □配偶者 ■夫婦同じくらい □夫婦以外の家族 ■家族で交代・分担 □有償サービスの利用 □その他 □無回答



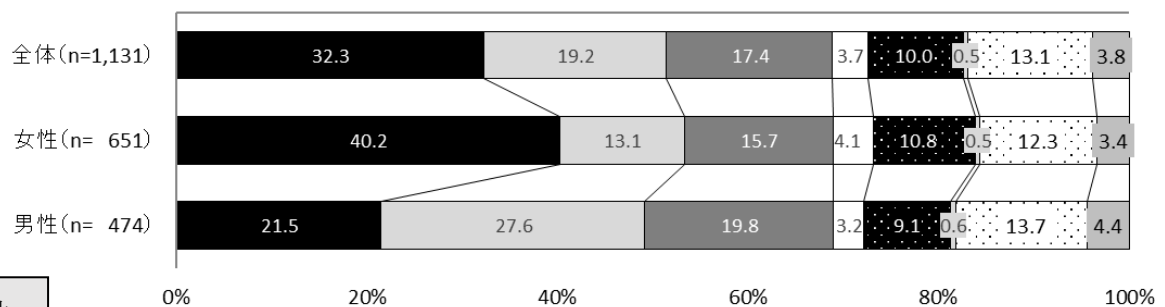
④ 自治会活動など地域の活動

自治会活動など地域の活動の担い手については、「主に自分」が32.3%と最も高く、次いで「主に配偶者」が19.2%となっています。

性・年代別にみると、女性では「主に自分」が40.2%、男性では「主に配偶者」が27.6%と最も高くなっています。また、女性の40歳代以上では「主に自分」が4割～5割で、他の年代よりも高くなっています。

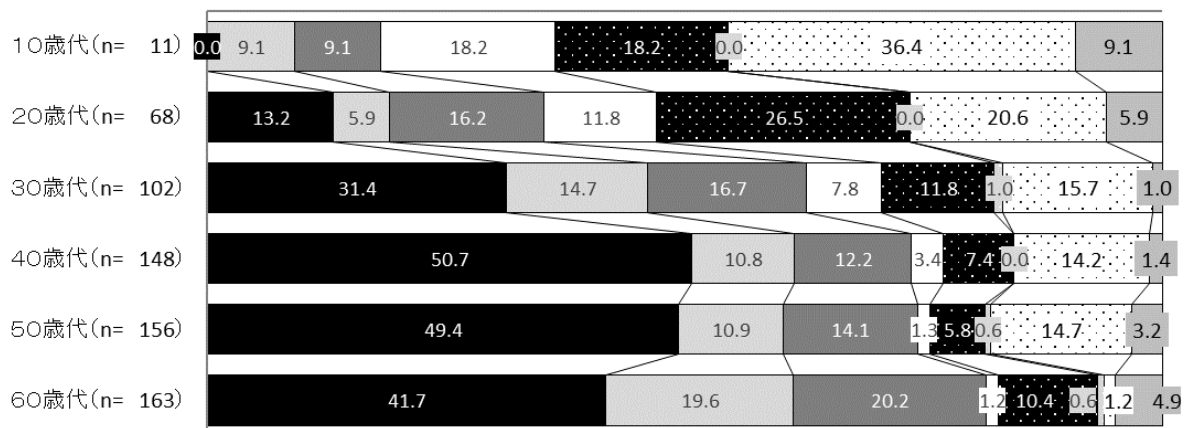
全体

■自分 □配偶者 ■夫婦同じくらい □夫婦以外の家族 ■家族で交代・分担 □有償サービスの利用 □その他 □無回答



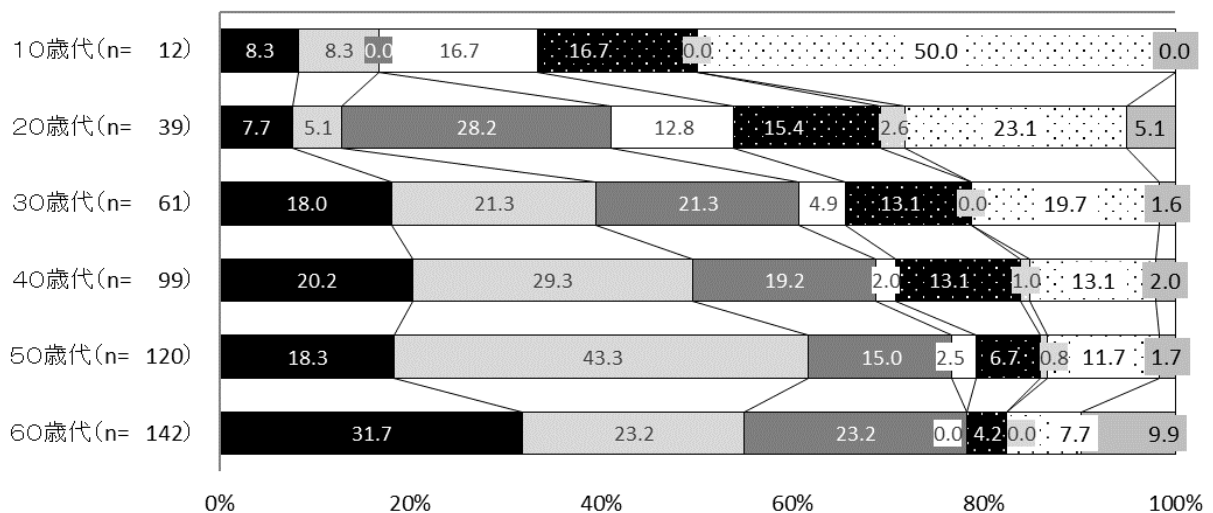
女性

■自分 □配偶者 ■夫婦同じくらい □夫婦以外の家族 ■家族で交代・分担 □有償サービスの利用 □その他 □無回答



男性

■自分 □配偶者 ■夫婦同じくらい □夫婦以外の家族 ■家族で交代・分担 □有償サービスの利用 □その他 □無回答

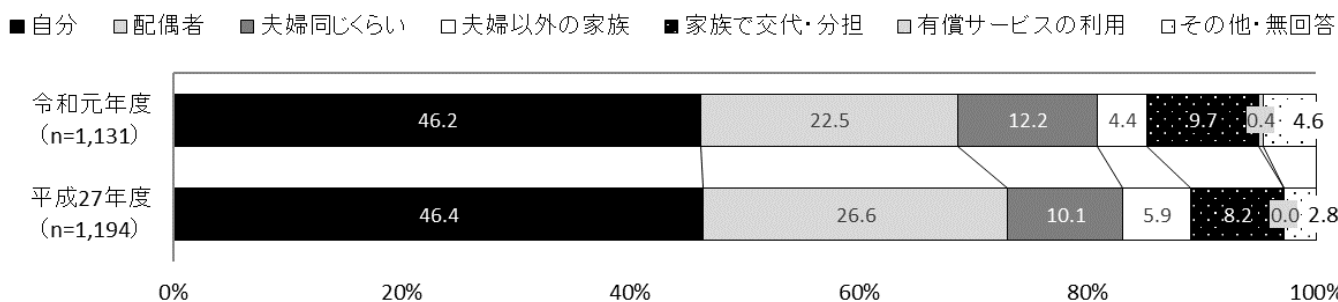


経年比較

① 家事

前回調査に引き続き、「主に自分」が最も高く、次いで「主に配偶者」、「夫婦同じくらい」の順になっています。

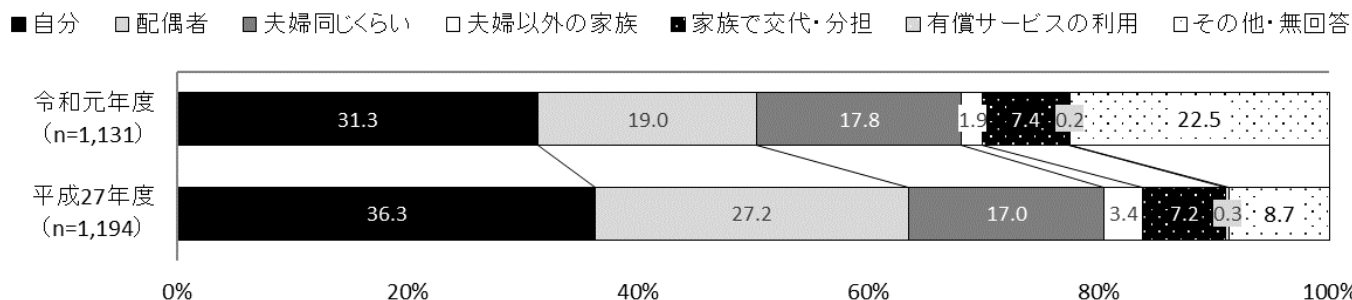
「主に配偶者」が約4ポイント下がり、「夫婦同じくらい」が約2ポイント上がっています。



② 育児・子育て

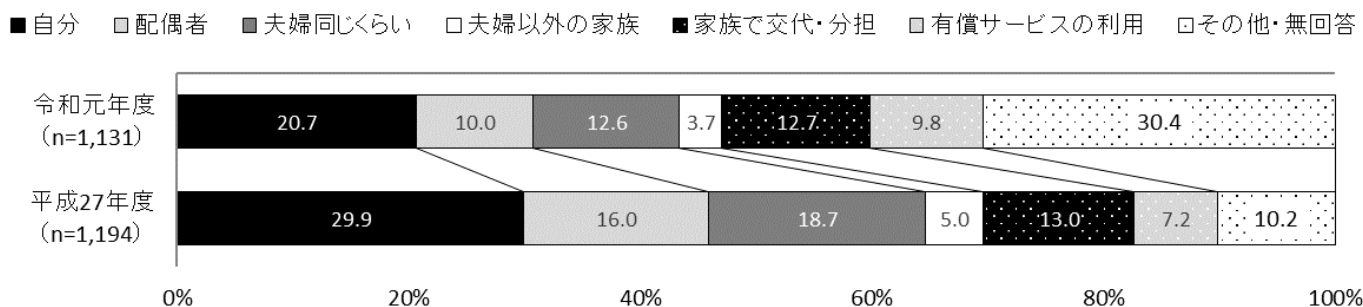
前回調査に引き続き、「その他・無回答」を除くと、「主に自分」が最も高く、次いで「主に配偶者」、「夫婦同じくらい」の順になっています。

「主に自分」が5ポイント、「主に配偶者」が約8ポイントそれぞれ下がっています。



③ 介護・看護

「その他・無回答」を除くと、前回調査に引き続き「主に自分」が最も高くなっていますが、約9ポイント下がっています。また、「主に配偶者」は6ポイント、「夫婦同じくらい」は約6ポイントそれぞれ下がっています。

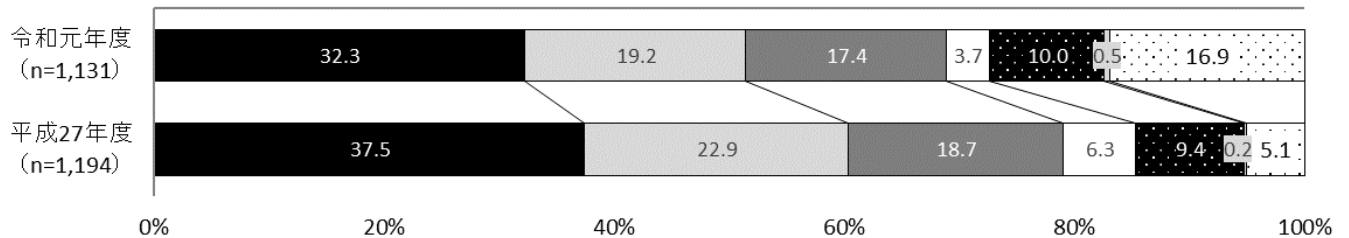


④ 自治会活動など地域の活動

前回調査に引き続き、「主に自分」が最も高く、次いで「主に配偶者」、「夫婦同じくらい」の順になっています。

「主に自分」は約5ポイント、「主に配偶者」は約4ポイントそれぞれ下がっています。

■自分 □配偶者 ■夫婦同じくらい □夫婦以外の家族 ■家族で交代・分担 □有償サービスの利用 □その他・無回答

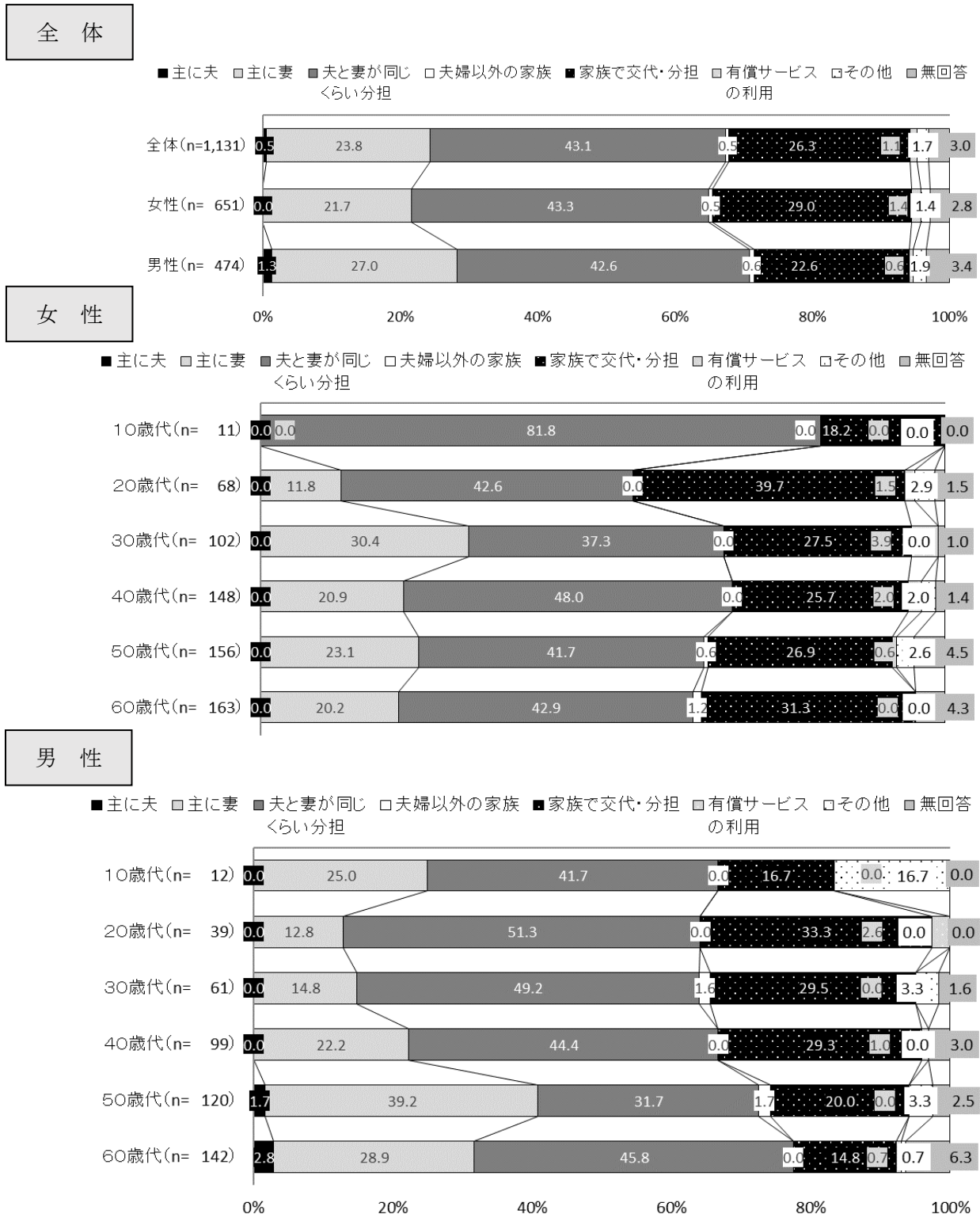


問6 あなたは、次の①～④について、家庭における役割は誰が担うのが望ましいと思いますか。項目ごとに1つずつ選んでください。

① 家事

家事の望ましい担い手については、「夫と妻が同じくらい分担」が43.1%と最も高く、次いで「家族で交代・分担」が26.3%となっています。

性・年代別にみると、男性の50歳代を除く全ての性・年代で「夫と妻が同じくらい分担」が最も高くなっています。

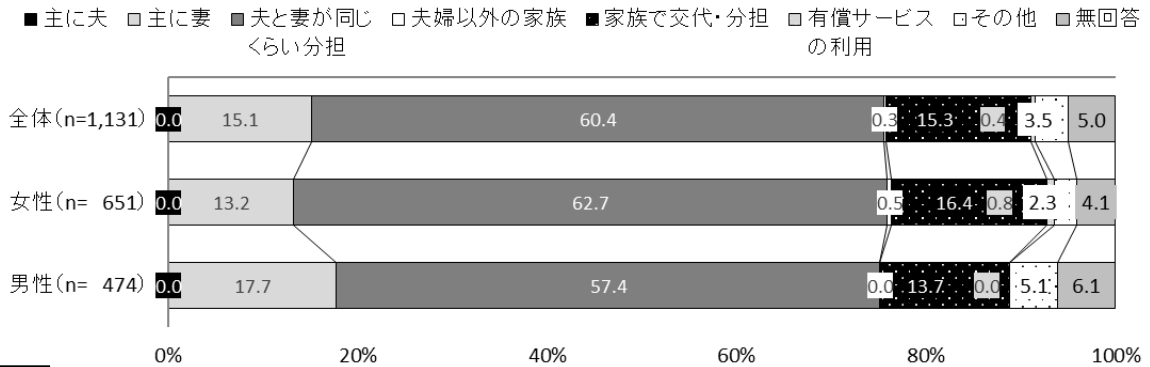


② 育児・子育て

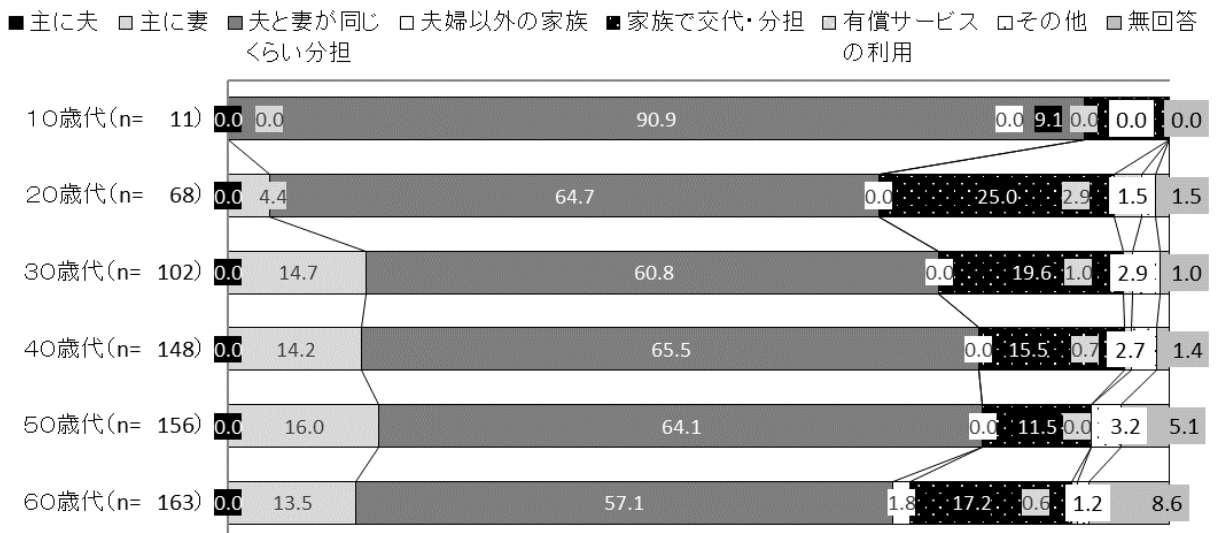
育児・子育ての望ましい担い手については、「夫と妻が同じくらい分担」が60.4%と最も高く、次いで「家族で交代・分担」が15.3%となっています。

性・年代別にみても全ての性・年代で「夫と妻が同じくらい分担」が最も高くなっています。

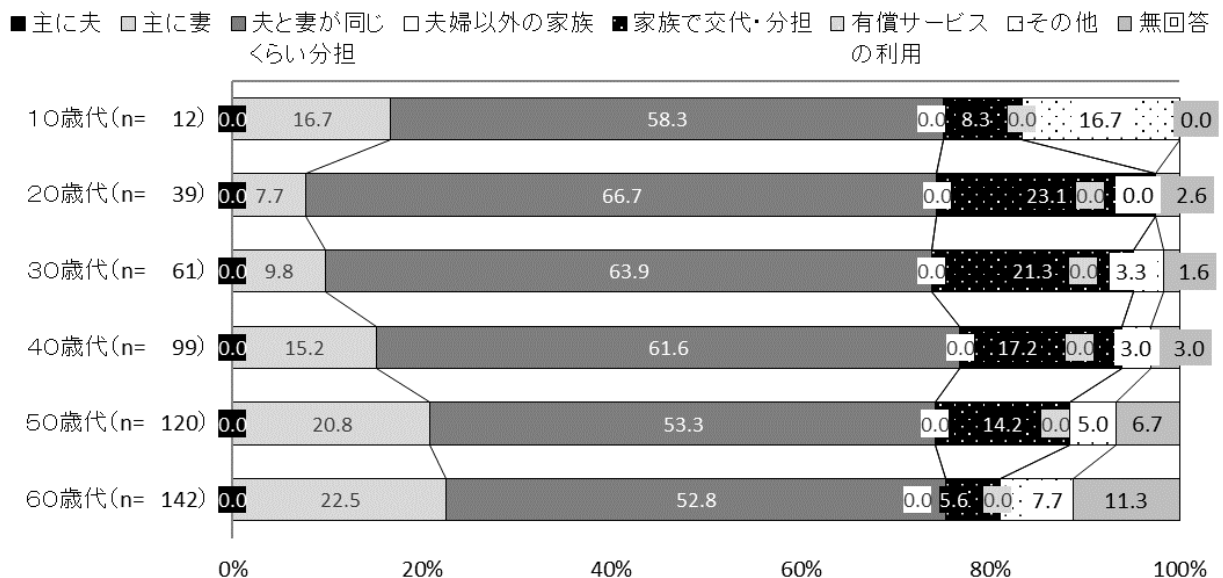
全体



女性



男性



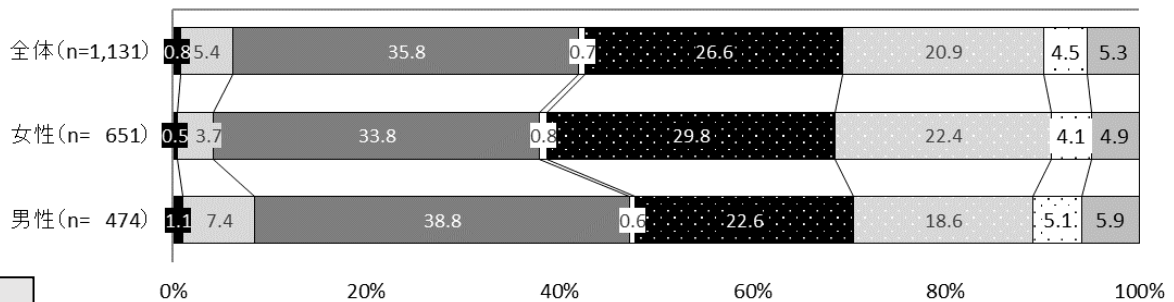
③ 介護・看護

介護・看護の望ましい担い手については、「夫と妻が同じくらい分担」が 35.8%と最も高く、次いで「家族で交代・分担」が 26.6%となっています。また、「有償サービスの利用」が 20.9%と 2 割を超えています。

性・年代別にみると、男女ともに全体的な傾向とおおむね同様となっています。

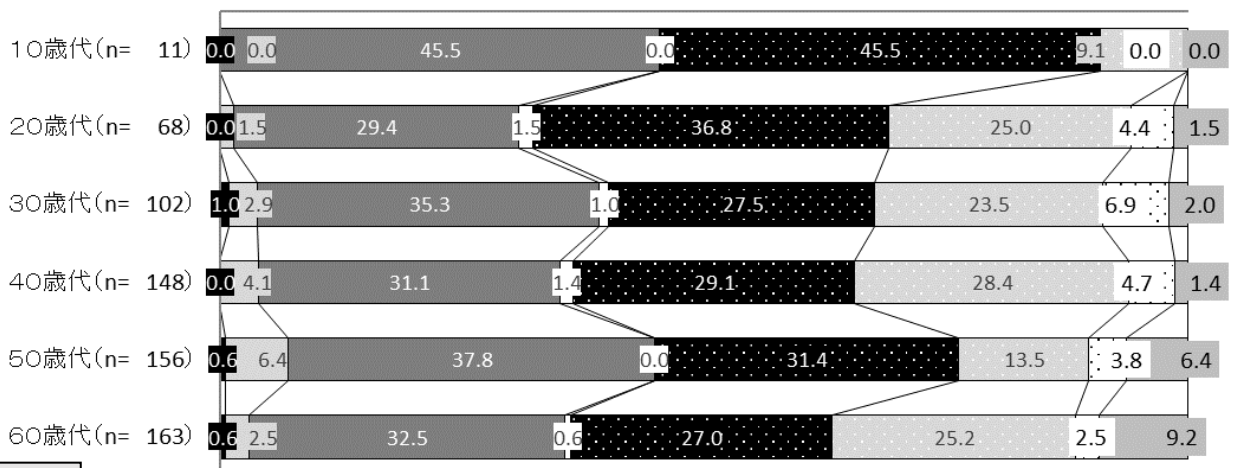
全 体

■主に夫 □主に妻 ■夫と妻が同じ □夫婦以外の家族 ■家族で交代・分担 □有償サービスの利用 □その他 □無回答



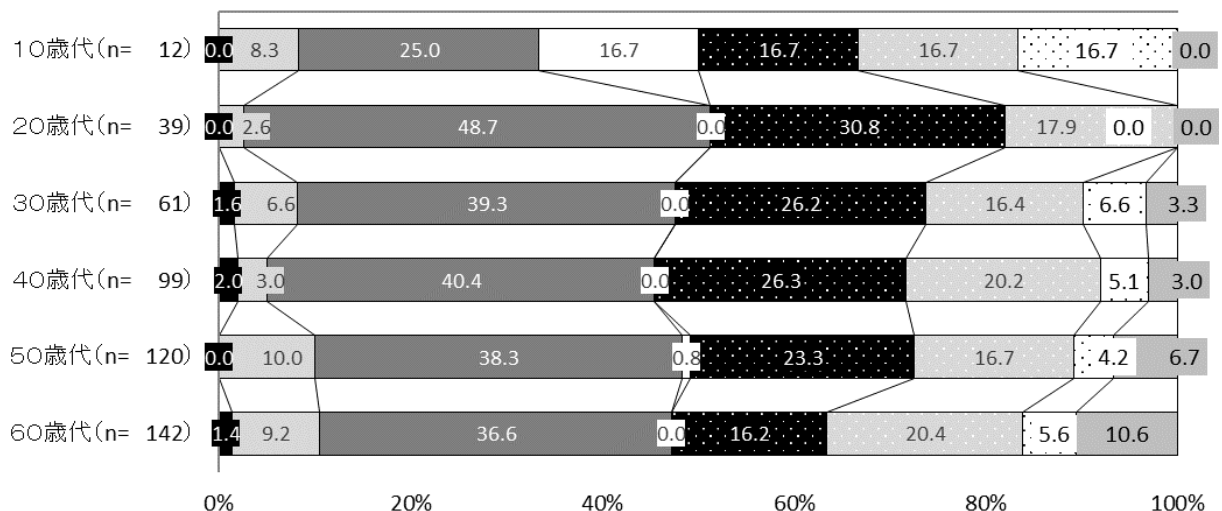
女 性

■主に夫 □主に妻 ■夫と妻が同じ □夫婦以外の家族 ■家族で交代・分担 □有償サービスの利用 □その他 □無回答



男 性

■主に夫 □主に妻 ■夫と妻が同じ □夫婦以外の家族 ■家族で交代・分担 □有償サービスの利用 □その他 □無回答



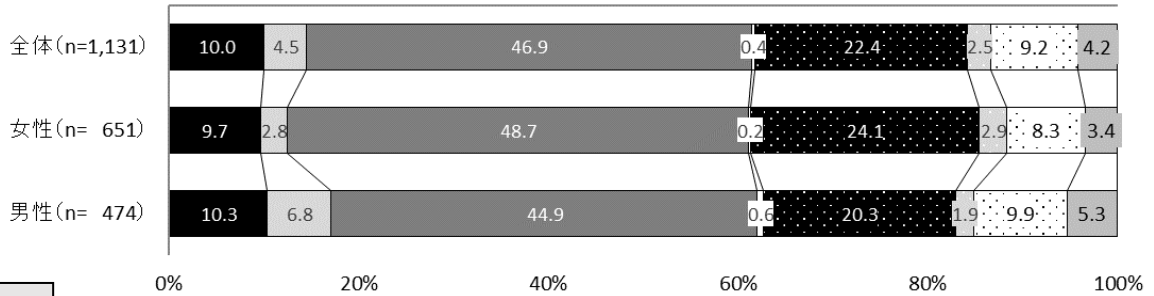
④ 自治会活動など地域の活動

自治会活動など地域の活動の望ましい担い手については、「夫と妻が同じくらい分担」が46.9%と最も高く、次いで「家族で交代・分担」が22.4%となっています。

性・年代別にみると、女性は、20歳代から60歳代で、「主に夫」が「主に妻」を上回っています。男性は、30歳代から「主に夫」が年代が上がるにつれて高くなっています。

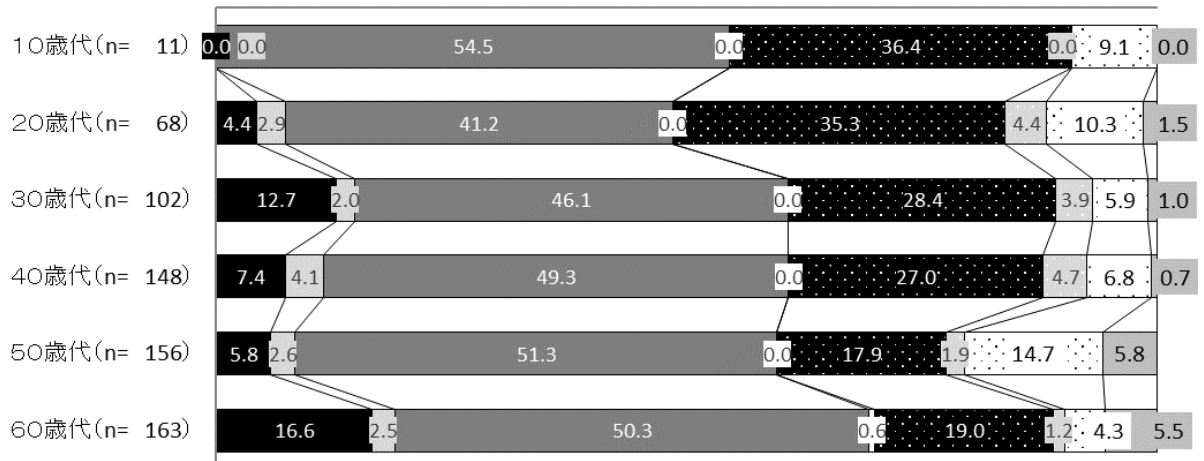
全体

■主に夫 □主に妻 ■夫と妻が同じ □夫婦以外の家族 ■家族で交代・分担 □有償サービスの利用 □その他 □無回答



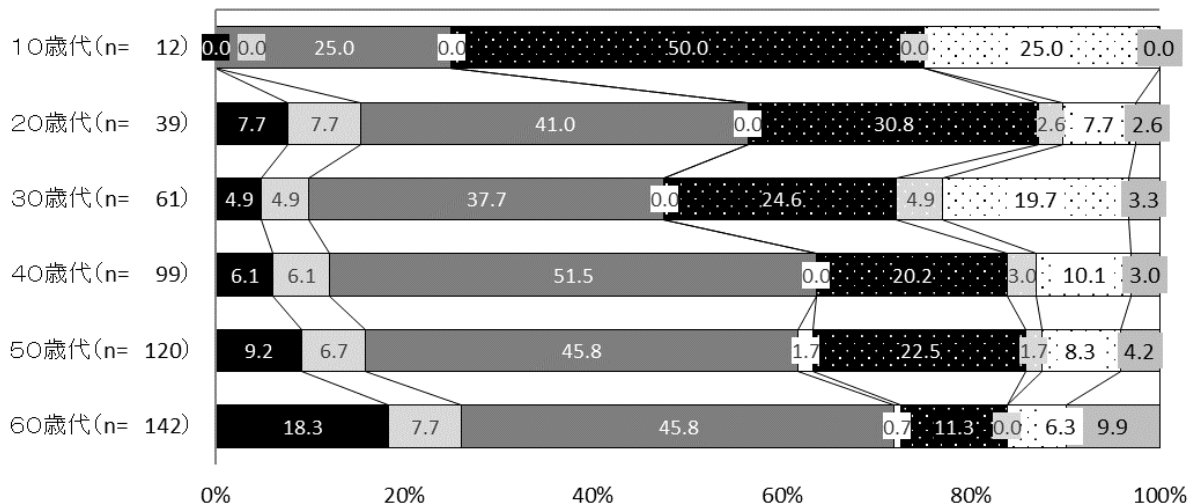
女性

■主に夫 □主に妻 ■夫と妻が同じ □夫婦以外の家族 ■家族で交代・分担 □有償サービスの利用 □その他 □無回答



男性

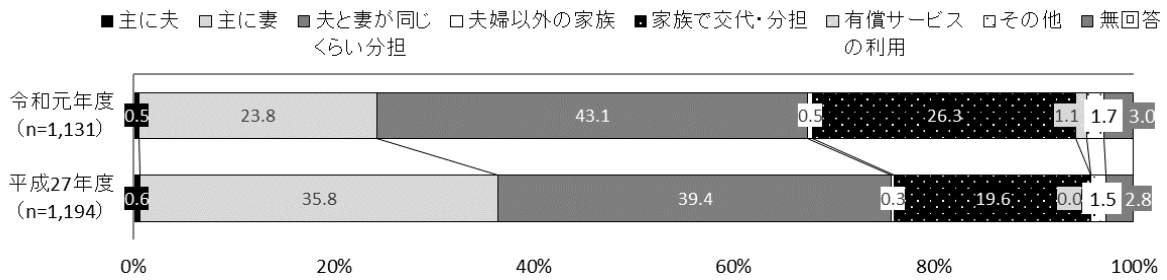
■主に夫 □主に妻 ■夫と妻が同じ □夫婦以外の家族 ■家族で交代・分担 □有償サービスの利用 □その他 □無回答



経年比較

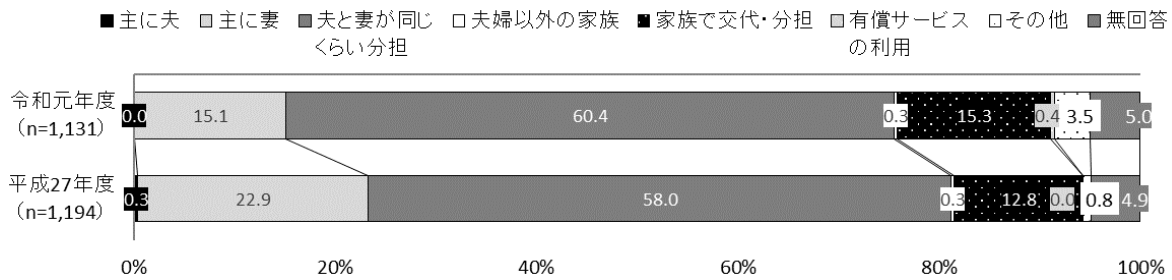
① 家事

前回調査に引き続き、「夫と妻が同じくらい分担」が最も高くなっていますが、次いで前は「主に妻」でしたが、今回は「家族で交代・分担」という結果になりました。「主に妻」は12ポイント下がり、「家族で交代・分担」は約7ポイント上がっています。



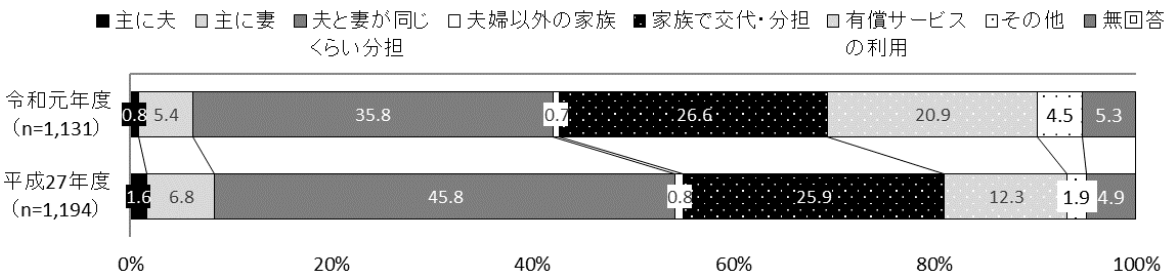
② 育児・子育て

前回調査に引き続き、「夫と妻が同じくらい分担」が最も高くなっていますが、次いで前は「主に妻」でしたが、今回は「家族で交代・分担」という結果になりました。「主に妻」は約8ポイント下がり、「家族で交代・分担」は約3ポイント上がっています。



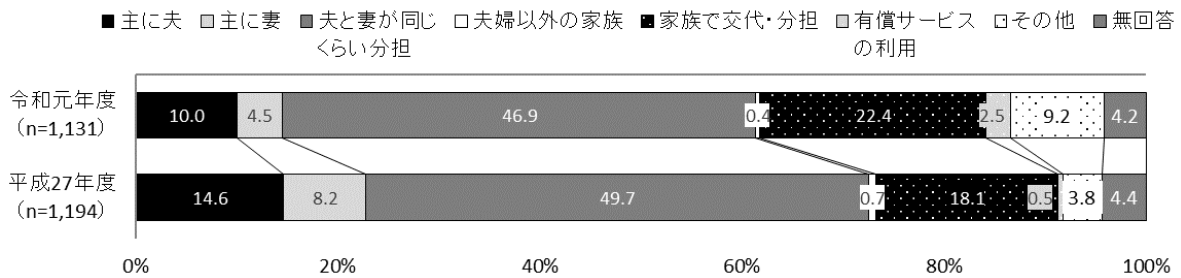
③ 介護・看護

前回調査に引き続き、「夫と妻が同じくらい分担」が最も高く、次いで「家族で交代・分担」、「有償サービスの利用」という順になりました。「有償サービスの利用」は約9ポイント上がっています。



④ 自治会活動など地域の活動

前回調査に引き続き、「夫と妻が同じくらい分担」が最も高く、次いで「家族で交代・分担」、「主に夫」という順になりました。「主に夫」は約5ポイント、「主に妻」は約4ポイントそれぞれ下がっています。



問7 次の①～⑨の中で、あなたが各活動に費やしている時間は一日のうちどれくらいですか。（配偶者がいる方は、その方についてもお答えください。）該当しない項目は、枠内に「-」を記入してください。回答の合計が24時間になるようにお答えください。

※回答の合計が24時間になるもののみ、有効回答としています。また、配偶者として回答したものも含まれています。

① 仕事や学校がある日

仕事や学校がある日については、「仕事・学校」が7時間24分と最も長く、次いで「睡眠時間」が6時間37分でした。

性・年代別にみると、「仕事・学校」については、女性が5時間43分、男性が9時間2分と男性が3時間19分長い結果となりました。一方、「家事」は女性が3時間36分、男性が43分と女性が2時間53分長く、「育児・子育て」は女性が1時間17分、男性が17分と女性が1時間長い結果となりました。また、「育児・子育て」は女性・男性ともに30歳代が最も長い結果となりました。「個人の時間」、「睡眠時間」は性差がありませんでした。

仕事や学校がある日	n	仕事・学校	通勤・通学時間	家事	育児・子育て	介護・看護	地域活動 自治会活動などの	個人の時間	睡眠時間	その他	
全体	1,082	7時間24分	1時間6分	2時間9分	46分	5分	7分	2時間40分	6時間37分	3時間2分	
女性	534	5時間43分	48分	3時間36分	1時間17分	7分	8分	2時間41分	6時間35分	3時間1分	
男性	545	9時間2分	1時間24分	43分	17分	3分	5分	2時間40分	6時間39分	3時間2分	
女性	10歳代	6	7時間46分	2時間19分	1時間20分	0分	0分	10分	4時間10分	6時間20分	1時間54分
	20歳代	48	7時間49分	1時間33分	1時間8分	43分	0分	0分	3時間33分	6時間51分	2時間18分
	30歳代	66	6時間22分	1時間2分	3時間0分	2時間50分	3分	3分	2時間11分	6時間25分	2時間0分
	40歳代	92	6時間1分	42分	4時間0分	1時間59分	4分	5分	2時間6分	6時間23分	2時間37分
	50歳代	87	6時間19分	46分	3時間48分	19分	7分	9分	3時間7分	6時間19分	3時間2分
	60歳代	63	5時間11分	45分	4時間11分	12分	10分	11分	2時間29分	6時間32分	4時間14分
男性	10歳代	10	7時間4分	56分	12分	6分	0分	0分	6時間19分	6時間36分	2時間46分
	20歳代	24	8時間21分	1時間32分	49分	7分	0分	0分	3時間30分	6時間46分	2時間52分
	30歳代	43	8時間49分	1時間15分	53分	50分	0分	2分	3時間4分	6時間30分	2時間33分
	40歳代	67	10時間12分	1時間38分	49分	17分	10分	1分	2時間4分	6時間25分	2時間19分
	50歳代	77	9時間29分	1時間33分	39分	9分	1分	6分	2時間42分	6時間21分	2時間55分
	60歳代	71	6時間55分	1時間11分	57分	0分	5分	22分	3時間23分	7時間3分	3時間59分

② 休みの日・仕事や学校のない日

休みの日・仕事や学校のない日については、「睡眠時間」が7時間26分と最も長く、次いで「個人の時間」が6時間16分でした。

性・年代別にみると、「家事」については、女性が4時間47分、男性が2時間4分と女性が2時間43分長い結果となりました。一方、「個人の時間」については、女性が5時間5分、男性が7時間52分と男性が2時間47分長い結果となりました。

「育児・子育て」は女性・男性ともに30歳代がそれぞれ最も長い結果となりました。

休みの日・仕事や学校のない日		n	家事	育児・子育て	介護・看護	自治会活動などの地域活動	個人の時間	睡眠時間	その他
全体		835	3時間38分	1時間40分	13分	12分	6時間16分	7時間26分	4時間33分
女性		478	4時間47分	1時間57分	16分	10分	5時間5分	7時間17分	4時間25分
男性		354	2時間4分	1時間18分	9分	14分	7時間52分	7時間38分	4時間42分
女性	10歳代	8	41分	0分	0分	15分	11時間1分	8時間37分	3時間25分
	20歳代	42	2時間4分	27分	5分	0分	8時間58分	8時間20分	4時間3分
	30歳代	73	3時間59分	5時間18分	3分	5分	4時間25分	7時間18分	2時間49分
	40歳代	108	5時間11分	2時間55分	10分	10分	3時間41分	7時間8分	4時間41分
	50歳代	101	5時間20分	31分	28分	12分	5時間25分	7時間12分	4時間48分
	60歳代	108	5時間25分	12分	21分	14分	4時間19分	6時間52分	6時間35分
男性	10歳代	7	21分	17分	0分	0分	11時間4分	8時間25分	3時間51分
	20歳代	25	1時間45分	9分	15分	4分	10時間34分	8時間21分	2時間48分
	30歳代	42	2時間5分	3時間5分	10分	12分	7時間10分	7時間20分	3時間57分
	40歳代	65	2時間32分	2時間0分	8分	10分	6時間46分	7時間39分	4時間42分
	50歳代	75	2時間3分	24分	8分	10分	7時間48分	7時間22分	6時間1分
	60歳代	95	2時間6分	1分	10分	31分	7時間2分	7時間29分	6時間37分

【就業者の状況】

仕事がある日

就業者（仕事がある日）については、「仕事」が8時間33分と最も長く、次いで「睡眠時間」が6時間36分でした。

性別にみると、「仕事」は、女性が7時間17分、男性が9時間34分と男性が2時間17分長い結果となりました。一方、「家事」は女性が3時間4分、男性が39分、「育児・子育て」は、女性が1時間1分、男性が17分と、それぞれ女性が2時間25分、44分長い結果となりました。

仕事がある日	n	仕事	通勤時間	家事	育児・子育て	介護・看護	自治会活動などの地域活動	個人の時間	睡眠時間	その他	
		全体	891	8時間33分	1時間15分	1時間44分	37分	4分	3分	2時間21分	6時間36分
女性	396	7時間17分	57分	3時間4分	1時間1分	6分	3分	2時間19分	6時間34分	2時間36分	
男性	493	9時間34分	1時間29分	39分	17分	2分	4分	2時間23分	6時間38分	2時間50分	
女性	10歳代	2	7時間30分	2時間45分	30分	0分	0分	0分	4時間0分	6時間15分	3時間0分
	20歳代	36	8時間36分	1時間32分	59分	25分	0分	0分	3時間19分	6時間55分	2時間11分
	30歳代	54	7時間32分	1時間10分	2時間28分	2時間9分	4分	0分	2時間0分	6時間16分	2時間16分
	40歳代	72	7時間41分	53分	3時間23分	1時間35分	5分	2分	1時間53分	6時間26分	1時間57分
	50歳代	73	7時間28分	52分	3時間12分	18分	7分	3分	2時間47分	6時間21分	2時間48分
	60歳代	51	6時間16分	50分	3時間50分	7分	9分	8分	2時間21分	6時間30分	3時間43分
男性	10歳代	0									
	20歳代	17	9時間12分	1時間21分	1時間6分	10分	0分	0分	3時間19分	6時間42分	2時間7分
	30歳代	38	9時間46分	1時間23分	54分	56分	0分	3分	2時間21分	6時間30分	2時間2分
	40歳代	65	10時間19分	1時間39分	49分	18分	11分	1分	2時間4分	6時間22分	2時間13分
	50歳代	75	9時間36分	1時間35分	37分	9分	1分	6分	2時間35分	6時間23分	2時間54分
	60歳代	59	8時間10分	1時間26分	46分	1分	2分	14分	2時間38分	6時間57分	3時間43分

仕事がない日

就業者（仕事がない日）については、「睡眠時間」が7時間30分と最も長く、次いで「個人の時間」が6時間26分でした。

性別にみると、「家事」は、女性が4時間32分、男性が2時間10分と女性が2時間22分長い結果となりました。一方、「個人の時間」は女性が5時間23分、男性が7時間36分と男性が2時間13分長い結果となりました。

仕事がない日		n	家事	育児・子育て	介護・看護	自治会活動などの地域活動	個人の時間	睡眠時間	その他
全体		589	3時間24分	1時間44分	11分	11分	6時間26分	7時間30分	4時間30分
女性		306	4時間32分	1時間54分	17分	9分	5時間23分	7時間23分	4時間19分
男性		281	2時間10分	1時間35分	5分	13分	7時間36分	7時間39分	4時間39分

女性	10歳代	2	30分	0分	0分	0分	9時間30分	9時間0分	5時間0分
	20歳代	29	2時間4分	18分	0分	0分	9時間13分	8時間45分	3時間37分
	30歳代	55	3時間56分	4時間5分	4分	3分	5時間16分	7時間17分	3時間16分
	40歳代	75	5時間3分	2時間42分	10分	14分	4時間4分	7時間14分	4時間30分
	50歳代	73	4時間57分	30分	34分	8分	5時間33分	7時間18分	4時間57分
	60歳代	45	5時間2分	9分	26分	12分	4時間15分	7時間2分	6時間52分

男性	10歳代	0							
	20歳代	15	2時間26分	16分	0分	0分	10時間14分	8時間0分	3時間4分
	30歳代	35	2時間17分	3時間36分	12分	14分	6時間48分	7時間22分	3時間29分
	40歳代	61	2時間31分	2時間1分	4分	11分	6時間36分	7時間44分	4時間49分
	50歳代	71	2時間5分	25分	5分	10分	7時間45分	7時間23分	6時間2分
	60歳代	56	2時間12分	1分	6分	28分	6時間46分	7時間31分	6時間54分

【未就業者の状況】

未就業者については、「睡眠時間」が7時間15分と最も長く、次いで「個人の時間」が5時間49分でした。

性・年代別にみると、「家事」は、女性が5時間12分、男性が1時間43分、「育児・子育て」は、女性が2時間3分、男性が9分と女性が1時間54分長い結果となりました。一方、「個人の時間」は女性が4時間34分、男性が8時間51分と男性が4時間17分長い結果となりました。

また、「育児・子育て」は女性の30歳代が9時間3分と他の年代と比べ大きく上回る結果となりました。

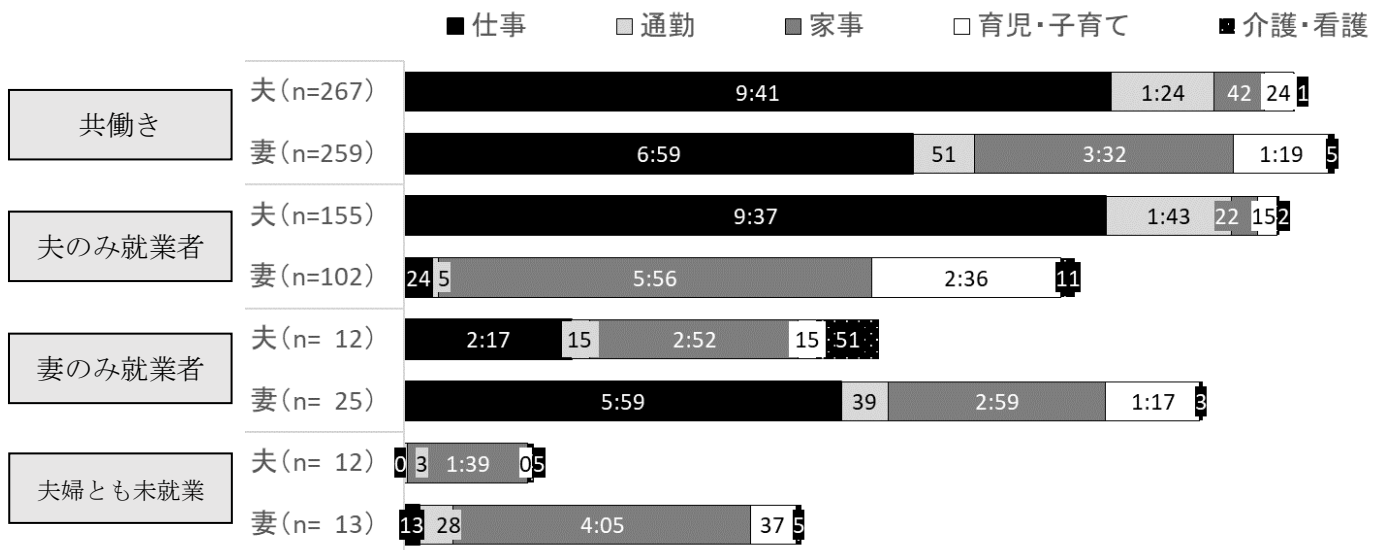
		n	家事	育児・子育て	介護・看護	地域活動 自治会活動などの	個人の時間	睡眠時間	その他
	全体	245	4時間11分	1時間29分	17分	15分	5時間49分	7時間15分	4時間42分
	女性	172	5時間12分	2時間3分	15分	12分	4時間34分	7時間6分	4時間35分
	男性	72	1時間43分	9分	22分	21分	8時間51分	7時間35分	4時間56分
女性	10歳代	6	45分	0分	0分	0分	11時間31分	8時間30分	2時間53分
	20歳代	13	2時間4分	46分	18分	0分	8時間25分	7時間25分	5時間0分
	30歳代	18	4時間10分	9時間3分	0分	10分	1時間48分	7時間21分	1時間26分
	40歳代	33	5時間29分	3時間26分	11分	3分	2時間48分	6時間55分	5時間5分
	50歳代	27	6時間13分	17分	15分	22分	5時間15分	7時間0分	4時間35分
	60歳代	59	5時間43分	14分	15分	16分	4時間15分	6時間46分	6時間28分
男性	10歳代	7	21分	17分	0分	0分	11時間4分	8時間25分	3時間51分
	20歳代	10	45分	0分	38分	12分	11時間6分	8時間54分	2時間25分
	30歳代	6	45分	0分	0分	0分	10時間5分	7時間10分	6時間0分
	40歳代	4	2時間37分	1時間45分	1時間0分	0分	9時間7分	6時間22分	3時間7分
	50歳代	4	1時間22分	0分	1時間17分	2分	8時間25分	7時間0分	5時間52分
	60歳代	37	2時間1分	3分	17分	38分	7時間14分	7時間27分	6時間17分

【結婚している人の活動時間】

仕事がある日

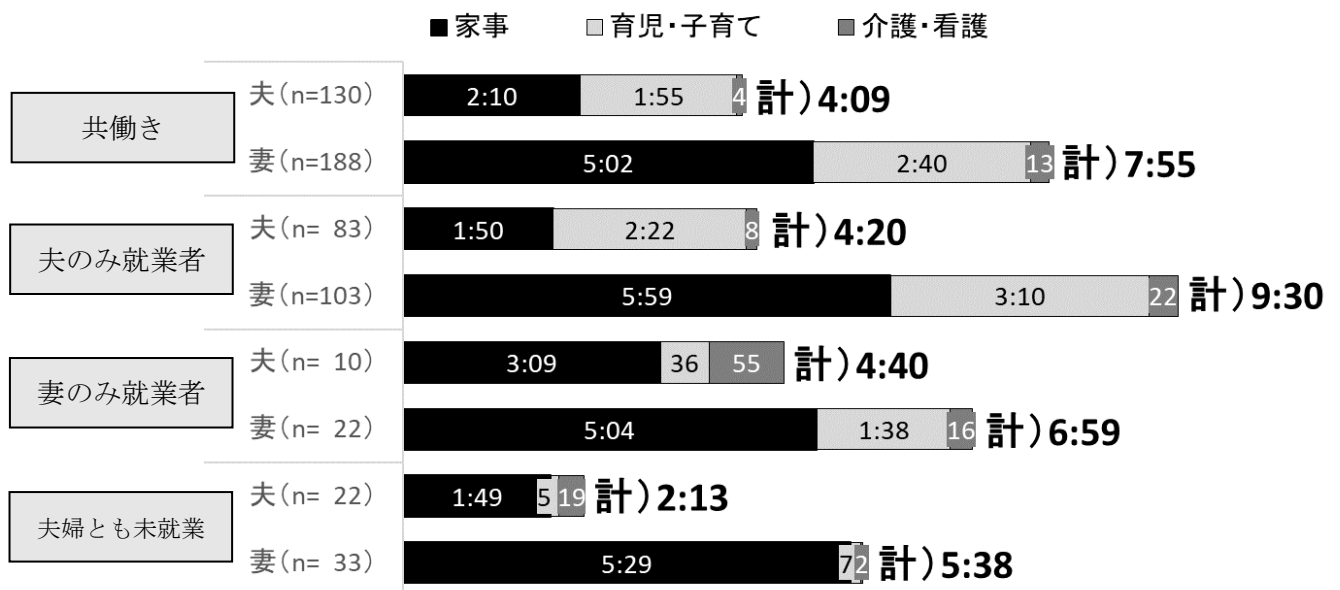
共働き世帯の「仕事」は、夫が9時間41分、妻が6時間59分と、夫が2時間42分長い結果となりましたが、「家事」、「育児・子育て」、「介護・看護」を合わせた時間（以下、「家事参加時間」という。）は、夫が1時間7分、妻が4時間56分と、妻が3時間49分長い結果となりました。

家事参加時間について、夫のみ就業者世帯は、夫が39分、妻が8時間43分と妻が8時間4分長い結果となりました。妻のみ就業者世帯においても、夫が3時間58分、妻が4時間19分と妻が21分長い結果となりました。



仕事がない日

家事参加時間は、共働き、夫のみ就業者、妻のみ就業者、夫婦とも未就業者と全ての世帯でそれぞれ、妻が3時間46分、5時間10分、2時間19分、3時間25分長い結果となりました。



【6歳未満（小学校入学前）の子どもを持つ世帯の活動時間】

仕事がある日

共働き世帯において、「仕事」は夫が10時間16分、妻が7時間2分と、夫が3時間14分長く、家事参加時間は、夫が2時間36分、妻が6時間51分と、妻が4時間15分長い結果となりました。

夫のみ就業者世帯において、家事参加時間は、夫が1時間4分、妻が12時間33分と、妻が11時間29分長い結果となりました。

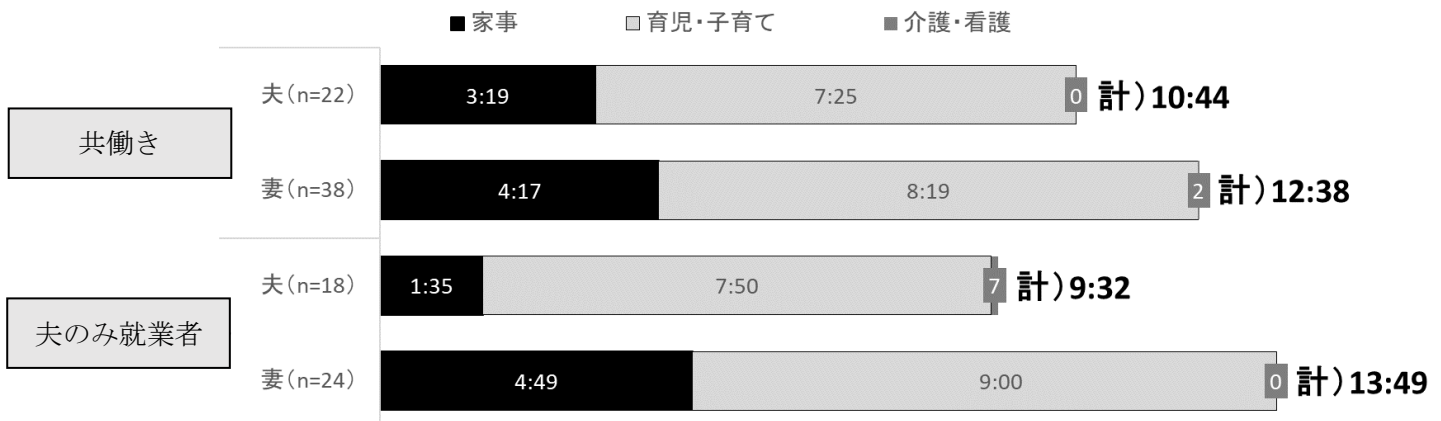
共働き世帯と夫のみ就業者世帯の家事参加時間を比較すると、夫は共働き世帯の方が1時間32分長く、妻は夫のみ就業者世帯の方が5時間42分長い結果となりました。



仕事がない日

「家事」は、共働き世帯で夫が3時間19分、妻が4時間17分、夫のみ就業者世帯で夫が1時間35分、妻が4時間49分と、それぞれ妻が58分、3時間14分長い結果となりました。

「育児・子育て」は共働き世帯で夫が7時間25分、妻が8時間19分、夫のみ就業者世帯で夫が7時間50分、妻が9時間と、それぞれ妻が54分、1時間10分長い結果となりました。



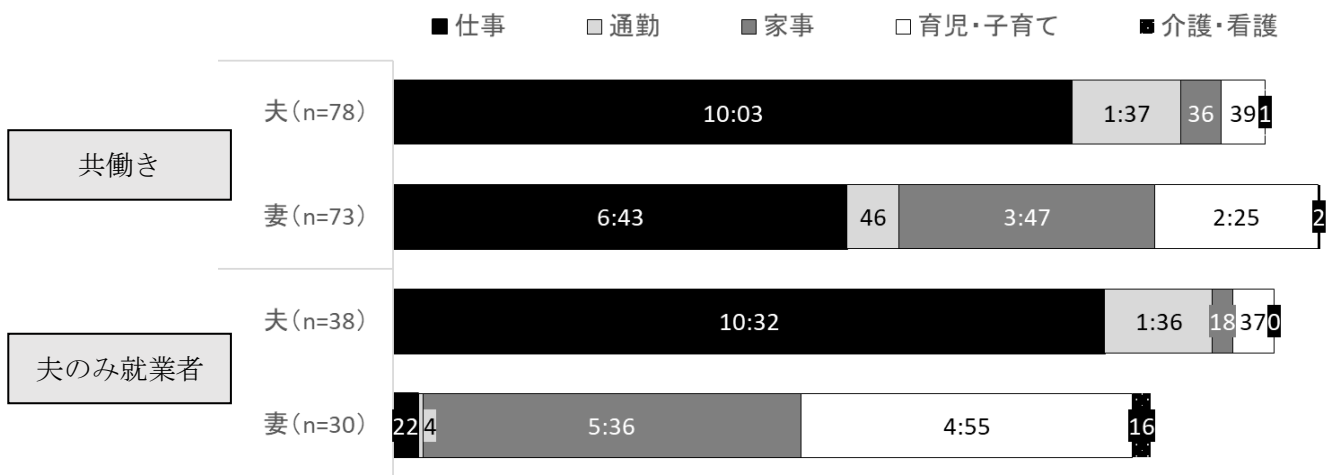
【小中学生の子どもを持つ世帯の活動時間】

仕事がある日

共働き世帯において、「仕事」は夫が10時間3分、妻が6時間43分と、夫が3時間20分長く、家事参加時間は、夫が1時間16分、妻が6時間14分と妻が4時間58分長い結果となりました。

夫のみ就業者世帯において、家事参加時間は、夫が55分、妻が10時間47分と妻が9時間52分長い結果となりました。

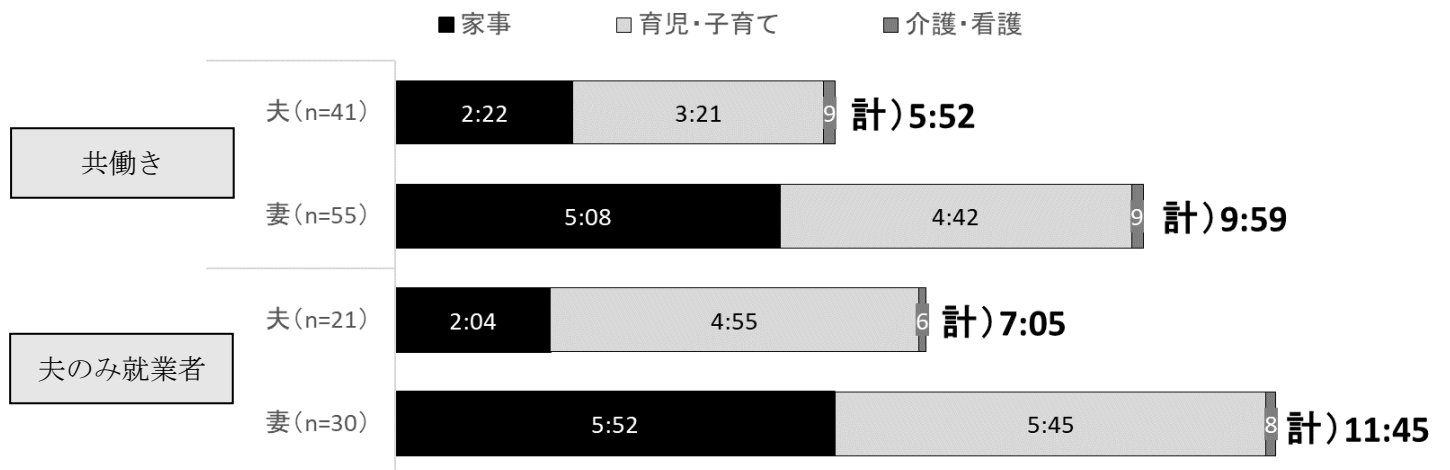
共働き世帯と夫のみ就業者世帯の家事参加時間を比較すると、夫は、共働き世帯が1時間16分、夫のみ就業者世帯が55分と、共働き世帯が21分長い結果となりました。妻は、共働き世帯が6時間14分、夫のみ就業者世帯が10時間47分と、夫のみ就業者世帯が4時間33分長い結果となりました。



仕事がない日

「家事」は、共働き世帯で夫が2時間22分、妻が5時間8分、夫のみ就業者世帯で夫が2時間4分、妻が5時間52分と、それぞれ妻が2時間46分、3時間48分長い結果となりました。

「育児・子育て」は共働き世帯で夫が3時間21分、妻が4時間42分、夫のみ就業者世帯で夫が4時間55分、妻が5時間45分と、それぞれ妻が1時間21分、50分長い結果となりました。



【6歳未満（小学校入学前）の子どもを持つ人の活動時間（週平均）】

「仕事や学校のある日」と「休みの日・仕事や学校のない日」をそれぞれ5：2で案分した値を週平均として算出すると、「家事」は、夫が1時間19分、妻が3時間41分と、妻が2時間22分長い結果となりました。「育児・子育て」は夫が3時間3分、妻が6時間14分と、妻が3時間11分長い結果となりました。



◎ひらつか男女共同参画プラン2017-指標◎

「6歳未満（小学校入学前）の子どもを育てている夫婦世帯における、夫の家事参加時間」

令和2年度の前期目標値を1日あたり150分※と定めていますが、今回の調査では、4時間23分（=263分）という結果になりました。

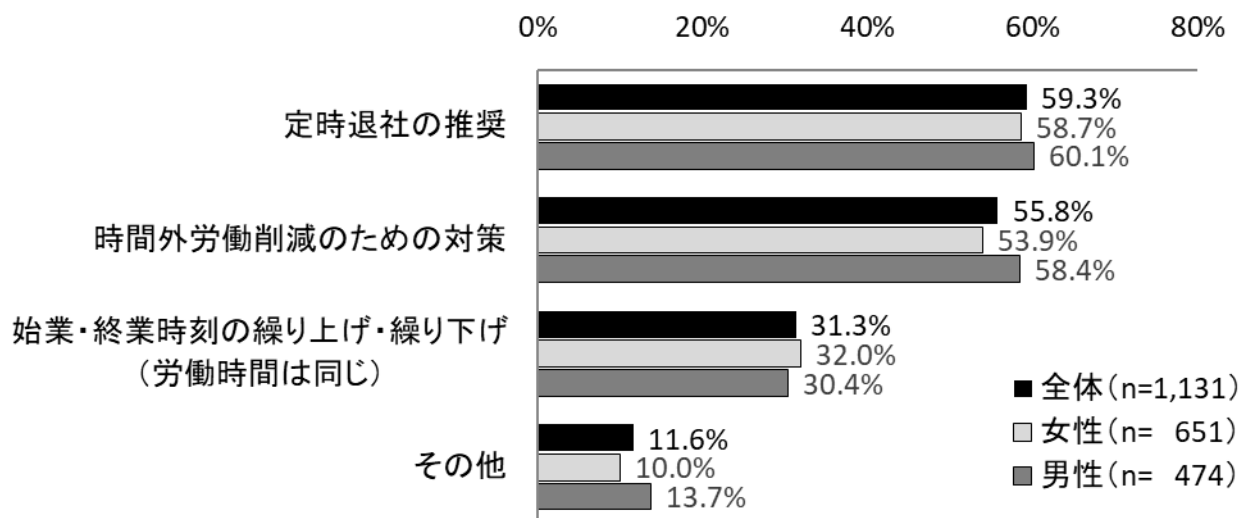
※6歳未満の子どもを持つ夫婦と子どもの世帯の夫の1日当たりの「家事」「介護・看護」「育児」及び「買い物」の合計時間（週全体平均）で、内閣府策定の第4次男女共同参画基本計画における目標値です。

問8 あなたは、仕事と子育て・家庭生活を両立するために、行政や企業においてどのような取組が進めば良いと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

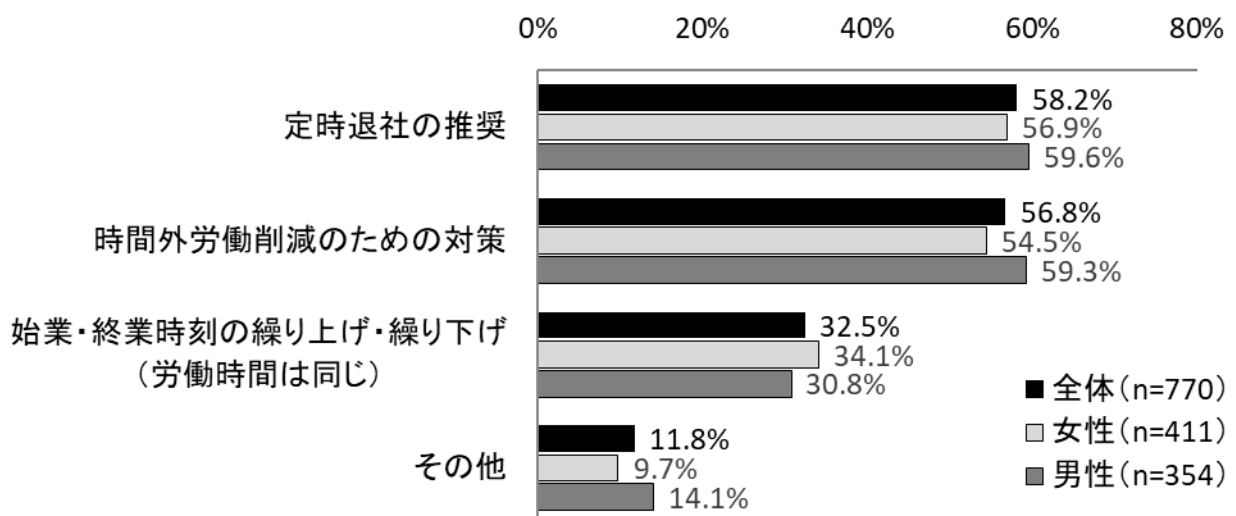
長時間労働の抑制について

「定時退社の推奨」が59.3%と最も高く、次いで「時間外労働削減のための対策」が55.8%となっています。「その他」としては、「定時退社でも生活できる給料体系の構築が重要である」などの回答がありました。

就業者に限ってみても、全体の傾向とほぼ同様となっています。



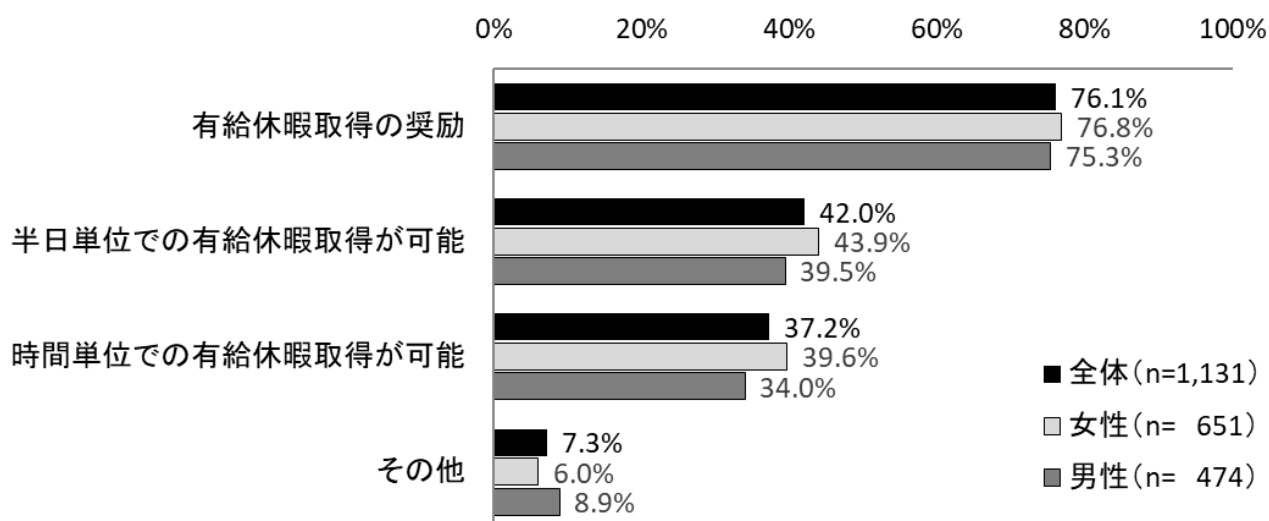
就業者



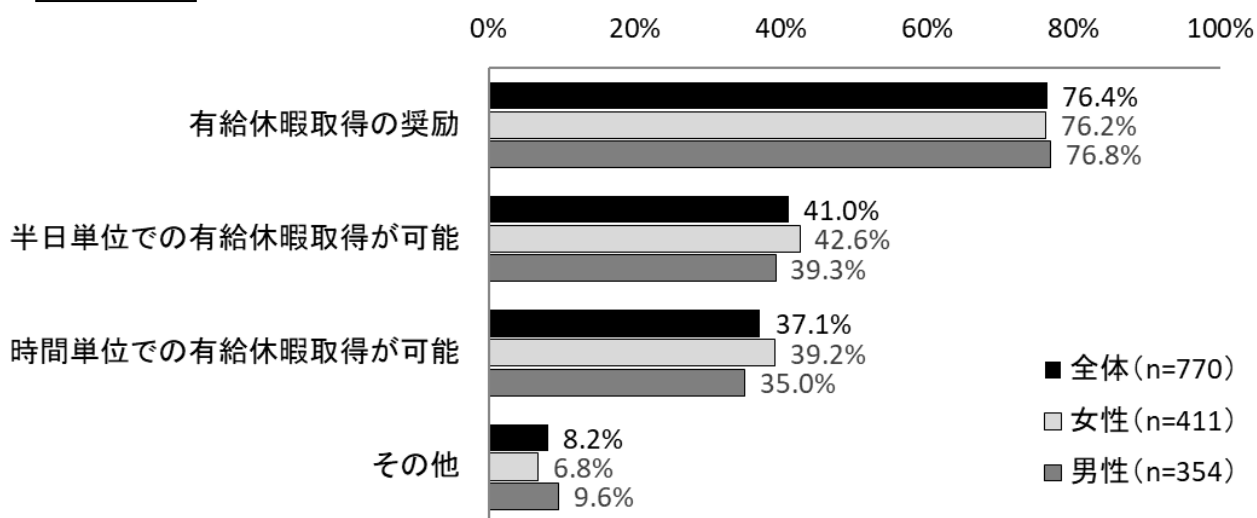
年次有給休暇の取得促進について

「有給休暇取得の奨励」が76.1%と最も高く、次いで「半日単位での有給休暇取得が可能」が42.0%となっています。「その他」としては、「有給休暇を取得しやすい環境作りが重要である」などの回答がありました。

就業者に限ってみても、全体の傾向とほぼ同様となっています。



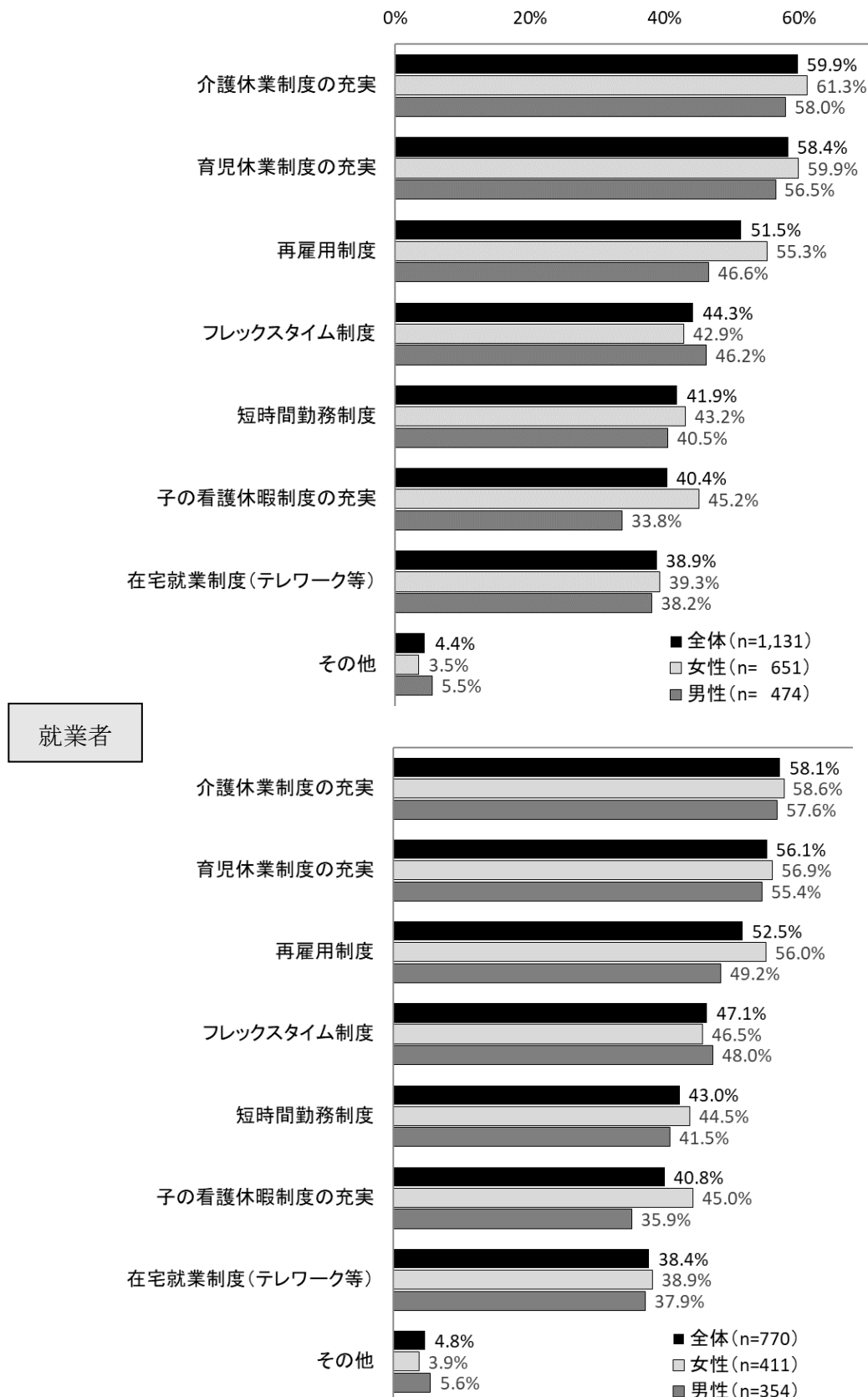
就業者



制度の整備について

「介護休業制度の充実」が59.9%と最も高く、次いで「育児休業制度の充実」が58.4%となっています。「その他」としては、「不妊不育の制度、通院と仕事の両立が重要である」などの回答がありました。

就業者に限ってみても、全体の傾向とほぼ同様となっています。



子育て支援等について

「認可保育所・認定こども園の増加」が53.4%と最も高く、次いで「育児休業・介護休業中の賃金その他経済的保障の充実」が50.9%となっています。「その他」としては、「保育士の給与など待遇改善が必要ではないか」などの回答がありました。

就業者に限ってみても、全体の傾向とほぼ同様となっています。

